川柳塔

平成二十八年一月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一〇六四号

日川協加盟

同人特集・私の一句

No.1064

一月号

第四回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第四回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題二句　共選）

課題吟　「包　む」　政岡　日枝子（川柳塔社）
川上　大輪（川柳塔社）

「重　い」　菱木　誠（番傘川柳本社）
新家　完司（川柳塔社）

雑　詠　赤井　花城（ふあうすと川柳社）
小島　蘭幸（川柳塔社）

投句要領　規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料　一〇〇〇円（切手は不可）

投句締切　**平成二十八年二月二十日（金）消印有効**

送付先　〒543－0052
大阪市天王寺区大道一－一四－一七－二〇一
川柳塔社　誌上大会係　宛
TEL／FAX（〇六）六七七九－三四九〇

賞及び発表　各題秀句に賞呈　発表は川柳塔誌五月号誌上
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

信頼され、社会に役立つ製品を作る

高級封筒専業メーカー

コーキ封筒株式会社

本　　社　富田林市若松町東３丁目７番８号　〒584－0023
TEL 0721－25－7210　FAX 0721－25－9484
東京営業所　東京都中央区日本橋本石町４丁目５番８号　〒103－0021
（日本橋川村ビル４F）
TEL 03－5255－5158　FAX 03－5255－5159
http://www.koki-envelope.com

枯淡の境地

小島　蘭幸

謹んで新年のおよろこびを申し上げます。本年が皆様にとって穏やかな年でありますように心からお祈り申し上げます。

昨年八月、路郎先生のふるさと尾道の文化協会から、総合誌「尾道文化」への執筆の依頼がありました。三回目となる今回は、タイトルを「川柳塔」として、故人となられました歴代の川柳塔社主幹のエピソードと作品を22句ずつ紹介させて頂きました。その中に、賀状、元日を詠んだ作品がありましたので、ここに紹介させて頂きます。

賀状さかなに元日の朝の酒　　中島生々庵
命の恩人へいつしか賀状だけとなり　西尾　栞
お元日老醜枯淡紙一重　　橘高　薫風

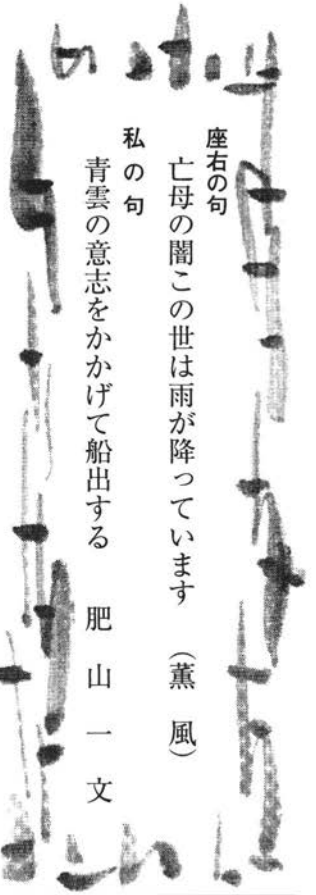
薫風先生の〝老醜枯淡〟には、ハッとさせられました。と言いますのは、昨年の三月にＮＨＫひるまえ川柳に出演して以来、テレビに映る自分の容姿が気になって仕方がなくなっていたのです。それまでの私は容姿をほとんど気にしてなかったのにです。

背伸びするあなたに見つめられたくて　　土井　雅子

ひるまえ川柳「恋」の入選句です。私は次のように解説しました。

…「背伸びする」に女ごころがギュッと凝縮されています。でも実力以上は出さない方が良いと思います。実力以上を出すと次からがしんどいのです。素がいいのです…。

そうです素がいいと人には言っているのに、自分自身は知らず知らずのうちに背伸びをしていたのです。ここまで書いて、老醜か枯淡かは、心の持ち方一つだという事に気が付きました。そこで生々庵先生と栞先生の作品をもう一度じっくりと味わってみる事にしました。生々庵作品からは、家族の暖かい笑顔と楽しい会話が聞こえてくるようです。栞作品は、「命の恩人へ」とあえて破調にしたことで、言いたい事がより深く伝わってきます。それぞれ枯淡の境地から生まれたのだと私は思います。枯淡の境地には、程遠い私ですが、今年も大いに川柳の旅を楽しみたいと思います。



座右の句

亡母の闇この世は雨が降っています　（薫　風）

私の句

青雲の意志をかかげて船出する　肥　山　一　文

川柳塔　一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田　尋「申」

■巻頭言　枯淡の境地……小島蘭幸…(1)
川柳の大家　葛飾北斎……川上大輪…(2)
川柳塔（同人吟）……小島蘭幸選…(4)
新川柳鑑賞㊼……麻生路郎…(43)
自選集……(44)
温故知新……(47)
川柳塔の川柳讃歌㉝……木津川　計…(48)
橘高薫風句抄……(49)
水煙抄……川上大輪選…(50)
英語 de Senryu㊾……吉村侑久代…(71)
誹風柳多留一二篇研究 31……(72)
民族の詩歌㊸……三好専平…(74)
デザインと絵画……平本勝彦…(75)
愛染帖……新家完司選…(76)

川柳の大家　葛飾北斎

川上大輪

竹久夢二や吉川英治は川柳作家でもありましたが、葛飾北斎もまた川柳の大家であった。ということは意外にも知られていないようです。

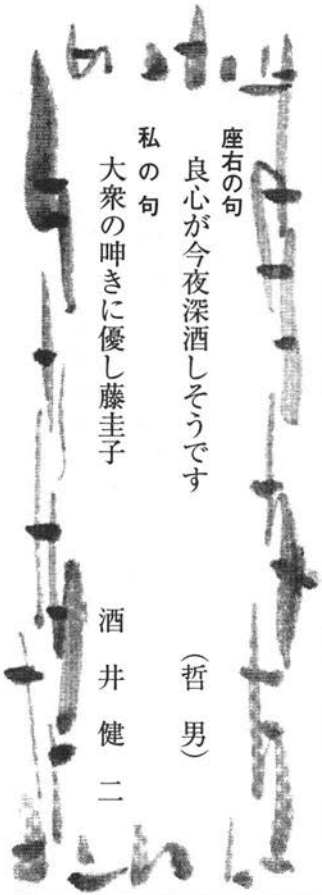
北斎は世界的にも有名な、誰もが知っている浮世絵師ですが、実は『誹風柳多留』八十五篇の撰者でもあり、その序文も書いているのです。

『誹風柳多留』は初代柄井川柳の没後も代々受け継がれ、一六七篇まで刊行されています。（俗にいう「柳多留」は川柳評の二十四篇までをいいます。）

北斎が活躍したのは四世川柳眠亭賤丸（しずまる）〔本名人見周助〕の時代で代表的な号は卍、他に可候（まろべく）万治、萬治、万字、などで『誹風柳多留』の中に三百五十有余の句が掲載されているようです。

長野県の渋温泉の街中には『誹風柳多留』に掲載されている北斎「卍」の句一八二句と没後までの五句を加えて、一句ずつ石に刻み、更に八十五篇の序文の

檸檬抄「ピンク」……三浦強一・長浜美籠共選…(80)
「巡る」……海老池洋選…(83)
一路集「手柄」……鴨谷瑠美子選…(84)
「アピール」……金川宣子選…(85)
初歩教室「記憶」……山口光久…(86)
川柳塔鑑賞……前たもつ…(88)
インスピレーション・ナビ 印象吟……大西泰世…(90)
水煙抄鑑賞……島ひかる…(92)
同人特集 私の一句……(93)
十二月本社句会……岩崎眞里子…(106)
句会燦燦……(102)
各地柳壇(佳句地十選/鈴木いさお・安土理恵)……(107)
十二月各地句会案内……(120)
柳界展望……(122)
せんりゅう飛行船 ⑥1……新家完司…(124)
■編集後記(ひとこと/内藤憲彦)……朱夏・まつお…(158)



座右の句

良心が今夜深酒しそうです　(哲男)

私の句

大衆の呻きに優し藤圭子　酒井健二

碑が建てられているとのことです。

昭和五十七年に発行された『卍北斎川柳』(著者、宿六心配。発行所、渋温泉旅館組合)から句意の分かりやすい卍の句をいくつか紹介しておきます。

大切な屎を見に来る小児医者
我ながらくさめを笑う鏡磨キ
振袖と羽織を吠る村の犬
蜻蛉ハ石の地蔵に髪を結ひ
七日には逃れ八日につるされる
帰依佛と悟らで作る雪達磨
田毎田毎月に蓋する薄氷

北斎が「卍」の号で登場したのは文政七年、六十六歳の時から没年九十歳まで画のほうに卍が登場するのは、この十年後と思われています。

北斎が活躍したのは「狂句の時代」ですが、その序文から川柳に対する姿勢はいい加減なものではなく確固たる信念を持って取り組んでいたことが窺えます。

世界的な絵の陰に隠れて、川柳の大家だったということを忘れがちになりますが、一方では生涯に九十三度も転居したという奇行も面白い話です。

川柳塔

小島蘭幸選

藤井寺市　鴨谷　瑠美子

友が来た今日は祭りの日としよう
デパートにあるオアシスでいもうとと
セピア色に亡姉はならない白い薔薇
猫舌の夫を信じているのです
絵の中に昔愛したひとがいる
狂い咲きしたのに誰も見にこない

米子市　竹村　紀の治

緞帳が下りても続くひとり舞い
アナログの尻尾が邪魔になってきた
ぼんやりと聞こえて来ます海ゆかば
敬老の日だけ老人らしくする
顔見知り探すタクシー待ちの列
呑み出せばブレーキ甘くなる傘寿

桜井市　安土　理恵

いもうとを見舞う吉野の富有柿
聞かないで今は言いたくないのです
桜もみじ裏切りなんて知らないわ
左脳から詩を奪っていくあいつ
長生きはしたいけれどもしかしなあ
終点です情け容赦のない電車

河内長野市　山岡　冨美子

幸せの定位置にいる赤い薔薇
見える物よりも見えないものを追う
誤作動がふえる私の液状化
電飾のかげで小さな募金の灯
怪談の一つマンションが傾く
伝説になろうとアスリートは翔ける

大阪市　谷口　義

ネガティブな猫に振り回されている
家族葬らしいと猫が聞いてくる
なめたらあかんでとアメリカンショートヘア
誤字脱字ぼんやりとした猫が好き
お茶でも飲んでいきませんか隣の猫
おばあさんに抱かれて不本意な猫

大阪市　古今堂　蕉子

酒飲みの妻で塩辛上手くなり
真央チャンとわたし現役復帰する
耳の中謀叛起している気配
高野山合祀に名を借り紅葉狩り
お祖母ちゃん遊びましょと孫が来る
死ぬ日まで生きるしたたかに生きる

弘前市　髙瀬霜石

生きのびるために油をちょっと差す
猛毒にご注意 おもしろい話
肩書きはやっぱり重いものである
団塊の世代図書館好きである
くしゃみして消えた本屋とレコード屋
春夏秋冬 冬まで辿り着けば○

京都市　高島啓子

ひとまわり小さい秋の揚羽蝶
兄の忌と父の忌がある十二月
針の穴　人許すのはむつかしい
飴ふたつ食べきったころバスが来る
ナイロンのハタキで撫でておく掃除
藁足して縄綯うようにまだ生きる

和歌山市　古久保和子

発芽した夢へたっぷり水をやる
散り敷いて銀杏黄金の花道に
豚マンを買って今夜はよく冷える
後期高齢どんぐりの独楽よく回る
傾いた影はドッコイショと直す
ご当地の訛りも食べる蕎麦の味

唐津市　坂本蜂朗

五十年妻は根を張り枝伸ばし
物忘れアッハッハッと笑う妻
妻の目に指図をされるバイキング
マスクした女性の会釈落ち付かず
茶柱をぐいと飲み込みさあ行くぞ
いい酒だ薄桃色に皆染まる

篠山市　酒井真由

男一匹ひょいと句会をたちあげる
つながっていたいお方と助走中
深い愛じんじん火傷しそうなり
あの世でも走りつづけているメロス
私は古い人間です　かしこ
ゴールインまでの秘めたるものがたり

松江市　石橋芳山

遊び方多角形にて休みの日
ヨーロッパ見たくてハルカスに登る
眠れないキリンが星を食べている
瘡蓋の下にジクジクしたピエロ
異議ありとタバスコが手を上げる
つり革にぶら下がってるのは不純

札幌市　三浦強一

神様も新酒の出来にご満悦
大吟醸コップで飲むは不謹慎
エリートは知らず屋台の酒の味
一日の反省をする酒を酌む
居酒屋の雑学にある生きる知恵
居酒屋で元気満タンして帰る

西宮市　亀岡哲子

ころころと変るわたしの自分流
ありのままのわたしはとても見せられぬ
お手本にするならやはり猫ですか
自慢話嫁のことならいいですか
息子らの職場見学してみたい
心臓破りの坂が我が家の前にある

鳥取県　細田裕花

自転車を飛ばして秋のど真ん中
ありがとうヒット一本土産なり
おすすめと書いてある種まいてみる
嫌われるアワダチ草は可燃ゴミ
紅葉降るラストダンスはお日様と
県境のあたりで冬の入り口に

神戸市　松井文香

良い年の始まり賀状出せました
豊作の藁で作れたしめ飾り
万両の赤い実くれる勝負運
炎の輪抜けて確信もてた愛
大切さ気付いてくれた妻の留守
傷癒えてやる気スイッチオンにする

富田林市　中崎深雪

秋深し我が障害もだんだんと
優しさと勇気をもらう患者会
輝いているなテレビの車椅子
かさかさと落ち葉踏みしめ秋を聴く
どんぐりコロコロわたしも丸くなる
吾もまたかくあれ夕映えの紅葉

藤井寺市　太田扶美代

さすが秋体重少し増えました
読み返す本から秋が深くなる
空蝉よ何かいい事あったかい
句読点は萩のこぼれているページ
勇気だろう枝からひらり落つ木の葉
うつらうつら金木犀の香が包む

和歌山市　上田紀子

品格もきっちり吟味するディナー
人様に番号付けて日本籍
何があろうと真実たったひとつだけ
人生いろいろ肝心なのは想いやり
ひばり節独りしんみり聞く夜長
パセリのような役どころだと弁える

鳥取県　石谷　美恵子

赤ちゃんの百面相よ愛しさよ
皿に盛る愛という字のかくし味
新聞をゆっくりと読むティータイム
ビールの泡へ散る花びらはビール好き
やりくりに泣いてる筈の妻が肥え

鳥取県　岩崎　和子

秋冷に猫の温みにいやされる
ふんわりの枕八十路の町祝い
今夜また祝い枕で夢を見る
灯油缶並ぶと秋も深くなる
皿盛りのみかんワイワイ卓の上

鳥取県　斉尾　くにこ

慰めているが慰められている
言葉使いの美しさ七難隠す
試練という石があるから浮きあがる
一目を置くと視線はすれちがう
敗北は紙フーセンにして空へ

鳥取県　竹信　照彦

取材に来た記者が天位を取る句会
嫋嫋と孫のフルート泣くように
わが鼓笛鍬が畑を打っている
紅葉にも過疎にも会った三徳山
悩みごとあればあるほど句が生まれ

鳥取県　鳥越　鬼一

過疎の村フクシの車目立ちます
オーイと呼べばハーイと応える嬉しさよ
嬉しい事があると財布が緩む
戦争を連想させる自衛権
両隣り老老介護冬が来る

鳥取県　西谷　悦子

過去のページを繰って浸る楽しさよ
貯めるのではない断捨離が下手である
個室あって家がまーるく回ってる
五十年かみ合わぬことそのまんま
人許すやさしさ我に返りくる

鳥取県　松川　行男

あの頃の母は陰膳兄のため
朝ドラを予約したのかもう忘れ
くもの網私支える力聞く
手術にも一人決めれぬ同伴だ
枯れ落葉一枚きりのくもの網

鳥取県　山下　節子

断捨離をすると昔が消えていく
駄々ける子騙しだまして手懐ける
昔の歯よりきれいです今入れ歯
ポリープをあちこち探す内視鏡
もう少し踏んばりなさい秋の空

鳥取市　池澤大鯰

神々も集いをすればお酒召す
正月だまた一年を生き伸びた
賀につらなり出費ががさむ歳の明け
面倒で素っぴんでいる大鯰
素寒貧かけひきできず口下手だ

鳥取市　加藤茶人

根回しは妻が後で糸を引く
迷惑は掛けたくないよ尊厳死
世話になる子に長生きと言う不幸
肝心な時に何かと妻は留守
カレンダー医師の予約で塗りつぶし

鳥取市　岸本孝子

二幕目は二人が主役孫育て
表札が賑やかなころ華だった
同居して今では姑が折れる役
お互いが添え木になって八十路旅
子だくさん昭和の母は強かった

鳥取市　岸本宏章

ハンガーに明日の姿を予約する
遊ぶ子のない公園の草を刈る
川柳に相田みつをの字が似合う
年金が減った分だけごみも減り
杭打ちの手抜きは一人ではできぬ

鳥取市　倉益一瑤

神が鈴振ったか友は風になり
朋友が現れそうな茜雲
赤い羽根つけて私も一市民
老いの恋ポリープ出来てすぐに消え
挫折した数のやさしさ持っている

鳥取市　鈴木一弘

逃げ道は老人ホーム籠の鳥
老独居自炊三食せきのやま
七十年無事にやりくりありがとう
生きざまにたえず信号千の風
名残り節石に刻んで世を惜しみ

鳥取市　谷口回春子

無駄口の中にぽつんと神の声
母慕う心はなぜか歳取らぬ
手古摺らす孫のやんちゃに目を細め
愛らしい所作が心を独り占め
別居してやっとわかった妻の愛

鳥取市　棚田大

わめく子も名月観たら落ち着いた
安保法案孫も問い出し引き締める
別居にも善悪起こりややこしや
あふれる句しんどい世間明るくす
側近がメールにはまり俺を無視

鳥取市　夏目一粋

にんげんをやめたい朝も歯を磨く
古時計なのに今でも狂わない
聖徳太子のお札は使わない
生きのこる術を雑草から学ぶ
叱ったり怒ったり出来たらいいな

鳥取市　永原昌鼓

ありがたい変わりないかと電話来る
誰とでもコンビを組めるマヨネーズ
夢の夢一人息子の晴れ姿
弱いのは足腰頭腕っぷし
病苦から解かれ穏やかデスマスク

鳥取市　中村金祥

新年へ没句いっぱい産む覚悟
心配だうちの家にも杭がある
力士の手柔らかくって亡母想う
憂国へ二人目産めと国が言う
俺がこけ女房もこける古希の坂

鳥取市　西川和子

腹立ちを五七五にして治め
生きているついでに貰う苦も楽も
成行きのついで二人の飯を炊く
失敗のついでに出来た新メニュー
生まれ出たついで八十年も生き

鳥取市　春木圭一郎

丙申今年は何かありそうな
反省の仕方を猿に学びたい
猿カニに仲良くできるコツ学ぶ
賢明に遠く三猿にはなれぬ
にんげんは猿より進化してるのか

鳥取市　平尾菜美

剥き出しの自慢笑いの種にする
趣味仕事たがいのバネになりすます
車座の空気仲間が弾み出す
対岸の絆をはこぶ舟に会う
受け応え極め長生きするつもり

鳥取市　前田楓花

初冬には高倉健を思い出す
母の部屋整理しました弟と
見慣れたら普通の顔だ悪くない
打ち明けるよき友がいて猫がいて
勝負の日アイラインは燃えている

鳥取市　森山盛桜

どうにでもなる風呂敷の自在性
晩酌か自棄酒かもう分からない
磨ぎ汁を捨てるだけでは能がない
枝ポトリ我が身の末路かも知れぬ
砂の自負砂像の土台にも見える

鳥取市　山下凱柳

ボランティアでせめて社会へ恩返し
鏡見てふっと溜息老い自覚
意外性あるから人世面白い
百二歳なったお袋家宝です
夢をまだ追ってるうちはボケられぬ

鳥取市　吉田孔美子

裸も裸足も自由のおまけだな
独立が五十歳応援するよ
町内の見合相手も未だのよう
案じてる独りの終い方ばかり
カラオケに割り込んで来る無礼者

鳥取市　吉田弘子

気分では今老春の折り返し
息子より肌合う婿に頼みごと
その時はきっと裸足で飛んで出る
自己満足A型なのでざっくばらん
片隅が定位置ですとおとなしい

鳥取市　両川無限

僕にしか聞けぬ心の声がある
結び目をゆるめて風を入れ替える
老いふたり珍道中がまだ続く
終活へ結び直している絆
大声を出しているかも知れぬ蟻

倉吉市　猪川由美子

純か鈍か深読みせずでジワリ来る
マイナンバー届かぬうちに詐欺に遭う
死去後にはフィギュアを作り懐かしむ
ハロウイーンだんだん市民権を得る
寂聴尼凄いパワーだ九十三で

倉吉市　山中康子

舞台から拝むお客は神さまだ
わたくしを殺せば生きてくる舞台
よく折れた辛かったネと撫でてやる
肌に合う辞書がわたしを離さない
色白で化粧もしない嫁に妬く

米子市　後藤美恵子

松茸は鼻で味わうだけにする
お婆さんと若い従兄弟に呼ばれだす
ありがたい空気の読めるひとが居て
まだ温い亡夫の掛けた庭の石
火花散る文学論に夜が更ける

米子市　中原章子

大吟醸もったい振って軽く注ぐ
ぷっつんと何もやりたくない気分
似てる人見るとドキドキしてしまう
花回廊サルビアの赤天高し
繋がりを持つありがとう口に出す

米子市　成田雨奇

同期生香水を振りディケアに
近う寄れもっと聞こうぞほめ言葉
レシートは数字だらけでつまらない
ドキドキとしながら句誌を待っている
工夫して今を楽しむほかはない

米子市　吉田陽子

恙無く老いたユーモラスになった
現在地見覚えのない皺がある
なで肩の現状維持は変らない
お不動さまに抗議をしても始まらぬ
遺伝子のちょっといいとこ魚好き

島根県　伊藤寿美

滔々と胸を流れる亡父の喝
怖怖と覗く十五歳（じゅうご）のドアチェーン
生きてきた証の皺だかくさない
ブラタモリ見て陽水を聴いている
退院を亡夫に告げる独りの灯

松江市　小川注湖

故郷を思うと笛の秋祭り
安倍首相外遊配る日本円
エリートも人の子金に惑わされ
マイナンバー財布の中であくびする
手を取ってときめいた日が遠くなり

松江市　川本畔

ジオラマに畑を耕やす父を見た
一握の零余子差し出す山の子等
太陽を浴びたキャベツに嘘は無い
鍵束の中に女の鍵がある
愛も恋もみんなフーフー芋食べる

松江市　藤井寿代

口笛を吹いて仲間にしてもらう
不揃いのりんごが津軽弁話す
初恋の魔法は今も効いている
平凡に飽き悪い事しています
抱きしめられて一人ぼっちでいるような

松江市　松本知恵子

香り立つ菊展も良し松江城
宍道湖の小波きらきらお茶してる
柚ジャムを作る山陰冬近い
炉燵出し穴子のように動けない
蓋付きの器がずれていた不覚

松江市　松本文子

枯葉散る　いい人生だったのか
世が世ならと呟やいているカラス達
犯人は狸へへへと振り返る
70年日本の屋根はぼろぼろだ
あっちこっち声がかかって進めない

窓際でまだ頼られる知恵袋
朝ドラの「あさ」に似ている好奇心
「電話よ」と気転の芝居嫁救う
山粧う神は素敵なアーチスト
山海の味に命が笑う秋

出雲市　伊藤玲子

人生は成るようになる波の音
エプロンも祭りの酒に酔っている
みかんむく手からしずかに冬が来る
物言わぬ日にもポットの湯は熱く
海に降る雨はそのまま海になる

出雲市　岸桂子

佳い年へ祈りをこめる鏡餅
三兄弟遊び上手な新春の声
土に生き詩に生かされ来た米寿
寒鮒で交す農家の新春こたつ
ひい孫の名前もつれるお年玉

出雲市　小白金房子

金婚の賀やっと歩幅が合って来た
下手でいい手書きの賀状あたたかい
新米の香りに会話弾み出す
人間が多くて穴を出られ無い
七十年生きた器の浅いこと

出雲市　多久和敬子

どう見ても仕種立派な古稀となる
子と遊ぶことも忘れた宮の森
世の中の好きも嫌いも女偏
日本一美肌の県の持つ自虐
ブームから文化の途中揺れている

出雲市　竹治ちかし

電源が切れて文明利器ならず
健康維持くすりの数で今日を生き
一円の差が大きいぞ円レート
マネーゲーム原油は安くなって欲し
素人の恐さ名器を逆に持ち

雲南市　松本昌

甚平鮫仰ぎ見ている海遊館
想定外緑内障も難聴も
居酒屋のいつもの席に敵がいる
お供えのご飯のり茶漬けで食べる
全没の憂さ木刀を買ってくる

岡山市　丹下凱夫

おしゃまな子カメラポーズは五郎丸
類を呼ぶ妻の仲間はよく笑う
夢ばかり追って私は昏れる
失態は笑ってもらうと救われる
せかせかと歩くと母を思い出す

広島市　岸本清

竹原市　石原淑子

南天のたわわに初日輝やける
感動も動揺もうすらいできた不安
お喋りに泪出るほど笑い合う
飛行場のコーヒーにある解放感
障害に寄り添う母の祈りの掌

竹原市　岩本笑子

秋祭今年もハンディ持つ子等と
グーチョキパー風は明日も吹いてくる
足早に歩く年金記帳して
時々は忘れてもいい薬飲む
神様も余所見していたころりんこ

府中市　藤岡ヒデコ

三十年前写真で解るその元気
アルバムを見れば当時が鮮やかに
早すぎる月日よ姉の三回忌
私にしか解らぬ大事なワタシ事
心配をすればきりの無い話

宇部市　平田実男

宗教は違うが仲が良い日本
まだ亡父の齢を越せないから死ねぬ
フルコース食べてようやく腹八分
錦飾れぬが故郷の温い風
血の絆なんてなかった遺産分け

東かがわ市　川崎ひかり

する事がないので五時に夕ごはん
天才はいないがみんな親思い
気が遠くなるほど生命食べてきた
ガン完治孫子が揃う春座敷
一キロで産まれた生命喜寿の春

松山市　古手川光

傾いたマンション建てた社も揺らぐ
人生の余白を思う年の暮れ
手綱捌きが上手い踊らすのが上手い
坂の上の雲で持ててる街に住む
安心して歩道この頃歩けない

大洲市　中居善信

絵にはなる山家に妻と住んでいる
お正月八十歳の数え年
この秋に三度もこけたのはショック
錯覚をしたまま五十年過ぎた
もう子らは帰りはしない墓掃除

西予市　黒田茂代

全快まで荒れた花壇に目をつむる
押しつぶしそうに西から黒雲が迫る
鍋物の季節石鎚山に雪
地味な小紋とつづれの帯でコンサート
笙の音が魂奪う魅惑の夜

高知市　小川てるみ

とびきりの笑顔は名刺代わりです
いい日だった空いっぱいの茜雲
働いた手だな厚くて骨太い
入学祝へヘソクリ貯めている
おふくろの味が恋しいワンルーム

高知県　小澤幸泉

キリストの生命に生きるとおい道
神に生かされ人を愛して主に召さる
ひたすらに学ぶ三年のペダル踏む
長生きができそう遺言書いている
自由さに慣れた社会がおそろしい

唐津市　山口高明

雲海の彼方世紀の陽が昇る
冷静にきけば不審なとこがある
酒のめばあの娘噛みつく癖がある
妬心抱く心の狭さ自己嫌悪
札束で埋める心算の珊瑚礁

熊本県　岩切康子

赤りんご昔の人が見えて来る
菊紋のお菓子戴きおそれ入る
絵修正一言貰う有難さ
部屋いっぱい拡げ作品出来上る
怪しんだ三回目のＭＲＩ

沖縄県　森山文切

狼狽えた眼鏡が鼻を踏み外す
電線を辿っていくと僕の家
リビングに僕の落とした肩がある
妻の愚痴フェットチーネに絡め食う
手の中に引きちぎられた糸がある

札幌市　小沢淳

毒になるころに美味しくなるお酒
近代化進み地球の嗚咽聞く
農業はＴＰＰＴＰＰと泣いている
頼み事天気になるの待ってする
分配も奇数に定規欲しくなる

青森県　松山芳生

がさがさの老いの心を癒す菊
割り切れないのか居座るオノマトペ
まだ生きられる肩のちからを抜いて
僕を無口にさせるどっきりカメラ
サキソホォンの響き同化する夜霧

黒石市　相馬一花

開発の道に可憐な花が咲く
高齢になって夢見る浪漫派
おとなしい人は中中音を上げぬ
魔術師もかなわぬ雛の育て方
いつ見ても微笑んでいる大詐欺師

弘前市　浅田隆樹

一合の枡に溢れた酒の味
酒を飲む習慣後悔する習慣
夕焼けに明日の畑の手順聞く
北国に住む幸せの菊茹でる
諦めるスッとストレス消えていく

弘前市　岡本花匠

戦後七十年行幸多く感極む
食育の道理したがう米寿坂
もったいない昂じあわれな粗大ゴミ
ねんごろの祈りに満ちる初日の出
愚痴の闇捨てて明るい道開く

弘前市　稲見則彦

街角で渦を巻いてるスマホ族
三下り半書いてみたいと妻が言う
歯がゆくて口だす手だす爺と婆
生徒手帳違反事項が吹き溜まる
違反切符回数券でどうかしら

弘前市　今愁女

蟷螂が玻璃戸にしがみ秋は逝く
日々熟れる紅いりんごも親ばなれ
秋夜長積ん読ひとつ繙かん
購うた値の三倍籐椅子直って来
偶の針箱裾上げをするスラックス

弘前市　須郷井蛙

階段が今日の元気のバロメーター
どの部屋もみんな知ってるお猫ちゃん
武家屋敷なんと不便な台所
三ヶ日留守電にする茶がうまし
年賀状しっかり俺は生きている

弘前市　髙橋洋子

年輪が歪になっていく老化
暇人は天気予報で予定組み
なーるほどこれも老いかと試着室
長所にも短所にもなる一徹さ
父の背な見る度老いて手術痕

弘前市　福士慕情

健診で異常なかった認知症
ガン告知百戦錬磨も狼狽える
近親者だけの葬儀に義理を欠く
雨足が激しくなって酒追加
運の良いりんご献上品になる

さいたま市　星野育子

不揃いのりんごが見せる自尊心
二次会で先を越された歌十八番
おいそれと山は動かぬものと知る
参加数より大事感動の数
樹木葬枯木に花を咲かせます

東京都　川本真理子

枯葉に追い越され寂しさに追いつかれ
北風と都会の寒さ迎え撃つ
空のビン人それぞれに詰めるもの
空を見て靴先を見て考える
月のぼり私はまだここにいる

東京都　まえで とよこ

小さい秋コスモスうたうプランター
ガラス戸にスーパームーン貼りついた
眼からさきに老いてゆくらし眼鏡ふむ
ふりむけばとおのむかしに下流です
いつの日か帰りたいとぞ難民は

横浜市　菊地政勝

妻に背を押されやる気が湧いてくる
節くれた指やることはやってきた
来るはずのない追い風を待つ八十路
違う目でよくよく見れば不要品
足腰の痛い同士が長話

富山市　島ひかる

まだチャンス見当らないでいるピンチ
妹の訃報を受ける午前二時
レンビマの負けか妹ゆく彼岸
三ヶ月前は登山をしてたのに
前向きに走りつづけて逝った古稀

可児市　板山まみ子

交通費ホテルチケットあゝ痛い
しなやかに若さ溢れる五嶋龍
オシャレしたオバサマも聴く五嶋龍
何処までも聴きに飛んでく五嶋龍
挑戦をする気持だけ若くなり

犬山市　金子美千代

せかさないで頭の回路繋ぐまで
晩秋のかまきり静かなる余生
アスリートに現状維持はない強気
ドンピシャの紅葉ツアー運のよさ
疲れないように一日一仕事

犬山市　関本かつ子

ボーナスが出た顔で来る店の客
窓明かりパパの大きな笑い声
部屋割りも鼾仲間と酒仲間
ワンランク上げて松茸宿の膳
青空を降参させる紅葉山

愛知県　早川遡行

確りとした足取りで喜寿迎え
財布も頭も中味が問題だ
密葬で済ませと遺書に書いておく
ぽっと出にいじめのような地下迷路
齢の所為とぼけた会話多くなり

京都市　桝本宏子

手作りは薄味に炊く塩昆布
雨の日は顔も作らず人嫌い
頭ズキズキがんがん生きている証
杖にする丈夫が大事傘えらび
五十回忌他人ばかりで盛り上がる

京都市　三宅満子

目標はオリンピックを見るつもり
良く出来た嫁のケアーで百までも
夫留守焼き松茸でひとり酒
観光客増えて名刹俗化する
日替りで痛いところが増えてくる

長岡京市　山田葉子

ネットで手配するから物を買いすぎる
言葉尻拾い上げたらきりがない
映画の余韻ひたるまもなくおかず買う
任せといてこじれる前にしゃしゃり出る
どっしりと富士山活火山なんて

八幡市　今井万紗子

遊びどき今が絶頂かもしれぬ
夢さがし下見に行くかケアハウス
まだひとり赤いハンカチもて遊ぶ
年重ねドンブラコッコ小舟出す
愚痴小言さらり忘れて笑い合う

大阪府　桑田ゆきの

名刹の落葉の嵩も一景に
村芝居役者に握手されている
畑仕事日焼けの顔に皺が増え
マイナンバー配られ本当にややこしい
脳測定まだ三十と聞き嬉し

大阪府　野田栄呼

少子化のせいか祭の音淋し
終章に向けて仲良い老夫婦
自転車にすいすい乗った日は遠い
姑の齢ただ超えている親孝行
思い出をたぐり寄せてる昭和歌

大阪府　籾山隆盛

慶びを分かち合ってる初光
趣味一つ高じて芸に登りつめ
枯れるもの枯れ切ってこそ冬景色
切り株に座れば遠い日が走る
独酌にふける空想無限大

大阪府　米澤俶子

ひと言の優しさ意地が崩れ出す
今ここに生きている自分が不思議
その時が来るまで暫くは内緒
メモ取った記憶はあるがメモが無い
行ける時に行ってよかった兵馬俑

大阪市　池上清治

かに料理並べば孫の顔ゆるみ
料理運ぶ嫁観音の顔に見え
チケットがとれて電話に頭下げ
直美から寛美の顔が滲み出る
風呂上がりサイダをもらう祖母の笑み

大阪市　井丸昌紀

偶然のひとつひとつに訳がある
根暗だと悟らせぬよう高笑い
僕が笑うと写真がぶれる
老いることできぬ哀れなサザエさん
九条の意味も知らずにデモ参加

大阪市　宇都満知子

同窓会タイムスリップで十八
かしましく女五人の同い歳
暗黙で自慢話はでてこない
予定表次に会う日を決めておく
あたたかいみんなの笑顔刻んどく

大阪市　内田志津子

はてさてと考え抜いて今がある
間のもてる近さ遠さでお付き合い
同窓会シャボン玉がひとつ増え
両陛下パラオの御霊鎮めんと
美形良しまあるいお顔更に良し

大阪市　江島谷勝弘

昔はねまけてくれてた八百屋さん
気力も必要ですがまずお金
しゃかりきはイヤ嫌われてもマイペース
B4もB5も粘り健在だ
文明は進むが悪も進みよる

大阪市　榎本日の出

三猿はとても出来ないこのわたし
ありがとう聞いてるだけで美しい
年金が破産しないか心配だ
恐い夢自分の声に起こされる
寺参りばかり続いてけがをする

大阪市　榎本舞夢

八十路越え周囲の空気変り出す
朝が来て今日の予定を確認す
奇遇とは長生きしてる御陰です
五郎丸青春時代を思い出す
秋日和野点供するこの至福

大阪市　大川桃花

自転車に乗れば亡母の鈴の音
地球規模で広がる恐怖テロリスト
古賀メロディーきけば胸キュン父偲ぶ
隼人瓜遠い日の伯母ふと思う
問診書いちゃいちゃと書く老夫婦

医者いらぬウツの特薬孫の声
仏にと生きた花切る白い指
痩せと言う肥満の医者が気にいらぬ
墓石も十年後にはマイナンバー
国のため孫や息子を送れるか

大阪市　奥村五月

友情と愛と笑顔の塔まつり
効く効く効く三回唱え薬飲む
マイナンバー制度説明聞いたけど
針仕事いいな心のマッサージ
温泉と馳走と会話秋日和

大阪市　笠嶋惠美

部屋の絵も良平にして秋静か
有頂天なって種まきどき忘れ
実篤のやさしい賛で人を待つ
何やかや言うても日本住みやすい
敵に背を見せて一本取られとく

大阪市　川端一歩

故郷の倉に歴史がまだ残る
嫁姑気くばりし合う台所
ぐち話聞かせに今日も墓参り
口惜しいが敵は自分の胸にあり
川柳は私の夢のオモチャ箱

大阪市　熊代菜月

パソコンの麻雀今日の運試し
清書して一晩寝かす投句箋
没句でもシュレッダーにはかけられず
歯を磨く毎朝同じ顔をして
喝采も賞罰もなし小市民

大阪市　小谷集一

安い方勧めて客は不思議そう
右ひだり決められなくて回り道
あるはずの物見当らず大掃除
元気よくボール投げする女の子
今日もまた昨日と同じミスをした

大阪市　坂裕之

品川の仮の住まいは一ＤＫ
交際費自由に遣う深夜族
年収は入社二〇年で俺の倍
気がかりは体調管理と喫煙だ
長男も此処まで来たら会社の子

大阪市　佐藤忠昭

こんがりと焼けたお餅は母似です
スローライフ時が優しい友となる
両陛下植樹をされる日本です
縁側でお茶の気楽なおもてなし
お互いに皺も褒め合う仲の良さ

大阪市　田浦實

大阪市　津村　志華子

三世代生きて寿ぐ初ひかり
梅酒ほろり幸せ気分ウッフッフ
忍の字をそっと心に伏せている
欲張って五輪まではと命乞い
文明に挑んでみたり挫けたり

大阪市　津守　なぎさ

小さい秋街中で見る曼珠沙華
食欲の秋山盛りの旅パンフ
青い空タマの飛ばない事祈る
誕生日独り住まいに届く花
紛争もどこ吹く風のハローウィン

大阪市　寺井　弘子

マイナンバーいつ届くかと待つ不安
美容院褒めねばならぬ妻帰る
野仏の野に咲く花に囲まれた
あたたかき弔辞に苦笑する遺影
肌が合う人と一献今日の幸

大阪市　寺本　実

生きているうちに下さい褒め言葉
弾む声きっと娘は恋してる
薄墨のハガキばかりが届く朝
不老不死ほんとになれば怖かろう
あの世から招待状がまだ来ない

大阪市　栃尾　奏子

純真無垢な元旦というページ
宝くじ外れいつものお正月
長生きは金で買えぬと叱られる
目が覚めて田舎の母を思い出す
ご無沙汰の故郷へ電話をかけておく

大阪市　原田　すみ子

握手する影が蹴り合う政治劇
当り前そうじゃなくなる日の恐怖
老いてゆく犬に現実見せられる
飛べぬけど一歩重ねて悔いは無い
労りの視線この頃交し合う

大阪市　板東　倫子

負の歴史未だに消えぬ神の国
若者に平和になった国托す
オスプレイ見て老人は警戒し
戦争をやっと語り出す九十歳
復興を叫べば増税と来る返事

大阪市　平嶋　美智子

家事一つ舌打ちしても捗らず
がむしゃらにやって疲れが倍になり
面倒は先送りして息をつく
見て聞いて話して人で居たいから
駆け落ちる陽に街頭の急ぎ足

大阪市　藤田武人

世の中の酸いも甘いも子に伝え
三両目いつもあの娘が乗ってくる
無人駅憩いの場所は一人掛け
鼻歌と演歌飛び交うバスルーム
カマキリが闘志露わに仁王立ち

大阪市　藤原千恵子

応募葉書きっと撥ねてる年齢で
ハルカスで飴はないかと恐怖症
夫外出これでいいかと服見せる
玄関ノブ見た事もない虫と会う
鈍臭い事を緩いとうまく言う

大阪市　伏見雅明

何にでも首突っ込んですぐ飽きる
商いのコツ旧仮名で壁に生き
うす暗い廊下に立たされた記憶
希望者を募れば惜しい人が辞め
泣きながらカメラ向けるとVサイン

大阪市　升成好

雨だれは石を固いと思わない
大掃除終えて空気のうまい部屋
代読という何の起伏もない祝辞
家計簿のドレスも靴も超安値
日に万歩お迎えの日を遠ざける

大阪市　松尾柳右子

夢かかげ寒さに負けぬ体力で
ウオークの出来ないひざの痛みあり
タイガース新監督に期待する
子等集い話が咲いたお正月
誕生日忘れず電話くれる子等

大阪市　山﨑君子

今日もまた皆のやさしさ嬉しくて
地図を見てああ台湾へ帰りたい
きず痛む家族みんなのやさしさよ
帰ろかね里のみんなに逢いたいね
友思うあの日のあの時楽しとき

大阪市　山本加お里

手を合わす心が和む朝の経
逢うたびに良いことあると友がいう
目立つものなんにもないが夢がある
正月の時だけ目立つ鏡餅
亡き義姉の笑顔にまたも起こされる

大阪市　吉内タカ子

タイミング合わす紅葉と競い合う
着物には思い出おおき捨てられず
身軽さで下手でも趣味は忙しい
自由な世老いて学びに恥を掻く
秋空に足を鍛えて世を学ぶ

大阪市　若本安代

蘆花公園明治の風にやっと会う
其処彼処シニアが集い笑い声
子沢山思わずママにありがとう
リフレッシュ歴史と景色学ぶ旅
ひらひらと紅葉銀杏と遊びます

堺市　奥時雄

ぎりぎりまで待って出せるか年賀状
服喪中はがきクリップから溢れ
おせち買いもうマンネリのお正月
植木鉢並べて敷地拡げおり
手を握り返されてからもう夢中

堺市　柿花和夫

仏との約束今日も守れない
天動説を信じた方が気楽です
古いのは憲法じゃないあなたでしょ
転勤はまたも地酒に慣れた頃
ケアハウスと墓地が身近になるチラシ

堺市　加島由一

天高し後は野となれ膝枕
なんとなく恋の予感のする天気
よく引けた眉があいつに逢いたがる
傾いているんだ恋をしてるんだ
七十二もなって好きな人がいる

堺市　源田八千代

ねぎらいの言葉に夫の目に涙
一生の労に報いるお葬式
喪主になり世帯主にもなる覚悟
悲しんでるいとまないほど諸事忙し
仏事から喪中ハガキに暮れる秋

堺市　齋藤さくら

七五三主役の孫が照れている
婆ちゃんも緊張してる写真館
どっこいしょ掃除洗濯現役だ
物忘れ年のせいだと笑われず
ママ内緒玩具をねだる孫可愛

堺市　澤井敏治

去年今年その一瞬のすきま風
核の世に地球の寿命考える
失ったのはこの音だ虎落笛
節目年生きる力の祝い酒
百歳の詩こころに残る哲学書

堺市　遠山唯教

生き方が八十路に入り上手くなり
赤とんぼ飛ぶ瀞峡に舟あそび
無器用な老いをふたりで乗り越える
内定にうれしい孫の涙声
おとうとの棺に語る妻哀し

ご慈愛の笑顔がステキ両陛下
こっそりを監視カメラが言いふらす
振り返りもみじを褒める渡月橋
ふわあっと自分に戻る慣れた椅子
楽しみがたっぷり有って呆けられぬ

堺市　内藤憲彦

一人きりなぜか思い出ほろ苦い
無邪気さにひととき痛み忘れ去り
考えてるポーズで寝息洩れてきた
念押すと首傾ける頼りなさ
もう少しだけどだんだん欲が出る

堺市　宮本かりん

もう昼かもう寝るのかと時進む
プロ野球オフで心が安らいだ
ラグビーに突如興味が湧いてきた
日本が強いスポーツなら好きだ
海外で日本が勝つと寝不足に

堺市　村上玄也

海馬へもよろしくと言う年始め
後期高齢恐い物ない顔しとく
つれなくは出来ぬ病名知ってから
わたしより娘が不安がる物忘れ
三世代食卓いつもバイキング

堺市　矢倉五月

湯呑み置く間合いも同じ丸い卓
いとおしむポーズでしみの手を包む
こおろぎも仲間入りして寝待月
ゆったりと寛ぐ亡母と差し向かい
ことわりも無しに老化が進んでる

堺市　山本半銭

昆布小梅ゆるり味わう大福茶
今年こそ少し変わりたいわたし
暖冬に慣れた暮らしに来た寒波
捨てたこと思い出すまで探し物
素っ気無い仕草ねそれこそが情け

池田市　栗田久子

野心家が胸に秘めてる辛い過去
ひとり旅の辛さを癒やしている足湯
生きている限り笑いを絶やさない
家宝です父親ドンと座る椅子
ブランドの服の出番のない八十路

和泉市　横山捷也

それなりの落ちもつきだす四コマ目
雑学のかけらであげるインテリ度
アルバムの染みに昭和が浮いて出る
広げても枠をはみ出すのも自由
桜ジャパン快挙に映えるルーティーン

茨木市　島田誠一

茨木市　藤井正雄

ここは押し男結びの自負で勝つ
ユーモアに理解乏しくなる加齢
星空に気苦労一つ減る幹事
つまずきを家族の絆救い合う
アニメ録画母に頼んで塾かばん

大阪狭山市　矢野梓

畳替えお客のように正座する
終止符は後一枚のカレンダー
よくもまあ次から次と出る偽装
聞き慣れぬ会社の電話身構える
ご馳走にブレーキ掛ける腹八分

貝塚市　石田ひろ子

命日を待ってたように咲いた菊
痛い事言われジョークで返してる
自分流に羽を広げて飛ぶ余生
老いの部屋椅子が大きな顔で居る
落ち込んだ時は思いっ切り食べる

岸和田市　雪本珠子

悩まない明日は別の風が吹く
アングルを変えたら視野が広くなり
好奇心わたしを旅に駆り立てる
欠点をカバー為合って五十年
病室で今日も夕日に癒される

岸和田市　岩佐ダン吉

何もかも時代のせいと言いますか
腕組はやめよう楽になりなさい
大勢に流れて僕が消えている
人ひと人私もその中のひとり
駄目押しのひとことだった空仰ぐ

河内長野市　植村喜代

お正月めでたいことの一つでも
楽なゴム入りズボンで医者にも行く
肩車見たのも最後娘婿
やれ行けそれ行け中国人の買出しだ
娘の病何をすれば助けられ

河内長野市　大島とも子

年頭は賽銭アップで幸願う
元旦も雨女には雨が降る
オニューの服待ち焦がれてたお正月
暗闇の中で自分が見えてくる
絶望を力に変えた子の寝顔

河内長野市　木見谷孝代

課税への抵抗が生む発泡酒
案外にひ弱に見えて芯がある
ピンク着て違う私が歩いてる
何故なぜの孫へはうやむやで逃げる
富士眺めゆったり三日リフレッシュ

河内長野市　梶原弘光

下戸やのに飲んだふりして3次会
何回も歩幅測ってミスパット
今迄は飲んで自転車乗ってたが
年上とこのごろ妙に息が合う
テープカットするが責任負わぬ方

河内長野市　黒岩靖博

安産で母子共元気メール来る
フルムーンパスでどっさり土産旅
別れると言ってた喧嘩うやむやに
爆買いにバッグ引きずる繁華街
気がつけばつるべ落としの様な日々

河内長野市　坂上淳司

新参の参政権に寄す期待
地方大の地味な研磨に陽が当たる
纏うもの脱ぎ捨て春へ冬木立
戦わぬ誇りを捨てて武器輸出
断捨離の青い背広を着る案山子

河内長野市　谷久美子

逆縁を悔いて自戒の坐禅組む
孫達に手加減された腕相撲
堪え抜いた顔に立派な深い皺
舞い上がる心を制し茶をすする
木洩れ日の森林浴に蘇る

河内長野市　辻村ヒロ

夏痩せを一度もせずに古希迎え
世間体迷う心に輪を掛ける
迷い道風の向うに母の顔
それなりに迷ってみるも楽しいよ
罪なこと言ってしまった口寂し

河内長野市　藤塚克三

メリハリが無くて単調日が長い
未完成だから生きてて面白い
熱心な墓地勧誘にまだ元気
年賀状一枚書いておーいお茶
診察後鼻歌交え車出す

河内長野市　松岡篤

冗談という前置きが恐ろしい
任せたら急成長の三代目
珍客が増えた何だか心配だ
初恋は千年あとも幕下りず
終着駅乗り越し同士苦笑い

河内長野市　村上直樹

平和ボケ弾は来ないと信じてる
あの世までマイナンバーで首に枷
楽天主義暗いニュースは斜め読み
断捨離の勇気黒髪切るごとく
折に触れ寝息確かめ合う安堵

河内長野市　山室光弘

十七字で大作つくる心意気
マイナンバー安保に隠れいつの間に
誰のせい年金減って増える税
両足が入りそうだよ孫の靴
歩幅変え自分見つめる遍路旅

四條畷市　吉岡修

才能はそこそこなのに運がない
アイドルが主役ベテラン芸ひかる
肩書きに副か代理かつきまとう
つつがなく妻の流儀で過ぎてゆく
夢一つ心の隅においてある

吹田市　太田昭

躓いた小石に会釈してしまう
日めくりを捲る暇なく除夜の鐘
好きなものから先に止めろとやぶ医者め
大切な事を忘れて老いてゆく
十年日記もう止めにした八十路越え

吹田市　大谷篤子

大丈夫と根拠はないが言い聞かす
明日へ飛ぶ心の翼いつも抱く
伝い歩き今の私の自慢です
物忘れ虫に喰われた箇所が増え
独り渡る橋の長さと骨粗鬆症

吹田市　木下敏子

窓ガラス拭いて気持ちがパッと晴れ
五七五頼りに開く電子辞書
倖せな日々が流れて五七五
鉛筆を削り明日の用意する
ぬるま湯に慣れてしまった指の先

吹田市　須磨活恵

すごいなー太陽の塔顔三つ
繰るほどに軋む日もある糸車
分相応弁えているカスミ草
現在地とても気楽な蚊帳の外
むずかしい話はごめん目玉焼

吹田市　野下之男

申年も元気で行こう気持ちよく
タレントの顔は覚えて名は忘れ
また見たいオリンピックだが見れるかな
百日草水やり母校なつかしい
スキップが駄目で僕だけ二周する

吹田市　山本希久子

傘寿生かされたくさんのありがとう
煩悩も執着もまだ持つ傘寿
九条を守ろう生者死者の声
少々の波には負けぬ鱗持つ
新しい年運命すべて受け容れる

金木犀薫る朝ださあ一歩
秋日和杖ついてでも歩こうよ
出囃子がいいねと落語聞いている
輪の中でひとりぽっちと思う日も
スローテンポいらいらしつつまたスロー

高石市　浅野房子

間一髪鳴いた雉にも運があり
ほどほどに医師も晩酌楽しまれ
若作りしても手の皺顔の皺
食欲旺盛じわじわ膝が痛くなる
スーパーの試食一度も食べてない

高槻市　井上照子

山男の歌を偲んできゅんとなり
無防備な旅もしました若かった
秋晴れに動物園へ友誘う
檻の中みんな淋しい目をしてる
秋日和猿の仲良し毛繕い

高槻市　指宿千枝子

気力喪失偉いお方に巻かれます
草にも命あろうと思いながら抜く
定食ランチ味の期待はしていない
おもてなし酒に任せたホスト役
感情線妻のは波を打っている

高槻市　片山かずお

苦労した積木を崩す嘘一つ
ありがとうの素敵な言葉また今日も
ビフテキと朗らかな胃にせがまれる
朗らかな人も意外ともつ悩み
玄関でスポット浴びてしゃんとする

高槻市　初代正彦

何事も慣れと夫がお茶入れる
なつかしい訛ふと立ち止まる耳
人間に憧れ媚を売る金魚
長寿社会素敵に歳を重ねたい
旅の靴いつもと違うリズム感

高槻市　島田千鶴子

九回の裏を残している余裕
恋人と迷ってみたい森がある
独りぼっちが怖くて歩幅合わせてる
真っ直ぐな意見が通る青い空
美しい女は的を外さない

高槻市　杉本義昭

そろそろと歩く八十路の丸いせな
まだまだと卒寿の足を踏みしめる
思いっきり走れば見えてくる明日
ちらかっているけどそのままにしとこ
座布団を枕に昼寝するこたつ

高槻市　左右田泰雄

高槻市　富田美義

どちらにも取れる笑顔も年の功
この俺の暇を笑うか千切れ雲
今日までの節目に会った運の数
再入院ナースの助言身に沁みて
身の丈を忘れ咲かそう老いの花

高槻市　富田保子

山の湯にコスモス咲いて同期会
へそくりをお尻に敷いて忘れてる
ねぎ刻む音より今朝もチンの音
哀しみは身より離れず秋来る
墓洗い亡き父母想い三回忌

高槻市　原洋志

別れてもトマトスープをまだ作り
秋刀魚焼く遠くに政治遊ばせて
七転び八起き化粧が厚くなる
ごくごくとビールで涙補充する
しわしわの自画像に足すヨーグルト

高槻市　安田忠子

晩秋に日傘さしたいこの暑さ
生石高原揺れる芒に癒される
浮き浮きと帰って来れば鍵が無い
障子紙に俳画を貼って悦に入る
ソプラノで話す娘の講義聞く

豊中市　池田純子

まがり角エイとハンドル切ってみた
お砂場で孫のお招き秋御膳
コスモスと一緒に揺れて母想う
三歳のお手々が婆のネジを巻く
爺婆もおはらい受けて七五三

豊中市　江見見清

人生のカウントはもうツースリー
過去の傷を力に今を生きていく
教科書の余白は大切なノート
スーパーが消した前垂れの商い
妻を呼ぶ今日のほっこり囲み記事

豊中市　藤井則彦

蠟燭の炎に透ける亡父の喝
三世代の訛り飛び交うお正月
分が悪いときには呆けたふりもする
どうしたの此頃見かけないスズメ
偶然の出会いが変えた我が余生

豊中市　松尾美智代

一期一会まつりの後の寂しさよ
枯葉舞う命の重さなど思う
赤まんまなつかしく摘む田舎道
ありし日の父の説教今わかる
大事にしようやさしい人といる暮し

鈍行の窓側私もう詩人
ボランティア朗読生かし紙芝居
読み終えて温もり残る湯呑み手に
窓に月やっと落款押せる書が
土壇場で男の強さみせつける

豊中市　松村里江

いろり火に集えば里はまだ昭和
今日あるを感謝しながら聞く鼓動
しじみ汁松江は朝に味がある
民族の誇りのひとつ持たぬ核
総理から銀盃を受け母百寿

豊中市　水野黒兎

ごめんなさいが言えて鏡が透きとおる
過去はみな美しいもの夕やける
どの角度から写しても真実ひとつ
嘘ひとつ置いて病院あとにする
人生はゲーム泣いた日笑った日

富田林市　片岡智恵子

天辺のたわわの秋に惚れてから
神農の笹で重さを愛でている
強かな尻尾が見えて仏画く
筆先がこだわっている梅の芯
豊穣はクリオネ連れて来た氷

富田林市　関よしみ

葦だから葦でありたい余生です
再会の親友(とも)とアルバム溯る
大根の白に丸ごと許される
つぎはぎの翼で昭和の生き残り
ゆっくりと背中の灰汁を洗う秋

富田林市　中井アキ

人間の森たけなわをよく笑う
空想に遊ぶ一人のロゼワイン
アドリブで一人芝居を演じきる
飲み込んだ言葉今頃飛んで出る
親と子で探すあの日の竹とんぼ

富田林市　中村惠

戦せぬ国の誇りはどこいった
電気代値上げばかりで努力なし
日本中坂本龍馬待っている
さっぱりとしがらみ捨てて生きていく
甘いのは孫と一緒に話すとき

富田林市　肥山一文

窓枠を額縁にして丸い月
ワンダフルスーパームーン風は秋
背にバット明日のイチロー漕ぐペダル
真ん中に小さな主役が居て平和
人間のご無沙汰埋める温い酒

富田林市　山野寿之

寝屋川市　冨山ルイ子

妹婿急に倒れて救急車
毎日の介護妹案じられ
内科医へ買物車一人行く
八十代無理の出来ない体かも
私でも役に立つことあるらしい

寝屋川市　平松かすみ

半寿です皇后様とご一緒に
一年の早さかけっこしています
私はメイク無しでもハロウィーン
じいちゃんの点検します腰のゴム
町内の独りがまたもケアホーム

寝屋川市　森茜

白壁に柿照り父母のいませし日
宗達の画 光悦の書奏で合う
ほろほろと紅萩こぼれて秋を尽くして
しっとりととろんと三時告げる居間
痛む背へおろおろやさしい目がたまる

羽曳野市　安芸田泰子

しあわせの尺度をかえて生きている
妥協して自分の色が消えて行く
大声を出したい時もある独り
再生紙昔のことは語らない
煩わしい話似合わぬ秋の空

羽曳野市　宇都宮ちづる

衣替え捨てる勇気を持つチャンス
おひとり様に慣れて世間が広くなる
玄関の鏡に笑顔見せて出る
喪のハガキ出すまで続く年賀状
終活をするほど残す物がない

羽曳野市　徳山みつこ

ああ無惨子は母さんを信じたに
淋しさを笑いに変換キーを押す
声が好き逢えたらもっと好きになる
亡夫にもカレンダーにもありがとう
松竹梅未知なることを楽しまん

羽曳野市　永田章司

坪庭も四季は自然と共に在る
風評は尾鰭を付けて無責任
広げたらたたみこめない国境
権力を広げる野望限りない
叱るのと怒るを区別つけぬ人

羽曳野市　藤原大子

天仰ぎ結論出したケセラセラ
順応という強さあり今日を生き
赤ん坊真剣な目で何思う
感情をぶつけ残った空虚感
尖ってる心鎮めと合掌す

羽曳野市　三好専平

主婦のカン戦争したらあきません
スーパーの秋刀魚鯖烏賊手が出ない
改竄も隠蔽の字もむずかしい
自彊術習う愚妻の太い腕
只管打坐お前はいつもあかんたれ

羽曳野市　吉村久仁雄

休む田へ錆びた農具が行きたがる
あと少し待てば追い風吹いたのに
家族割引その日は妻と仲がいい
肌合いが違った人に刺激受け
真面目に遊び楽しんで仕事する

東大阪市　北村賢子

ぬくもりを感じてこころ結ばれる
いってらっしゃいおかえり当り前の幸
生きるすべ明日の物差しに合わす
口に出せぬ思いがペンを走らせる
待つ人の居てあたたかい窓明り

東大阪市　佐々木満作

コスモスが人間模様映し出す
古里の秋の味覚に舌鼓
スカイビル昭和の街が地下にある
難民の映像贅沢な日本
生きること平凡であり難しい

枚方市　海老池洋

サヨナラの美学演じて散る紅葉
木枯らしに揺れる私も木守柿
独り身にこたえる冬の隙間風
主治医にも聴診器派とパソコン派
激怒する気力も萎えてきた老後

枚方市　小林わこ

自然は手品師四季の移ろい見せつける
百均グッズ使いしだいで優れもの
相棒と思われているがんばれる
酔っているね本音ポロポロ落ちてきた
腕白がくるとハラハラする人形

枚方市　伊達郁夫

レモンティー亭主が入れる妻の客
九条を斜めに読んでいる迷路
原発は無難とカボチャ欠伸する
崩れても影はしっかり楷書体
好きな娘が残業してるから残る

枚方市　丹後屋肇

ノーベル賞幼な馴染みの自慢顔
おしゃれして目を嚇やかす認知症
亡妻の声にきょとんとする寝呆け
年相応点滴横に車椅子
ストレスが溶けるなじみの呑み仲間

枚方市　寺川弘一

郷愁はファミレスで見るお子様ランチ
おおらかな凪になろうと座禅組む
千羽鶴飛翔する日はきっと来る
シナリオに想定外は書けません
マイナンバーが命の次に重くなる

枚方市　二宮山久

年重ね忘れ上手に生き上手
忘れ物年のせいだと高笑い
メモ帳に書いたことすら忘れてる
定年後えがいた通り今日も生き
飾らないお方笑くぼの似合う人

枚方市　二宮紫鳳

紅葉舞う霧立ちのぼる宇治の旅
手作りの野菜レシピで食進む
スキップの子らの弾みに落葉散る
執着を捨てて人生丸く生き
玄関を独り占めする胡蝶蘭

藤井寺市　伊藤アヤ子

係われば気を張ることが多くなり
痩せてゆく暦に私ついてゆく
心配だ静かになった高いびき
来るも良し帰っても良し孫娘
この世では我慢なしでは生きれない

藤井寺市　鈴木いさお

五時起床腕立て伏せを二十回
七十二まだ軽々と逆上り
ハルカスの上からなにわの秋さがす
ゆく秋を惜しむか御堂筋の樹々
室生寺の秋はとりわけ品がいい

藤井寺市　髙田美代子

おめでとうまた一年が忙しい
若い木が育つやがては森になる
人それぞれ帳尻合わぬ年賀状
大阪弁と船場ことばにある違い
出稽古に行く八十の薄化粧

藤井寺市　田付絹枝

塔まつり老若男女閾(いき)一つ
お説教昔話で諭される
御仏は手中に御座す胸に手を
声高く涙諸々傘寿会
若い髪アンバランスの深い皺

藤井寺市　増井ヨシ枝

川柳祭参加したいな車椅子
まだともう喜寿をはさんでクラス会
車椅子氏神様へ初詣
生れたて曾孫の写真スマホから
お向かいの為に並べた菊の鉢

藤井寺市　吉田喜代子

足癒えてコスモス寺の中に居る
おまいりに猫は尻尾で話してる
大和路を巡りスランプ少し抜け
喜んで虫食い野菜買ってくる
病院から抜けて歌いに来た男

藤井寺市　若松雅枝

賀状書く枚数減って寒い夜
明日になれば良い考えが出るだろう
認知症無いと自負してボランティア
義姉が逝きだんだん冥土近くなる
十年過ぎても亡夫を心の糧とする

松原市　森松まつお

ここだけの話大きい声でする
気を使うバス乗客ボク一人
胃袋はないのに酒に強くなる
初めての賞状気合入れて受け
酒好きのヤブ蚊かボクにつきまとう

箕面市　酒井紀華

折目ずらし余生は少し型破り
曖昧な男の言葉きき洩らす
のらくろを夢中で読んだいろり端
妖艶な眸で誘う美人ネコ
老いの恋行方知らずの雲にのる

箕面市　出口セツ子

幸せでないと優しくなれません
物欲も喜怒哀楽も消えてくる
同じ匂い嗅ぐのか金の無い仲間
観光はせずのんびりと湯治旅
好奇心欲が失せると老いてくる

箕面市　広島巴子

大の字で吸い込まれたい青い空
地蔵様のどかですねとお茶を出す
人恋し今浦島の里の暮れ
おだやかな日差し私を天日干し
おしゃべりもノンストップの女旅

八尾市　内海幸生

色褪せぬすごい初陽がまた昇る
陰と陽気の持ちようと朝陽から
毒舌を笑顔でくるんでくる美人
生保から満期の知らせ幸せか
どこがこの絵の良さなのか小半日

八尾市　髙杉千歩

生きぬいた大正昭和語り継ぐ
お疲れさまで始まる息子へのメール
平和を乱す地球の其処彼処
見て聞いて話して卒寿の初春嬉し
念を押す度に時間があやふやに

八尾市　寺川はじむ

孫ら来る節電隅へ押し遣られ
カルチャーの筆を夢中にするヌード
逃げ方を教えますよと永田町
笑い皺見せる男のいい素顔
カルチャーのあれこれ齧りかけたまま

八尾市　宮﨑シマ子

木枯しに鬼も食べてる手打ちそば
女とは買物好きよ十二月
若いのに任せられない十二月
一寸先の闇に向って胸を張る
金のないのはいつものことよ茶漬喰う

八尾市　村上ミツ子

全開も私のパワー知れている
その場が和むあたたかい一言に
へび嫌い蛇という字も恐ろしい
めでたくもないが赤飯食べている
ちょっとしたズルは大目に見てやろう

八尾市　山根妙子

時来れば鈴虫芒うまし国
燻らした紫煙も肩身が狭くなり
真夜中の庭一面が月の影
シナ海にじわりと島が出来上り
のし袋諭吉の出番多い秋

神戸市　上田和宏

美人見るといつも鑑賞してしまう
見つめれば女はみんなつくり顔
残り香に男はダンス申込む
冥土までスロースローで行きましょう
京都人はったはったと言うてはる

神戸市　奥澤洋次郎

思い出に迷い込んでる秋の山
木枯しを蹴飛し一人下校の子
権力を持ち傲慢になる器
下流にはじわり答えてくる寒さ
蕭蕭と無縁社会の風が吹く

神戸市　白川淑子

柔らかく生きたしコスモス揺れている
しっかりせなあかん何度も仰ぐ空
魂の宿るところにある宝
向う岸迷わぬようにナビ付けて
浅瀬にて溺れる自分笑えない

神戸市　能勢利子

日本人はほどほどが好き並が好き
ブランコでタイムスリップする昭和
フルコースメインの前に満腹に
ばあちゃんを誘うと財布ついてくる
録画してCM飛ばし見るドラマ

神戸市　山口美穂

長電話他人聞いてたらおかしかろ
心残りはあるがポックリ逝けたらな
前線へ行かない人が安保法
雑念の堂堂巡りまとまらず
和洋中どれでもないの私流

明石市　糀谷和郎

同じ轍踏まぬ決意が2度3度
いつまでもピンクでいたい老いの夢
家の灯が見えると靴も弾み出す
古希という峠で休んではおれぬ
することがなくても今日というひと日

芦屋市　黒田能子

ハイヒールずいぶん履いたことがない
目が合っただけで笑ってくれる人
ぽとりと涙悲しみはまだ続く
乱暴な子供の頃が嘘のよう
さしすせそまだ滑舌は大丈夫

芦屋市　竹山千賀子

噂の種この辺りだと木を揺する
前席は真面目な人が並んでる
傷ついた翼休めてくれる母
勝ち負けを問わない亀で恙無い
ダイヤよりビーズが好きという暮し

尼崎市　市坪武臣

人間の言葉で猫を叱ってる
愛よりも転ばぬように手をつなぐ
体全部賑やかな象さんの皺
ほのぼのと家族が揃う今がいい
川柳を学んで知った奥深さ

尼崎市　藤井宏造

贅沢は敵よく言っていた亡母
七五三家族みんなが主人公
オバチャンの集団だけど山ガール
テレビからふる里の過疎知らされる
車で来いと言う山奥の蕎麦屋

尼崎市　藤岡りこ

ふらり出かけご飯になると戻るネコ
久し振り手紙を書いて肩が凝る
わめいても泣いてもママの目はスマホ
相手の時間大切だから待たせない
負けるが勝ち折れているのはいつもボク

尼崎市　加川靖鬼

翔び立つと信じて鶴を折っている
母と子の絆を結ぶ童唄
夕映えの棚田に汗の影はない
還暦を越えて大人の顔となる
熟練の技は軽ーるく披露する

尼崎市　長浜美籠

あやふやなことにモザイクかけて秋
思い出にどっぷり柿を剥きながら
気遣いがほんに似てきた姉妹
素通りもできず爪先立てて見る
頑張れと気合をくれるお味噌汁

尼崎市　春城年代

帰らぬ日々をおもい巡らすつわの花
大正を引きずっている命かな
九十五歳はこんなものかと納得す
亡夫の影に守られている生きている
テンポ早めて哀を追っぱらう

尼崎市　山田耕治

残菊が剪って欲しいと言っている
種無しを食べて神様すみません
好きにしなさいと仏壇からの声
隣国のパレードいつか見た記憶
待たされた乾杯高い声になる

川西市　大坪一徳

ロス多き人生だけど悔いは無い
人間は一人で生まれ死ぬ孤独
私を愛してくれる人が好き
無意識で自分に嘘をついている
先生の言葉で変る子の未来

川西市　山口不動

ヨーイドン孫の目印赤い靴
寅さんの記憶遺産の泣き笑い
最後とて病人も来るクラス会
すんなりと話決まった夫婦墓
ゴマカシが大企業にも流行り出し

加西市　金川宣子

蓄えに悲鳴もあがる余命伸び
身を削り買ったマンション歪みだし
詫び上手トップになれる要素です
床ずれをさせぬ介護の恩返し
初デートひょっとヒョットと歯を磨く

篠山市　酒井健二

食抜いて今日は命と会話する
灰色は銀幕だけで良いレトロ
しょうがない暗い性格直らへん
点滴を数え明日の夢を見る
この人は美しすぎる冷たかろう

三田市　足立つな子

ゆっくりと霧があがれば里の秋
患って思いが届く夫婦松
物忘れ証拠を残すイーメール
行楽の心弾んで買いあさる
談笑の新参古参五七五

三田市　上垣キヨミ

紅葉を纏い蓑虫冬支度
年重ね母の深さに届かない
レトルトで済ます独りの昼ごはん
唯一の足の自転車にも規制
盗作を見つけて悩む肋骨

三田市　尾崎一子

赤い月私を置いて姉が逝く
柔らかい人の心の輪に集う
手を合わす訃報に秋の日の短か
四十九日旅立つ姉に夕茜
年重ね弥陀のやすらぎ身に染みる

三田市　北野哲男

イレギュラーバウンドが弾む八十五
愛車老いエンストと言うストライキ
風鈴の舌の一句を取り替える
乾杯の発声だけの役に就く
一日のやる気をオラクルからもらう

三田市　久保田千代

身の回り少しスリムに老い支度
息抜きが過ぎてエンジンかからない
心配はしてまへんでという素振り
積み上げた常識邪魔になる時も
いつも横歩いてくれる友がいる

三田市　野口晶子

立ちどまる信号はまだ赤のまま
逢いに行く背で聞いた唄道づれに
洗いざらしのズックの心愛に似る
警告し愛してごらん声上げて
母の指ひとつひとつに慈悲掴む

三田市　福田好文

定年で夫唱婦随が逆になる
ぴかぴかの顔になぜする厚化粧
赤ちゃんの喃語ママしか解らない
縁結びの神は近頃疲れ気味
舞妓さんどちらの顔でデートする

三田市　堀正和

すごいなあこんな所に人が住む
吊橋に野猿は今も生きている
平日の過疎の湯宿は僕ひとり
流れ星じっと待ってる露天風呂
どこにでもうまい地酒はあるもんだ

宝塚市　田中章子

夕茜あしたはきっといい日だろう
前向きのことば好きですあなたから
夫少し疲れているなハーイお茶
妻を撮る最大限の努力して
数は力なり中国の爆買い

西宮市　秋元てる

後学のためと辞書引く老母である
若い気で軽く引き受け眠られぬ
何となく折箱の底確かめる
鼻柱の折れる頃合い知る妻は
何となく損した気分下戸で老い

西宮市　足立茂

湧き水の流れで辛さ増すワサビ
いつの間に街から消えた靴磨き
不健康が座を盛り上げるクラス会
優先席譲ってほしい若作り
再会がよい思い出を消去する

西宮市　緒方美津子

難しい顔で喜ぶ父でした
じんわりと泣きたい時は芝居小屋
縁側に昭和があった祖母と豆
コメントは控えますもう負けている
尖らねば夫が丸くなってきた

西宮市　片山忠

苦労など一緒に笑ろてするタイプ
ごつい手で握り返してくる味方
負けん気を夫につけるキムチ鍋
男気が半分出世遅らせる
ノンポリでふらつきながら生きている

西宮市　西口いわゑ

お持たせの菓子で華やぐ佳人たち
字余りへしばしロダンの像になる
思い出の小箱にも似ていわし雲
浮き雲よわたしも欲しい羽衣が
聞き流してくれた器の深さ知る

西宮市　福島弘子

坂の町時間も猫ものんびりと
無意識の言葉が波紋胸痛む
他人の目を意識する内まだいける
七福神巡る計画今年こそ
七十年平和アピール揺らぎ出す

西脇市　七反田順子

わくわくと未来みつめている一人
南京はぜ大仏様のおわすとこ
ニュー図書館孫はせっせと足運ぶ
ハイキング湖東三山たっぷりと
珍客にむかご飯などおもてなし

姫路市　古川奮水

敬老会歌唱が揃う赤トンボ
自転車が軽くなったぞ下り坂
コスモスの迷路に燥ぐ園児たち
銀杏の臭いがのこる御堂筋
漁解禁蟹のセリ値に目玉剥く

奈良県　安福和夫

声変わり孫は大人の仲間入り
一つ屋根三代寄り合う小社会
自分史は懺悔とぼやきの集大成
ウイットと気配り冴えた師が手本
新しい未来のページめくります

奈良県　谷川憲

良い失敗をしたなあと励まされ
験の良いスーツに決めた勝負の日
安全な場所から批評うまい人
保存地区観光客が去り静か
先輩の訃報に感謝よみがえる

奈良県　渡辺富子

日帰りツアーガイドの旗が追い回す
歩ける内夫と行けるとこ捜す
栄光の過去は語らず杖をつく
音もなく横に座っていた老化
言の葉へ喜怒哀楽を乗せてみる

奈良市　阿部紀子

お遍路に七人集い出掛けます
足摺の昇る朝日に手を合わす
朝のおつとめ朗々響き聞き惚れる
満願寺読経上手にハーモニー
結願日充実感に満たされる

奈良市　大久保眞澄

その名刺退職前のものですね
コンビニはおでんウチのはかんと煮き
感動もやっぱりねもある百均
よくも悪くもまたとない夫です
髪は痩せ体は太り熟女なり

奈良市　加門萌子

四季折々の風情が素敵奈良の新春
まず無事に欠ける者無く囲む膳
子は人生の最中孫たち飛ぶ準備
婚姻の関係変わる世も変る
スポーツはいいな平和ならこそ謳歌する

奈良市　辻内げんえい

団塊は戦後平和の証です
一億総活躍ぼくは何をするのかな
せんとくん今やすっかり奈良の顔
空耳とわかっているが亡母の声
運動会孫三人に義理立てる

奈良市　米田恭昌

助け合う老々介護という絆
お迎えを延命治療追い返す
面白い顔くしゃくしゃにして弔辞
印結ぶ孫の仕草は五郎丸
正倉院展どこからとなく石の笛

生駒市　飛永ふりこ

ご先祖に御託並べて生かされて
贅肉を落とすフラフープへ気合
むかご御飯熟女みんなに出るえくぼ
かりん酒がやんわり庇う鼻獨音
酸っぱさも苦さも越えて芸に襞

香芝市　大内朝子

初春へ蝶の番の舞うを見る
平等に老いているから仲が良い
二親の棲む眼裏があたたかい
日溜りで昼寝のように逝きたいな
ともだちがまた出来ました宝箱

橿原市　居谷真理子

負けん気の背を世間の目が炙る
アアあそこにも人が住む灯がともる
ころころと笑って少女達の胸
凍土あり我が身の内を旅ゆけば
動物園は余計淋しくなる所

大和郡山市　坊農柳弘

愛された記憶わたしの好きな人
その先の修羅は鏡餅が仕切る
逆らえぬ位置で己を主張する
ありがとうが生きてる屠蘇の酔心地
大胆になれる貴方の前だから

和歌山市　磯部義雄

昔なら易易跳べた水溜り
線引きをされて転ばぬ先の杖
浴びるほど飲んで山頭火と眠る
スランプが続き涙も枯れ果てる
真心が籠もる自筆の年賀状

和歌山市　喜田准一

突然の電話旧姓浮かぶ女
策士ではないが浅智恵先を行く
人間の弱さ晒して人の幅
ややこしいカネは隠れて喋らない
定数を減らす話でまた揉める

和歌山市　木本朱夏

漂流がつづく今夜も眠れない
足もとを濡らす波にも気づかない
さらわれぬようにわたしに打つ楔
二人居て心底寂し秋の虹
行く秋をまだ書き足りぬ雑記帳

和歌山市　楠見章子

青春の時計が今も胸底に
不思議なご縁たったひとりの君と会い
微笑みを辿れば母の手の温み
いつの日もシャキッとしたい眉を足す
残り火が息の合う風待ってます

和歌山市　坂部紀久子

美しく老いたく今日も善を積む
約束を幾つも放棄して八十路
繙けば亡夫の笑顔があちこちに
月日経つほど後悔が絡みつく
ラグビーに火が付き日本人燃える

和歌山市　武本碧

ほほえみを磨いておこう君のため
昼ご飯一緒に食べてからドラマ
人見知りのカードがレジで出て来ない
九回の裏のチャンスに神宿る
丸洗いしてから明日を出直そう

和歌山市　玉置当代

爪伸びるのびる遊んでいるからか
繁栄を祈り続ける木守柿
子の目線に合わせゆっくり聞いてやる
おいしい話裏にはきっと棘がある
和洋中おいしく食べる秋の天

和歌山市　土屋起世子

図書館に行こうと孫に誘われる
よいしょこらしょ笑ってくれる人もなし
老兵にキッチンと言う城がある
苦い経験積んでいるから慌てない
ぶちまけた本音虚しさだけ残る

和歌山市　福井菜摘

笑い皺ますます増えて母に似る
精一杯生きた両手にある誇り
労いの一言意地が解けてゆく
ふんばって平和を守るやじろべえ
越年にこころ新たに踏む一歩

和歌山市　福本英子

栗はまだ届かぬ友が病んでいる
無人駅私の居場所見つからぬ
ジーパンを穿いても伸びてくれぬ脚
天井に夢模様描くリハビリで
お迎えに来ない亡夫が若すぎる

和歌山市　堀冨美子

しまったと思う値引きの品を見る
紆余曲折抜けてこそ知る今の幸
亡き友の思い出語る傘寿会
張り合うた子と遺伝子が似てるかも
心根が嬉しい子等ののし袋

和歌山市　松尾和香

エンピツで石も玉にもなる不思議
並びかえ妻が先行く夫婦道
けん玉に若さを戻す身を鍛え
和歌山になかった偽装マンションが
カラオケのブームに余生若返る

岩出市　藤原ほのか

心意気このページには印したい
あなたとのギャップを埋める点と線
撥ね返しギャップを埋めて奮い立つ
弾けたい心は何時も震えてる
負けないと誓った夜の苦い酒

海南市　小谷小雪

自分史の氷のページ袋とじ
お日様にとろり ふとんも温くなる
竹笛ののどか竹田の子守歌
墓石も傾げ悩みがありそうな
子離れの特効薬という我慢

海南市　堂上泰女

最近のニュースが誘う不整脈
濁り水を呑めないのが玉に瑕
明朗闊達そんな嬉しい通信簿
感謝するレター筆圧強くなる
弥陀の手にすがりだんだん枯れていく

紀の川市　宇野幹子

棚田からポタポタ汗が落ちてくる
ライバルで友で拍手は惜しまない
医者通い自慢話にして暮れる
伏兵がまたも暴れる闘病記
ポップコーン内緒話は後にする

紀の川市　北山絹子

太陽と握手するほど飛び上がる
再会のチャンスを呉れたバスツアー
墓石を磨き先祖の声を聞く
ユーターン私は過疎の風になる
人一倍食べているのに痩せている

紀の川市　楠原富香

傷口が治った頃に訳を聞き
祖母ふわり痴呆の森に迷い込む
恋心ゆれて二人の旅に出る
キーひとつ下げてゆとりのある暮し
玉の汗つんで稲穂が波を打つ

紀の川市　辻内次根

汚れかと触れば孔のある肌着
硝子戸のほんの微かに揺れた音
だんだんと心は二日月になる
もう五年経ってしまった銀杏の葉
鉄塔の高さへ秋の空がある

田辺市　岡本昇

ハンドルを握ると世間見えてくる
三本の矢は飛んだのか飛ばぬのか
病床の妻の指図で塩加減
昇進の夫の背なに投げキッス
五指力合わせて握る命綱

（石田隆彦さんの句は47頁にあります）

新川柳鑑賞 (47)

麻生　路郎

素うどんですます気隅の椅子へ寄り

（良　坊）

それは外交員か、公務員か、人物はハッキリしないが、この句の場合どっちだっていい。ただ昼めしか晩めし代りに素うどんですましておく人間の心理をつかんだのである。つまりこの句のネライは「隅の椅子に寄り」である。行商などが弁当のサイに素うどんをとるのとは少しくおおもむきが違い、素うどんを喰べるのに、何んだか気がひけるクラスであることが感じられる。

ハイお土産裕ちゃんのブロマイド

（芳　仙）

この句の面白さは「ハイお土産」という上六字のへうきんさにある。あたり前なら、ハイお土産と、「と」の字を挿入して声調を整える筈だがワザと「と」の字を入れずに「と」の代りに休止符的なマをそれに替えて、句をいきいきとさせている。裕ちゃんは云うまでもなく人気俳優の石原裕次郎の愛称である。

バラソルをひろげて見せて昨年（きょねん）のよ

（初　甫）

たとえ安物でも、今年の流行を追いたいのが、女性に共通した心理である。この句、無頓着なようには見せているが、去年のパラソルに何んとなく、ひけ目を感じているのである。淋しい心境がよく出ていると思う。

寫真向って一人置いてと無視される

（不　二）

これは新聞などを見ていると、よくぶつかる。大物と大物との間に、それほどでもない人撮っていると、写真説明の時に、この句のよう「一人置いて」と無視されてしまうのである。

自分は斯うした大物といつも交際っているように思わせるために、陣笠代議士などが、とっさに割り込んで撮らされる場合がよくあるが、あわれにも写真説明でオミットされてしまうのである。こんな句境をつかんだ作者のケイ眼を推奨する。

質流れのオメガにうかと引っかかり

（麦太楼）

オメガの時計が欲しいと思っているところへ、「質流れだから安くしておきますよ。二度とこんな出ものはないでしょ」と、うまく談し込まれて、そんなに安いのだったらとムリ算段して求めたところが、それが贋物で、うまくつかまされたというのである。オメガであることがこの句のヤマである。

イヤリングいやよいやよと揺れている

（豆　秋）

「いやよいやよと揺れている」は一読しただけでは極く平易な表現に見えるが、所謂無技巧の技巧の句で人物が躍動している。殊に「いやよいやよと」いう中七の重語法に情緒を横溢させている点、凡手でないことが知れよう。

紐つけて引っぱりましょかイヤリング

（花　村）

イヤリングに対する感覚は国土によって、時代によって環境によって、人おのおのによって違うであろうが、作者の眼には浅薄な女性の虚飾として映ったので、この句のように揶揄したのである。イヤリングすることが、よいか、わるいかは別として一つの観方には違いない。この句に同感の人たちは微笑を洩らさずにはいられないであろうし、イヤリング美を感じる人たちには一種の侮蔑とうけとるであろう。

自選集

猿山の猿の個性に負けている
大見得を切るボス猿の面や良し
大合唱になる懐かしい人ばかり
おふくろの杖如意棒に見えてくる
寝返りをしたはじめてのドヤ顔だ

小島蘭幸

三時間眠った今日も凌げそう
ネクタイを拒否するボヘミアンの首
闘いの雄叫び生きている限り
情熱は朱色　理性は青緑
美しい地球のばばっちい僕等

新家完司

予定表ぎっしり詰まる秋の天
買い替える新車八十路の一大事
災いも病も口と悟る秋
男女差はない散髪もジーンズも
剥いた柿置けば瞬時に姿消す

津守柳伸

戦争を知らぬ政治の寝言聞く
九〇へうんよしよしと死亡欄
秋深し男ひとりのめしがふき
先祖代々の墓地へ並んだ居士大姉
二人目のひ孫よいよいよ丸められ

遠山可住

生き方がだんだん下手になる余生
起きる時間まちまちになる老いの日々
澄んだ空燃えるもみじをサプリする
夕焼けへ鴉の声が機嫌よい
年末の色に戻った池の水

都倉求芽

友だちの姿かたちを恋しがる
戦争に反対サインしてもらう
ぽっかりと日本海に浮いていた
魔法をかけて青汁をのんでいる
三日月にあした命があるように

土橋螢

何もかも大儀になって暮れなずむ
晩酌一合世の中がどう変ろうと
いい日になる予感卵に黄味二つ
喜怒哀楽越え三猿にたどり着く
子の頑固飴と鞭とを違えたか

西出楓楽

一日のロスタイムふえ去年今年
癇が立つニュースの多き去年今年
お隣りの花の順序や去年今年
鉛筆と紙が友だち去年今年
心身のネジのきしみや去年今年

仁部四郎

天女いま海の青さに深呼吸
太陽を仰いで自然出る笑顔
おしどりの赤ちゃん育つ巨樹の幹
活気ある湯殿で孫の笑い声
丁度いい六人家族のパンが焼け

林瑞枝

天の栄光告げて太陽今昇る
欲捨てるとあたりの風がやわらかい
聖書の文字読めてるうちは手術せぬ
やることはあって時間が足りません
許されて米寿を視野に生きる欲

前たもつ

毀れゆく身体ひきずり年新た
新年の扉をあけるいい予感
予感ぐずぐずしこたま神の鈴を振る
老い仕度なんてまだまだ八十路だよ
色褪せてきたが私を支える朱

政岡日枝子

何もかも初ものとなる三が日
話したらこわれてしまいそうな夢
マンションと呼ぶマンションが減りました
家の下駄箱に見知らぬ靴がある
大敗しても善戦という地元

三宅保州

残りもの食べて安くするひとり
知らぬ間に他人傷めてた軽い口
寝返えりの数だけ時計戻しとく
ライバルの情もうける生き上手
蒔いた種かならず答え出して咲く

宮西弥生

何事もなし

イタダキマス　皆それぞれの音程で
つましいが心尽しのお献立
何よりです戦を越えた世代には
熱々のご飯　いのちを噛みしめる
何事もなく指を揃えて箸を置く

八木千代

マララの愛で病んだ地球を包みこむ
重罪の総理九条もて遊ぶ
バラ一輪挿す休戦の銃口よ
祭り太鼓響くと神が目を覚ます
被災地へアベノミクスはいつ届く

西川洋々

隠し玉ワイングラスの底にあり
弾二つあるので俺は男だぜ
山並みをトランペットを吹きながら
お年玉クレオパトラが呉れました
テロ退治猿にはもっと黍団子

板尾岳人

親のうっかり子供しっかり見つめてる
大事大事としまい忘れる悪い癖
満開の梅もかなしみ抱いている
やさしさに弱い涙をもてあます
時々は自分にも言うありがとう

奥田みつ子

何ページですか私の一生は
行き当たりばったりそれもいいもんだ
喋らせておこう尻尾が見えるまで
本名で届く手紙は後回し
干し柿も人もじわじわ甘くなる

川上大輪

新年へ今年も登る山あおぐ
擦過傷程度の愛を有り難う
毎日が平和タクトはまだ振らず
海ゆかば騙されなくて卒寿坂
アンカーで勝ったカップが二つ三つ

小西雄々

元朝の足の裏にも陽を浴びせ
しっとりといのちの重み説く牧師
干し柿の千個に千の物語
ぷんぷんと太宰が匂う奥津軽
花の種抱きしめている氷点下

斉藤劦

「川柳葦群」創立10周年ならびに
梅崎流青第二句「飯茶碗」集発刊記念川柳大会

日　　時　**4月24日（日）**　午前10時30分開場
会　　場　柳川総合保険福祉センター　水の郷　☎0944-75-6200
堀川バス（西鉄柳川発　かんぽの宿行き　水の郷下車）
会　　費　3,500円（句集　昼食　発表誌呈）
お　　話　**「NHK－ぼやき川柳と私」　大西　泰世（大　阪）**
課題と選者（投句拝辞）
各題２句出句　出句締切12時　開会13時　各題秀句３句に呈賞
「　指　」　平田　朝子 選（熊　本）　**「　火　」　木本　朱夏 選（和歌山）**
「　飯　」　森中惠美子 選（大　阪）　**「光　る」　古谷龍太郎 選（北九州）**
「漕　ぐ」　渡辺　桂太 選（大　川）　**「　釘　」　清野　玲子 選（福　岡）**
「干　す」　柴田　美都 選（福　岡）
事前投句　平成28年3月31日締切（消印有効）出席者に限る
「雑　詠」　梅崎　流青 選（柳　川）
※懇親会、翌日観光の参加、不参加を明記の上下記あてお送りください。
〒832-0077　柳川市筑紫町70－26　吉開　綾子 宛
懇 親 会（事前申し込み）　☆事前投句のハガキにお印し下さい
会費 7,000円　17時30分から　終宴 19時30分　料亭お花 ☎0944-73-2189
宿　　泊　白　柳　荘 ☎0944-73-1188　　お　花 ☎0944-73-2189
かんぽの宿 ☎0944-72-6295
お問合わせ　真島久美子 ☎090-3010-7154　　吉開　綾子 ☎090-2582-0680
翌日観光　3,000円（要予約）　川下り　お花松濤苑　沖の端散策　昼食
主　　催　**「川柳葦群」創立10周年記念川柳大会実行委員会**

川柳塔

（つづき）

橋本市　石田隆彦

変身が過ぎて自分を見失う
立つ位置を変えて世間の恩と知る
老眼には同じ顔ですＡＫＢ
またひとつパーツを侵す老いの波
夕立を浴びて野菜が背を伸ばす

第二回「ふるさと」川柳募集案内

課　題「　雪　」（一口２句・12名共選
複数応募可・清記選）
選　者　磯松きよし・高瀬　霜石
尾藤　一泉・山倉　洋子
小島　蘭幸・小池　正博
吉松　澄子・浅利亥一郎　他
締　切　**1月31日（消印有効）**
投句料　１０００円
（切手不可・小為替等使用のこと）
賞　最優秀賞　一点
（樺細工色紙掛・仙北市産品）他
発　表　柳誌「湖」３号（４月発行予定
応募者全員に送付）
主　催　川柳「湖」（うみ）
問合せ　浅利亥一郎川柳事務所
TEL/FAX 0187-48-2236
投句先　〒014-0602 秋田県仙北市ひのきない字長戸呂85　浅利 方
第二回「ふるさと」川柳事務局 宛

温故知新

『高杉鬼遊川柳句集』から

落ちこぼれそれでも三度めしを食い
喪中欠礼　今年の夏は暑かった
十二月八日そしらぬままで顔洗う
パチンコ屋父に自由な椅子があり
積立の満期に合わせ歯が痛む
善人が棲む闇もあり観音経
八月の蟻にも欲しい夏休み
平和にもそろそろ飽きる自衛論
ルームランナー出世に遠い父の足
政治家とにらめっこなら負けはせぬ
念仏の手でゴキブリは殺される
あじさいの色は卑怯だと思う
心配なことにパンダの私生活
訃を聞いて他人はめしを食っている
春爛漫チューリップはみな孤独
矢印の向うで死者は待っている
外堀を埋めにやってきた笑顔

川柳塔の川柳讃歌 ⑬③

木津川　計

何を掴んでなにをのがした老いた手よ

籾山　隆盛

人間、来し方を振り返る時期がある。名作だった映画「生きる」の主人公は胃ガンで余命半年と知った。顧みるに生きた証がない。ただ惰性で過した〝生ける屍〟のような人生と思えた。そんな主人公がある日、ものを作る喜びを教えられて覚醒、翻然と児童公園造りに献身、完成した雪の夜、ブランコに乗りながら「ゴンドラの唄」を歌いつつ息絶える。

隆盛さんは掴み、のがした生きた証のある人生だった。「老いた手」を労ってやろう。

ランクとは貧富とルビを振っておく

富田　美義

「端的に貯蓄額だけ見ても大きな『世代格差』があることがわかる」。高齢者世帯の貯蓄が２００万円未満は30・３％。「生活上、大きな支出に見舞われた際には家計が維持できない水準である」。引用は、他人事ではないと読んだ『下流老人』の記述だ。３千万円近くあった貯蓄を退職後あっという間に使い、生活保護に陥った男もいる。富のランクから貧に転落したのだ。美義さんは下流のつらさを心得ている。ルビを振り貧にはならないと。

長生きが怖いと思わせる政治

金子　美千代

終身雇用、年功序列の時代が崩れたいま、老後格差は深刻。「金がなければまともな介護も受けられない」と『下流老人』は説く。「老後は介護が必要になったら老人ホームに入居して余生を過ごす」という考えが、いまや「楽観的と思えるほど状況は深刻化している」。有料老人ホームはべらぼうに高く、下流老人は「寝かせきりホーム」で喘ぐ日々。

長生きを怖いと思わせるいまの政治を貧乏な老人が支持する現況を美千代さんは突く。

勝ち負けの分かるパチンコ屋の出口

加島　由一

近くの商店街に大きなパチンコ屋が三軒もある。出てくる男をよく見る。勝った男は歩幅が大きい。負けた男はすでにしてトボトボである。『礼儀作法入門』で山口瞳は、たとえば麻雀をする場合、「鴨だと悟ったら即刻やめよ」と説き、「少し負けて（負けようと思えば負けられる）、ニヤッと笑ってキレイに払って静かに立ち去るようにしたい」と。「儲けてるうちは冗談ばかりいい」と路郎は詠んだ。由一さんの句にも余裕がある。

頼みごとくたびれ果てた声である

牧野　芳光

身辺片手間の頼みごとではない。家族会議で決めてもらわねばならないほどの頼みは「くたびれ果てた声」でなければ真実味がない。

どなたの句だったか、「達筆で不甲斐ないこと言うてくる」のはつろくしない、大阪弁で釣合いがとれないのである。税務署へ行くクラブのママは化粧もせず、みすぼらしい服装でいく。芳光さんは苦労人である。右の頼みを真実と見てとったら聞いてやる人だ。

閉会をしてから本音まくし立て

山下　凱柳

京都の人とはつき合いにくい。表向きの考えと本音がしばしば違う。会合で方針が決まった、のではない。散会後、電話で本音が飛び交う。それをまとめる影の議長がいて、翌日、方針が変わる、というより本来に落ち着く。帰りがけの挨拶に「京のお茶漬け、高松のあつかん」と言った。茶漬けも熱燗もリップサービスだ。凱柳さんはそんな巧言に苦汁を飲んできたから本音と建前の区別がつく。

（『上方芸能』発行人）

橘高薫風句抄

（『橘高薫風川柳句集』平成十三年発刊）

味方とも敵ともつかぬ蟇
初恋は蛇を怖れたころのこと
わが影のくの字に折れて長い塀
頑徹な鯛の頭の骨を見よ
またの世に散るのは紫のさくら
今の世も皿を数えるのは女
ふる里に四季霧まとう大樹あり
僕だけの凱旋門はいつも持ち
門一つ昨日の夢と明日の夢
どんと来い太鼓はいつもそう響く
老夫婦布団の新らをわびしがる
許す方許される方水を呑み
書斎から春夏秋冬　池が見え

ペン持った父へ無言でお茶を置く
初釜の席では笑いようがある
姉の紅黙って借りて魔女になる
五七五阿修羅韋駄天君と僕
癖のある字は面構え持っている
アルバムに明治の笑う顔がない
赤トンボ悲運の人を悲しませ
好きな方持って帰れと友が言う
出来なんだ頃エンピツが記憶する
扱いのこんなに違う塩砂糖
浴衣にも祇園祭りと大文字
十哲とて四天王とて師に侍る
矢も盾もたまらぬ顔は犬もする
きんつばが六つ箱には隙もない
妻と来た琵琶湖の船の今昔
ほおずきの飛び出したようプチトマト
髪染めて心もとなき日本語

川上大輪選

瀬戸内市　東　槇　ますみ

おんな文字少し崩してからの雨
母捨ててみたいと思う紙おしめ
自分史の中に捨てたい冬がある
主義主張微妙にずれていい夫婦
ひらひらと糸の長さの妻の舞
ホップステップジャンプはできぬまま老いる

大阪市　平　井　美智子

大輪の菊屹立と我を通す
百人が無駄と言うからやってみる
門柱は二本たがいに目を逸らす
まあまあとあやふやになる正義感
絶妙の粘り加減を模索中
まあええやないかと笑う夕茜

大阪市　柴　本　ばっは

孫に年玉あげる立場だまだ元気
気忙しさ世間並みですひとりでも
八十路でもばたばたできる内が花
薄端に若松シャンと活けました
七草の香りほんのり今朝の粥
味の勘だけは冴えてる負けへんで

佐賀県　真　島　久美子

てんぷらにすれば縮んでしまう君
つまらない話と顔で言ってみる
雪を待つ溢れるものを溢れさせ
ちっぽけな祈りも届かない寒い
大袈裟を体温計に笑われる
確率を考えるから蹴躓く

三原市　鴨　田　昭　紀

本物かどうか斜めに切ってみる
職退いて空の広さにふと気づく
どんな色にも溶ける八方美人です
溺愛をされて独りで歩けない
耳だけは眠っていない向かい席
でんでん虫と進む過疎化を考える

男鹿市　伊藤　のぶよし

大波小波いくつかあって今日は凪
日向ぼこやおら二人は佛貌
番号で呼ばれ立てない影法師
ソロソロとマダマダが居て恙なし
箸二膳枯淡の色はゆめの夢
十二桁これが僕ですお亡母さん

愛媛県　西田　美恵子

わくわくを求めて本の海泳ぐ
好きだから喜劇のように別れたい
見守ってやろう咲くまで香るまで
ジャムになったイチゴは甘い夢を見る
無駄道を歩いて男幅が出来
枯れてから香るハーブの役所

大阪府　神野　千恵子

ヨウイドン生まれた時は皆ハダカ
おっとっと心に杖が欲しくなる
よそいきの顔で食べてる茶懐石
秋晴れにニュースは見ないことにする
非常食期限切れしている安堵
凹んでるところを叩く物価高

瀬戸内市　宮宅　比佐恵

摘まないできっと大樹になる芽です
あせらずに昭和の風で生きてゆく
水溜り跳べる予感は甘かった

無駄口もついて昭和の傷いやす
風だより傘に入れたい人が逝く
秋深し隣近所は空家です

三田市　宗福　清司

バランスの取れた食事は金かかる
古希過ぎもぼんやり加減変化なし
我が夫婦同床異夢で五十年
またやったゴール間近でギブアップ
クラス会同じ話を何回も
医者が言う年相応の意味不明

羽曳野市　中川　ひろ介

底冷えに熱き蕎麦湯の壺を抱く
捏ね鉢に総身あずけて母の蕎麦
この土地に花や実の成る種を蒔く
湯加減を聞きに来たのは木枯しか
命の限り燃え上がろうとするもみじ
浮かんでは排除されてる鍋のアク

泉大津市　助川　和美

カレンダーあと一枚が気忙しい
電車内みんなスマホで静かなり
お茶しよか優しい夫に裏がある
御用心女が鍋を磨く時
一行で終る日記に絵を添える
仕返しをする勇気なく月眺め

心にも栄養剤と甘い物
しょんぼりの老後にだけはならぬ杖
詐欺電話有無を言わさず切るが勝ち
物忘れ一歩さがって深呼吸
ふる里へおしゃれと笑顔連れて行く

松江市　山根邦代

命日に集う親似の血が通う
生きている孤独に老いの趣味多彩
愚痴ひとつ耐えてじんわり味噌にとく
労りのこころに触れて海満ちる
終焉を身をもむように散る紅葉

岡山県　伊藤寿子

お日さまの匂いが好きで布団干す
秋の夜や苦労話の二つ三つ
三猿に時々喝を入れられる
満月が胸の奥まで覗き込む
原点に戻る野菊の咲くころに

岡山県　田中恵

微罪だと思うが入る美人の湯
泣きたい時に笑うとても無理です
まだ着れるいつか着れるとまた仕舞う
やっと掴んだ椅子なのに痛かった
「ヒマですねー」と鳩に話しかけられる

岡山市　工藤千代子

来た道の所どころにある未練
胸底に寒い話を抱いている
玄関に惑うた顔は置いて出る
折れた日を癒してくれるもみじの朱
残照の中でらしさを取り戻す

岡山市　藤成操江

初暦あれこれ夢をてんこ盛り
初詣であっけらかんと神の鈴
路郎師の句をねんごろに初硯
初凪に似せて心を研ぎ澄ます
心から愛していると初芝居

尾道市　日谷寛

二つ目の角を曲がると花の駅
夜の空間埋めるネオンの瞬きよ
躓いた石が突然喋りだす
どきっとする白さ大根真っ二つ
こよなく愛する酒と山頭火を語る

山口市　中前幸子

知らぬ間に饒舌になる孫自慢
言い切った後の呼吸が波を打つ
お互いの意地で隙間が埋らない
道の駅野菜農家がスター並み
冗談で済んだ笑いを噛みしめる

宇部市　高山清子

防府市　坂本加代

難しい言われて俄然やる気出る
崩れゆく軍艦島はそのままで
不意に来るお客は外で待たされる
雑音の中にかすかな虫の声
少しだけアホになったら味が出る

松山市　栗田忠士

思い出を流れる川は澄んでいる
納得の顔へすとんと音がする
まだともうの境目にある泣き笑い
定位置に決めたはさみが戻らない
Uターンしないと決めたブーメラン

松山市　近藤修二

あこがれは諦めないと決めること
切磋琢磨良きライバルと響き合う
微妙だな山のこころは紅ですか
揺れているラストチャンスに掛けてみる
優しい目おいしくないと言わせない

大洲市　花岡順子

ありがとうだけはきちんという躾
常習の遅刻のんびり待っている
冷え込みへ昨日と違う山の色
免許証なくなる怖さ過疎に住む
花時計ときはゆっくり過ぎていく

山鹿市　三谷直男

心からお詫びだらけの日本人
背広着てネクタイしめて悪さする
みんなしてだましきれると思ってる
こんな国いい子が育つ訳がない
とりあえず山鹿の子だけかわいがる

熊本市　杉野羅天

霧の床優しい顔の涅槃像
梅干しも味噌も世界が受け入れる
予定より十年長く生きている
咲かぬ花水やりすでに二十年
データ偽装性悪説で見えて来る

鳥取県　飯野菖子

無理するな青い空から母の声
鍬を振る痛み忘れていた時間
心底を語り話に花が咲く
鍋の底覗いて育て昭和の子
朽ちて行く田畑守って痛む腰

鳥取県　田口清帆

夫婦仲鈍感力がものをいう
暗算の力が落ちて概算で
予期しない指名に声が裏返り
口づけのその瞬間に目がさめる
楽しみは人目忍んで悪さする

刈田まで第九が呼びにやって来た
関白を演じつづけたあなた逝く
ひとり居て真昼の闇にふと惑う
仏の灯あのねそしてねつきるまで
風渡る刈田で亡母を安堵さす

鳥取市　大前安子

波風をたてずひたすら漕いでいる
漕ぎ出した夢大海をのりきれず
偉い顔しない貴方のそこが好き
石頭ほぐしてくれる十七字
墓石をみがく命があるように

倉吉市　岡崎美知江

泣くよりも笑って生きる我が道を
ほろにがい思いにふける手酌酒
ひと言で幸せ手から落ちてゆく
負けません浮世の波も悪口も
過ぎし日を思い歌でも唄おうか

倉吉市　堀　かずこ

名月を待ったばかりの風邪を引く
即席めん気休めほどの葱刻む
近頃はレトルトだけの昼ばかり
除草剤撒いて手を抜く墓参り
ハロウィンの南瓜のような月が出る

米子市　生田和之

親子だな酒のお誘い断らぬ
ガミガミに姿くらます猫までも
理不尽を飲み込む母の太っ腹
小粒でもセンター狙う野心持つ
たくさんの汗を流して善い人に

米子市　野川宣子

ぼけたかな自問自答の日をおくる
秋の味あれもこれもと娘に送る
うたた寝がすぎてなかなか寝つけない
草刈りの労をねぎらう山の色
二人居は飯風呂寝るで今日も終え

米子市　見山温子

雨粒を数える暇な招き猫
全身で感じてしまう紅葉山
ブランコが交互に揺れる不仲説
抵抗は出来ない過去を探られて
ありのまま言うと泣き崩れるカルテ

弘前市　吉川ひとし

今年も味方パソコンと電子辞書
弾むため少しアングル変えました
エピローグ不意に顔出す隙間風
カットバンその場しのぎを否定する
左脳からはじき出したい十二桁

塩竈市　木田比呂朗

八王子市　川名洋子

似てほしくないのにＤＮＡのいたずら
好きな人のために空けておく指定席
みつかれば捨てられそうで隠してる
目が合って賛成に手をあげている
偶然に聞いた話を自慢する

横浜市　川島良子

大好きと大嫌いとは紙一重
後悔はしないと強気なんですね
眩しすぎとてもわたしの手に負えぬ
そうですか味方になってくれますか
原因はムニャムニャ取りあえず加齢

横浜市　巌田かず枝

シナリオが狂わないよう祈ってる
母の杖今は私を支えてる
童謡の中身を孫と探してる
詰めほうだいつい本性が出てしまう
頼られた夫に今は頼ってる

横浜市　長島亜希子

暑さのせいじゃなかったみたいボケぐあい
趣味をただ続けただけで表彰状
洗濯にも遊びにも良い菊日和
背のボタンどなたに留めてもらったの
古民家で昭和を見つけ元気出る

豊橋市　藤田千休

蹴手繰りに鮮やかすぎる負けっぷり
判定に不服は言えぬ競走馬
この怒りお届け先を模索する
九条が深手を負って黄昏れる
ダメージは無いとうそぶく自尊心

大阪府　小栢こずえ

日和好き雨が欲しいと言うて生き
柳誌来て枯れた気持をノックする
脳味噌の貯金寝転び柳誌読む
おいしい物買えるだろうな薬代
痛い腰今日も頼むと湿布はる

大阪府　畑中節子

料理ほめ器もほめて古都めぐり
作業着に替えれば腰もシャンと伸び
化粧塩着せられいわし主役の座
蜻蛉が眼鏡をかけて飛んでいる
山峡の住い静かに句と遊ぶ

大阪市　磯島福貴子

そぞろ歩き黄金に染まる御堂筋
小春日和ほっと一息冬仕度
あらあらあら内緒話が巷行く
風呂の中浮かんだ一句泡と消え
カニにふぐちょっと散財バースデー

大阪市　高杉　力

カボチャからサンタへ街は冬支度
職安で出会い立呑屋で出会い
商品は売れずポスターばかり売れ
名門のキャディにクラブ選ばれる
臨休で予定崩れた初デート

大阪市　中島栄子

めろめろにめっちゃあんたが好きやねん
結んだり開いたりして老い二人
友見舞い明日は我が身と教えられ
八十路くりゃ不治の病と連れもって
犬の病気に頼る年金使い果て

大阪市　横山里子

傘だけは忘れたことのない自慢
後期でも勝負下着で行く内科
かたつむり銀河めざして行く軌跡
スマホ族優先座席独占し
結願寺影寄り添うて老遍路

堺市　羽田野洋介

すぐそこと聞いてはいたが近くない
四六時中ぶらりぶらりといい身分
曲がり角あれがそうかと残る悔い
今は昔多少のムリはきいたのに
身近過ぎつい気づかないことがある

池田市　上山堅坊

老いの日々じわり励ます予定表
どっこいしょこれも大事なマイリズム
書き損じロスにならない電子機器
いい言葉殺してしまう流行語
薄味に素材の個性噛みしめる

貝塚市　吉道あかね

チャンチャンコオバシャツも出す冬に入る
しょうが湯も葛湯も飲んで太りぎみ
咳二十日きっと私の灰汁だろう
のろのろの時計になった病み上り
侘寂の色で咲くのも悪くない

河内長野市　森田ひろこ

追求の手はほどほどに明日もある
やさしげな案山子の守る里の秋
五郎丸のポーズを真似て皆笑顔
絵手紙のゆがみキュウリが語りかけ
あきるほど連れ添ってなお未知の妻

豊中市　荒木郁子

誘われるうちが華よと妻出かけ
バスツアー主婦を呼び込む道の駅
頼りすぎ二人三脚縺れ気味
可能性信じて上る手術台
選択肢有りすぎ迷う老いの道

寝屋川市　岡本　勲

同窓会見事なウソをぬり固め
若者より見事に化けるおばあちゃん
路地うらからサンマでっせと秋の風
友達がぎょうさんできた医者通い
なりゆきにまかせてたどりつくあの世

枚方市　河田洋子

虫や草何でも食べた幼き日
思い出し自分に腹を立てます
捨てられず娘に押入れを仕分けされ
天災にあったと思い腹立てず
物忘れ年のせいだとすませてる

箕面市　大浦初音

妻の味馴らされました五十年
望むのは可もなく不可もない暮し
首かしげペットが決める散歩道
つらいこと話せば少し楽になる
いつの日も笑顔は人を呼び寄せる

箕面市　中山春代

黒豆があればわが家はお正月
弱点をさらけて長いおつきあい
「友だちの分も」ちゃっかり手を伸ばす
湯たんぽの顔になってるひざの猫
楽しみを最後に残す玉子焼

八尾市　中岡　妙

根性も少し残して老年期
よく無くす鍵に大きな鈴つける
ひとり居の母へ定期のベル鳴らす
目覚しが朝の務めに疲れ果て
叱る人無い空白に鳩時計

神戸市　玄番美恵子

ふるさとへ握るハンドル軽くなる
終章へ残す炎は嫋やかに
古日記甘い月日のページ繰る
老いてなお頼りとされている十指
金木犀甘い香りが止める足

神戸市　冨永恭子

遠い道恐れはしない土ふまず
葉野菜が雨をもらって立ち直る
自慢の毛刈られる時を待つ羊
カニ鍋かカキづくしかで迷う旅
信楽のタヌキ言葉をはさまない

神戸市　細川花門

黙祷が第一声の長寿会
泣き笑い瞳の中にある孤独
輝いた老人でいるむつかしさ
散歩かと聞かれ入院とは言えず
緑内障世間だんだん狭くなる

祭笛幼き恋を目ざめさす
秋夜なが奥の細道模索中
棚の奥忘れた恋がうずきだす
ドラマから老いの生き方おしえられ
偶然をご縁と呼んで開く道

神戸市　山根弘子

バカ加減似てほしくないＤＮＡ
指示されるケータイ持つと鶏飼いの鶏
呑み過ぎた松茸買ってどこ置いた
酔っ払い自宅前ではシャキッとし
あの世にも居酒屋ないと困ります

伊丹市　平井富夫

襟立ててうわさ話は知らんぷり
まんまるになっていますかこのハート
そうでしたあの日の君はまっすぐで
揺れながら続きを書いているのです
舞い降りて来てくれたんだ初雪と

三田市　上田ひとみ

おしどりの夫婦続けている疲れ
毎日が日曜とても疲れます
里帰り母の匂いを持ち帰る
お日様の匂いたたんで衣替え
免疫はわははと笑い増やします

三田市　九村義徳

爆買いもせめて百均なら出来る
鏡見る度に広がるバーコード
黙祷の最中鳴り出す歌謡曲
十八に未来を託す選挙権
薄味に慣れて血圧正常値

三田市　多田雅尚

始発駅今日のドラマが発車する
乗りかえの出来ぬカードを握りしめ
お大事にいつも変らぬ声をきく
選り好みされて残った当りくじ
足元の記憶を辿る万歩計

和歌山市　北原昭枝

遠い耳聞こえた振りの恵比須顔
上っ面だけなら要らぬおもてなし
悔しさの声を涙に変えて出す
落ち込んだ人に占い藁の役
年始旅日の出拝める宿を取る

和歌山市　平田元三

うねうねと歩き回ってきのこ狩り
仏壇へ秋の初物高く盛る
紅白は勝負宴は和やかに
予想した地から温水大拍手
散歩するお陰か病消え去った

鳥取県　岡村孝明

米と味噌毎日食べて元気です
昼食もビールを飲んでこれ内緒
支払いで一度に散った年金日
何を節約八十路の坂で迷ってる

鳥取県　下田　茂登子

晴れの日は気持も外へ飛びだすよ
お布団の中で日の出を待つ長さ
三日雨つづけば食欲減ってくる
お喋りが下手で人前出ない夫

鳥取県　橋谷　静江

トキメキは来ぬが旅先指つなぐ
かずら橋キャーの悲鳴も外国語
温泉地バク買いツアーとバイキング
旅なかば次のプランが浮かびだす

鳥取市　奥田　由美

ヤッホーと新年富士を越えて来る
幸せが逃げるよ笑顔忘れたら
今度会う時は彼女は人の妻
ありがとうと鬼の老婆に言わせたい

鳥取市　近藤　秋星

九条の平和がヤバイから吠える
真実を探して風が舞っている
自然界にもポリープがある活火山
花の芯弱さをさらけ出して勝つ

鳥取市　坂本　とも湖

子や孫を囲み我が家の敬老日
気休めに安定剤の常備薬
雑草と追いかけっこの除草剤
突然の休み儲けた気分です

鳥取市　高原　かおる

石ころに若くないよと教えられ
黄昏はやたら昔が恋しくて
秋の夜は昔話がよく弾む
施設か家か夫婦ギャップは縮まらぬ

鳥取市　田中　天翔

にっこり笑う美顔のこつを教えられ
笑い皺増えて婆ちゃんらしくなる
過疎進み鈴生りの柿鳥も来ぬ
泡立草の生命力を学びたい

鳥取市　津村　律子

汗で汚れた今日の私にマルをやる
孫そばで夫婦話の腰を折る
逞しい五臓六腑と手を繋ぐ
四面楚歌動じぬ母は逞しい

倉吉市　田中　紀美恵

五引く二が三にならないこともある
再稼働安全神話まだ信じ
一億がみんな活躍できるのか
毎日がいい夫婦の日私たち

倉吉市　中村　毅

久方に身長はかりゃちびていた　境港市　中井虎尾

さあ食べて新米笑うゆげの中
あれやこれ偽装ボロボロこぼれ出る
今深夜砂丘で風が紋づくり　境港市　森脇美和子

大企業墓石までも広告塔（高野山にて）
高野山墓の観光人の波
娘の戒名納めぬままに高野去る
人の波心の中で亡娘呼ぶ　米子市　池岡たけし

秋なのに体も足も頼るくせ
秋なのに体の都合日変わりに
暑さ去り寒さこれから秋深む
秋の日は心の手本伯耆富士　米子市　田村周子

近未来ロボット君と同居する
猫背は家系治したいけど治らない
家族住む同じ穴ぐらよい心地
善と悪えらぶ心が紙一重　米子市　永井三津子

弱い母奮い立たせる子の寝顔
暮の秋きり無く続く落ち葉掃き
落ちてこそ知る人心の裏表
名目は句種探しと居酒屋へ　松江市　相見柳歩

共白髪キミといっしょに風になる
地球へは散歩しに来た訳じゃない
真実を求め夢中でまた磨く
円安のニュースおいもが欲しくなる　出雲市　黒目英男

上達はいつのことやら習い事
発想が奇抜で時代回り出す
スクラムを組み叶えたい夢ひとつ
TPP開けてびっくり玉手箱　雲南市　菅田かつ子

楽しくてちょっぴり背伸びして帰り
秋風に吹かれ蟷螂しがみつき
右の手を病んで左が気を使い
新聞に包まれ年を越す野菜　安来市　原煩悩児

良心より右へならえと議員族
現議員にこれから先が託せるか
老いにまだ燃えるものありテレビスポ
スーパーに天然茸栗も出ぬ　岡山県　池田たか子

柿すだれ小さくなって無人駅
ただいまの声が嬉しい旅みやげ
コーラスの退会惑う八十の坂
退院に心機一転髪染める

コンビニがふえて独身謳歌する
柿落葉けんか相手の妹が病む
ベッドから指令を出している患者
柿採りを応援している鰯雲

岡山県　高岡茂子

高齢者枠で泳ぐと楽な足
薩摩路のおでん屋で食う豚の足
流し台嫁の高さにして平和
苦手には帽子のツバが御辞儀する

岡山市　永見心咲

食べること好きでエプロンよく似合う
笑えないチーズチーズと言ってみる
猫だって名前を呼べばニャーと言う
コンコンと頭叩けど自慢出ず

岡山市　前田恵美子

わたくしの願望を句にのせておく
香ばしくカリカリとした句を作る
出陣の前にお好み焼きを食う
あんパンのあんをとったら君じゃない

笠岡市　藤井智史

ポチとタマ今年も主役年賀状
広告が若がえれると誘ってる
サプリメントねずみも好きで愛用し
犬のモモ呼んだらすぐに飛んで来る

倉敷市　安東モモ

長生きの予定なかったと老母は言う
本能を時々出して若返る
冷房も暖房もあり秋迷う
何年も指パッチンをしていない

玉野市　片岡富子

絵手紙を書き終え食べる柿ぶどう
あと僅か一万冊の読書録
酒飲めぬ父は忠告酒は飲め
平地ではジョギング坂はウォーキング

尾道市　小畑宣之

青信号渡る野良猫見守りぬ
ストレスを仮装に乗せてハロウィーン
読み終えて背筋がピンと張ってくる
縮まったのか脚立ばかりを持ち歩く

竹原市　土井輝恵

七変化佳き日の水は虹になる
女とて七人の敵おりまする
クラス会瞬時に戻る君とちゃん
樹木葬浄土へ伸びる愛がある

竹原市　若年幸子

マヒの手で紙飛行機に夢を折る
水溜まり映った顔が水に笑む
夕暮れてお向かいさんの灯がうれし
年金でささやかな寄付出来ている

竹原市　六田半徳

秋深しスマホに愚痴を並べてる
失言を悔いてリンゴを厚く剥く
罪一つ背負い師走の影法師
おみくじは中の下だった年も暮れ

福山市　藤後卓也

大吉をひくおみくじに声を上げ
一年の早さ年を取る早さ
仏壇の姑へ迎えに来ないでね
川柳という神様へ感謝する

三次市　伊藤寿子

てんと様の都合で今日も雨が降る
奥を読む言葉の深さまだ読めぬ
休肝日今日はビールで止めにする
農作業楽になったと腰伸ばす

山口市　増田めだか

トンネルの彼方あなたの声がする
今朝もまた占い欄にほっとする
マスクするおしゃべりの声高くなる
眼鏡かけ自分の顔をしげしげと

岩国市　上村夢香

鹿児島で国文祭の風に乗る
武家屋敷歩くわたしは宇宙人
指宿に新婚さんはもう来ない
生き埋めの気分味わう砂布団

松山市　神野きっこ

笑いましょそれで二つは若くなる
線引けばそれがスタート台になる
九条に触れると平和脆くなる
揺れるなと言われコスモス汗をかき

今治市　渡邊伊津志

受験期のクセがなおらずユビ暗記
今日あるは剪定バサミのお陰だナ
暴れ川丸いお前は居づらかろ
物言わぬ石垣だけがそれを見た

高知市　三谷松太郎

平穏な日々を願って署名する
ふるさとの池はいつしかマンションへ
玄関先で転びカラスに笑われる
若者の歌わからぬが鐘三つ

福岡県　本田さくら

たわわに熟した柿の独りごと
気がつけばいつの間にやら後期入り
亡夫は子に逢えただろうか彼岸花
炊飯にムカゴを入れて亡母おもう

北九州市　小松紀子

孫よりもドキドキします発表会
院内を走るパソコン患者乗せ
点滴に生命預けるベッド上
大根を見ればおでんを連想す

佐賀県　門井孝

退院はやはり息子に迎えられ
川柳はわが人生の伴走車
めがね替え気分一掃ギア入れる
たのしみは宅配弁当開くまで

佐賀市　清水園實

不自由な足です留守番引き受ける
切り倒し後で見つけた花の芽を
チューリップ百個を埋めた庭静か
玄関の杖に軍手が添えてあり

唐津市　岩崎實

川柳で竹馬の友と再会す
明るさは幸せまでもつれてくる
片意地をはらずゆっくり生きたいな
ひげそりで今日の占い決めている

熊本県　中山芳憲

よか日和男一人の稲収納
腹一杯食べて逝きたい極楽へ
鏡見て笑えば相手も笑顔です
夜なべして祖母と柿むき思い出す

山鹿市　前田幸子

聞かれたらオブジェだと言う健康器具
スタートボタン早く押してとレンジ言う
戸を閉めろピイピうるさい冷蔵庫
寂しさを紛らす友は家電品

山鹿市　米加田恭代

きっとある掘り続けたら我が居場所
ボケたふり一緒に行こうデイケアー
風の匂い昨日も今日も一緒です
マイナンバー自分の名前薄れゆく

山鹿市　柳田白沙

引っ掻いた傷にビビッと痒み止め
龍馬達こんな未来を夢見たか
念押して念押して言う同じ事
飲んべえとフェアな割り勘アンフェア

シドニー　坂上のり子

炊き立ての新米舌を躍らせる
回復の兆しにほっと深呼吸
退職日子らが作ったちらし寿司
しっかりと明日会う事をメモにつけ

札幌市　斉藤宏子

ローカルな私でごめん秋野菜
年を言う枯れ葉にしない思いやり
半熟に迷いをゆでる午前二時
インタビューとまどう私友雄弁

札幌市　富永恵子

水一口次の言葉を考える
薬と薬喧嘩して困ります
失敗も記録しました顔の皺
健康本積ん読ために買いました

登別市　小林碧水

いたかろう強風堪えた傷りんご
肩の荷をおろした林檎背伸びする
泣けてくる傷つきリンゴジャムとなる
小鳥でもおいしいリンゴ知っている

弘前市　髙森一呑

カシオペア揺られて北へ夢運ぶ
乗るよりも撮る人多いカシオペア
フルムーン旅で笑いを取り戻す
傾けど世界遺産はむりなビル

つくば市　嶋本喬

優しさはやっぱり人の宝物
還暦を過ぎても心成長し
ゆっくりな亀でもゴールたどり着く
段々と勢力強くなる白髪

東京都　髙岡弥生

主なき部屋をのぞけば趣味溢れ
思い出をたぐり寄せても答なし
足止めて来た道チョット振り返る
ままごとがきらいな娘今は主婦

伊勢原市　小田幸子

半分はわからぬままに返事する
七十年前の話がまだ出来る
見渡して捨てられる物何もない
オリンピック税金もまた上りそう

佐渡市　髙野不二

富士紅葉見納めかもと目を開く
良い景色見たさのよくばりヒザに来る
同窓会さよならでなくじゃーまたね
来年も期限切れなしまた逢おう

静岡市　渡辺芳子

いとおしい外した指輪軽すぎる
飛び込んで海の怖さを知る幼児
造花では眠る先祖に義理を欠く
老いてまだブランド品を愛してる

江南市　脇田雅美

よろこんだ終戦負けたとも知らず
洗濯係してから元気八〇歳
病院に着くまで持つか救急車
いつ撮ったものか並んで居る母子

京都市　櫻﨑篤子

身長も下方修正される日々
燥いでた彼に黙祷する今年
いのこずちに纏いつかれてどないしょう
半日を喋りたおして干涸びる

大阪府　髙木道子

旅中より帰ってからがよく疲れ
フッと噛む口内炎の地獄待ち
ハロウィンは正体不明のままに過ぎ
整形も頭ばかりは代えられず

大阪市　梅里南天

宿酔がもう飲まないと真顔なり
偕老もそれぞれ小銭溜めており
青春は昭和で終りあと余白
こけた子を待ってる子もいる運動会

大阪市　大治重信

もてあます自縄自縛の縄一つ
行列のうしろ眺めて気を楽に
旅行から旅行へつなぐ老いの道
マンションが傾く前にゆくつもり

交野市　田岡久幸

紅葉散る誰に見られることもなく
鴛鴦の程良き位置に居て夫婦
北風に焼き芋はふはふ小さな幸
生きてきた証のゴミを収集車

大阪市　田中ゆみ子

木洩れ日にもみじに染まる中尊寺
紅葉と匠の業の金色堂
悠久の歴史に馳せる金色堂
角館もみじに映える武家屋敷

大阪市　田中廣子

満月は人の悲しみ吸ったから
焼きみかん火鉢囲んだ幼き日
全盲のペット残して死ねません
皺染みは必死で生きた証です

大阪市　橋本典子

友急逝不意の別れが増えてきた
時々はネクタイ締めて背を伸ばす
たっぷりと睡眠とって知恵絞る
万葉のロマン感じた明日香の地

大阪市　平賀国和

塩だけで旨さ分かればほんまもん
ビットコイン見えぬお金は何時か消え
方言は里の誇りを見せている
老人の一本道も狭過ぎる

大阪市　前川善之

ハロウィン何と日本は平和です
ふり向けば見えないものが見えてくる
簡単にできることから片づける
手に馴染む万年筆の暖かさ

大阪市　松田聰

辛いこと作り笑顔でふきとばす
どことなくあの雲夫の顔にみえ
もう少し回ってほしい古頭
同期会口胃袋も調子良い

大阪市　宮村満寿恵

好きな道九十四で五七五
句集みて柳名つけてみたくなる
頑張り屋目標ちゃんと持っている
天国も川柳あれば楽しかろ

大阪市　吉田知之

枯葉から稼働だめよとメッセージ
のびしろをたくさんもって磨く日々
戦力外しかし気持は現役だ
九条のバトン必ず子や孫へ

堺市　大和峯二

雨ポツリ誰より早く傘をさす
いつからか我が子を叱ることがない
たこ焼きの丸さが君を慰める
よそ見してほんとの幸が見つかった

河内長野市　穂口正子

曖昧に笑った罰だ眠れない
病み上がり夫の歩幅に遅れぎみ
黙黙と草引く人が歩道脇
待ち合せ日にち間違い待ちぼうけ

河内長野市　渡邊修

車庫入れに息子が俺をテストする
年毎にベッドとベッド間あく
医者替えを待合室の数で決め
金なんて巡るものとはあれは嘘

高槻市　鳥居宏

飾ったら自分の声が聞えない
ポスターにいつもふんぞり返る顔
川柳に遊び言いたいことを言う
おとなには森のトトロがもう見えぬ

先わずか仲良くしとこ婆ちゃんと
本当に夫婦の会話楽しいの
孫よりもやっと優しくされだした
孫娘姫になりきる七五三

高槻市　三谷白黒

それぞれの声持ち寄ってコーラス部
あれこれと選び疲れて慣れた靴
口開けて眠り呆ける平和な日
時事漫画の笑いが今日のエネルギー

豊中市　荒巻夢

プライドがしゃしゃり出ぬよう口チャック
いいことを聞くためにある僕の耳
年の瀬へジングルベルが加速する
安保でも最後いつもの茶番劇

豊中市　上出修

とぼとぼと兄の後行く旅わらじ
一陣の風吹き抜ける臓の穴
その昔大根足の妻に寄る
脳鮮度保つ川柳目指すだけ

豊中市　源田啓生

再放送すぐにチャンネル替えられる
老妻と杖が頼りの散歩道
老眼鏡山ほどもって捨てきれず
暑がりで寒がり僕は過敏症

富田林市　小出修三

寝屋川市　大同美江

五郎丸ポーズ真似てる子供達
カラオケで一期一会の友が出来
涙目が真にせまった名演技
偉いなー花は咲く時季知っている

寝屋川市　守家尚世

妻任せ停年からは妻泣かせ
逢いたいね言って計画任せられ
待合わせ近くでスマホ言う時代
夫病み食事気遣い妻スリム

羽曳野市　磯本洋一

新春はテレビまわりで日が暮れる
カチコチと年の瀬の日々気忙しく
アイロンの折目正しく内定日
お茶の間でアイスホットのジェネレーション

羽曳野市　仲谷真一

世間の眼だれが見てるかわからない
手術後の僕に似合わぬサングラス
マイナンバー政府は何を企むか
入れ歯では秋の食欲満たされず

羽曳野市　安本美喜

さまざまな申に囲まれ賀状受く
夕茜あしたは友と食事会
五つ若く見せようとて黒く染め
福祉士の声掛けあって手すりつき

東大阪市　織田登子

ワクワクとときめきながら歳重ね
脳に刺激グーとパーとでボケ防止
おむすびに孫そっくりののりアート
友と会い薬の数を自慢する

枚方市　坂本ミヨノ

かやく御飯天盛りゆげに栗のぞく
秋深く紅葉炎える詩仙堂
猫うなる楽しい恋を犬が追う
岡城跡でハーモニカの音が懐かしい

枚方市　松原保

組織票敗けてたまるか庶民票
紙面には民を欺く記事ばかり
放たれた迷子になった矢が三本
メイドインジャパンの誇り過去のこと

箕面市　寺井柳童

自主性がなくて何でも御尤も
過疎の町若者移住生きかえる
年末を控えあわてて障子貼る
子や孫に頼る気などありません

八尾市　田邊浩三

素顔には鬼も悪魔も住んでない
素顔でも微笑みあれば美人です
素っぴんを五秒で変えるコマーシャル
大変だ酒が美味しくなくなった

胃の切除食欲失せる腹時計
定年後夫婦の和音軋み出す
七転八倒サプライズ期待する
平均寿命より健康寿命だ

八尾市　前田紀雄

スイミング取って隠した絆創膏
聞いたことすぐに忘れてお笑いに
エアフェスタ生命をかけて空見上げ
ダブル選ネット弁慶出ておいで

八尾市　山川寧

わだかまり吐き出しこころ透きとおる
ほら吹きのうわさ承知で夢を聴く
芸事も遊びを入れて長続き
縄暖簾酒と珍味が病みつきに

神戸市　井上忠貞

気になるなあ妻の無口の噴火前
逝くときは星座をぐるっと廻ります
アルバムに想い吹きかけ青春を呼ぶ
産道を抜ければあとは空めざす

神戸市　輿水弘

デイサービスお洒落して行く若返る
礼言うて次のお誘い期待する
ローカル線やさしく刻を知らせてる
遠くからの電話心があたたかい

加東市　黒崎美紗子

見て呉れで決めたら碌なことは無い
目覚しが二度寝許さぬ音で鳴る
献血の量多すぎて立ちくらみ
おばちゃんと呼ばれて怒る喜寿傘寿

尼崎市　清水久美子

ただいまが冷たい部屋を暖める
頑張れと雲を背中の富士登山
たっぷりの愛情孫に嫌がられ
考古学落書さえも夢にする

小野市　田中辰夫

曲ってるキュウリは癒し自然体
若づくり無理は承知のサングラス
ふるさとの手足に戻る盆踊
七十年不戦の空に赤とんぼ

川西市　日野岡和之

風向きに靡けば軽い人と言い
聞き上手嫌事言わず頷いて
死んでても時たま生きる碁の世界
あるがまま過ごして古稀を通り過ぎ

小野市　藤原泰宏

逆らってみても相手が上だった
松茸ごはん数に限りがございます
またやったこれでいいのだ高齢者
ああ平和わが古里の秋祭り

篠山市　佐々木勇

篠山市　永井かほる

達筆の友の手紙は捨てがたい
ふわふわとどこに降りよかゴム風船
急ぐ時小走りさえもつらい年
小走りで回覧届く秋の暮れ

篠山市　藤井美智子

句の種を好奇心から拾い出す
無理きかぬ喜寿の手足の頼りなさ
ふと思う亡夫の言葉の端ばしを
深い穴掘ってオレオレ待っている

三田市　今西廣子

生臭い魚と私酒が消す
女偏諦めきれぬ美容液
許し合う心はいつも柔らかい
もったいない食べてしまった期限切れ

三田市　辻開子

ばたばたと過ごす日日だが充実で
コンビニが老いの生活助けてる
夏バテで食事の拒否が気にかかる
介護され頭を下げるこつ覚え

三田市　東内美智子

もう履くことなくても捨てぬハイヒール
北風もそよ風にする二人連れ
享年は嫌でも一つ足されてる
写経した用紙捨てるに捨てられず

宝塚市　太田としお

八十歳越えて人間光り出す
人間の顔した鬼畜あちこちに
若作りしても若さは戻らない
占いより勘を頼りに生きている

宝塚市　丸山孔一

パスワードひねくり過ぎて出て来ない
カード毎暗証変えて糸縺れ
今日一人トイレのドアも開けたまま
遺憾です善処しますと無責任

西宮市　株元玲子

喜寿迎え道楽の道探し当て
この頃は何故だか明日が気にかかる
紅葉狩り連れもて来たが裏切られ
あれこれと欲張りすぎて早寝する

三木市　山口久子

祖母米寿何時もにこにこ暮してる
湿布薬肩より先に口に張れ
秋祭り母の形見の着物着る
米寿まで苦労かさねた祖母の顔

南あわじ市　萩原狸月

飴だけで育て世間の風に折れ
豊作にTPPの黒い雲
惜しかった走れば乗れたバスが往く
主夫が居て多芸の妻に羽根が生え

奈良市　尾畑なを江

束の間をドラマに浸り主人公
ときどきは自分を褒めてヤル気出す
ＭＲＪこれから日本変わるかも
カロリーもおやつの分は余計なり

奈良市　髙橋仁志

お願いだチャンスの神よこっち向いて
ジャンボくじ当りのチャンス皆同じ
チャンス待ち私の番はまだ来ない
造成地ゲリラ豪雨に悩まされ

奈良市　髙橋敬子

あの人が言うから光る新語録
家宝だと読めぬ文書を見せられる
空腹が世界の歴史かえていく
ゆるキャラを被ればみんな良い人に

香芝市　山下純子

割り引きと目にしただけで向かう足
ダイエットさっぱり効果なく食べる
母の愛たっぷりすぎて息つまる
口下手といって世渡り上手い人

和歌山県　森下よりこ

花がらの手入れ季節の変り目に
決心がいりますたまの外出日
頑張っているなと思う友の句に
根比べだったら負けぬ農に生き

岩出市　村中悦男

ポイントの切りかえ上手生き上手
鍬とればゆらゆら老いに出るやる気
ゆらゆらでいい恙ない日を送りたい
難民に生きよ生きよと見るテレビ

紀の川市　山東日出男

飽食を嘲るように鳴くカラス
心棒を傾けつつも回る独楽
腫れ物に触れて邪悪な膿を出す
強面に悪い人間いないはず

田辺市　大峠可動

一筋の祈りを神に落ちこぼれ
苦しみもねたみも溶かす平和主義
群れを出た猿が威嚇の啖呵きり
恍惚の境地びっしりと枯葉

（前月分）松山市　近藤修二

微睡んだ気持を覚ます潮の風
ほうき雲悩む心をリフレッシュ
盆栽に魚のすがた重ねみる
海峡の渦やる気にさせる右廻り

第152回
大阪川柳の会

日時　2月2日（火）午後1時開場・午後2時締切
会場　大阪市立総合生涯学習センター　第一研修室
宿題と選者（各題2句・席題なし）
△「ほろ酔い」中桐　徹　△「ずるい」久保田半蔵門
△「例えば」鈴木いさお　△「変　化」森中恵美子
会費　1000円　**欠席投句**　2月1日まで　会員に限る
〒532-0025　大阪市淀川区新北野1-3-4-706　本田智彦宛

英語 de Senryu ㊾

麻生路郎句集『旅　人』

英 訳　吉村　侑久代　Kim HORNE

お元日坐るところへ坐らされ
good New Year's Day---
seated the suitable place
for the position

元日の卓上日記晴とだけ
my desktop memo
on New Year's Day
only written "Fine"

New Year's Day 元日　*seated* 坐らされて　*suitable*　ふさわしい、適した
place 場所　*position* 地位　*desktop memo* 備忘録　*written*　書かれて *Fine* 晴天

～リバーウィローのため息～ R.H.ブライスによる川柳の解釈と英訳⑬

前号に続いてブライス著 *SENRYU* の *Other Relations*（人間関係）から川柳を紹介します。

このあばた見つけなんだと仲の良さ（古）

(*"I didn't see this pock-mark / Before!" / They get on well together.*)

「ある日のこと新婚のカップルが楽しく坐っていて、夫が今まで気が付かなかった妻の小さなあばたを突然見つけた。夫は、「それで化粧が濃いのだとわかったよ」と云い、妻は「いいえ、お前さんの眼が節穴なんよ」とやり合っている。この夫婦は今のところは安泰。」とブライスは解説しています。その内に何かが起こって、この平安が崩れそうな予感がしますね。平安が一日でも長く続くようにと見えない祈りの言葉が聞こえそうです。では、もう一句。

後妻は舌のまわらぬ文をかき　（迷亭）

(*The second wife / Writes an awkward / Letter.*)

「溌剌とした女に恋して再婚したが、教養も品性もない。彼女の手紙ときたら、何が書いてあるのかさっぱり分からない」とブライスは述べています。現代の川柳でこのようなことを詠んだり、解説したりすれば、人権侵害だと袋叩きでしょうね。作者の迷亭（1894-1965）は、「きやり」同人。昭和 14 年に渡台して台日新聞に入ります。台北で「台湾川柳社」を興し、川柳誌「国姓爺」を発刊。終戦後は「きやり吟社」顧問として村田周魚を援けます。飄逸奇行の風刺人として知られています。

参考文献：R.H.Blyth, SENRYU（北星堂 1949）p.110,113.
尾藤三柳編『川柳総合事典』（雄山閣 1984）p.307.

誹風柳多留一二篇研究 31

石川道子・小栗清吾
細井龍夫・伊吹和男
山田昭夫
清博美

247 **源三位毎夜そくらをかいに来る**

石川 そくらをかうは、けしかける、扇動する（『江戸語の辞典』）。

頼政（一一〇五～八〇）は源氏であったが平家方につき、のち平家に謀反を企てた人物である。後白河法王の第二皇子高倉宮のもとへ毎夜毎夜伺候し、平家を滅ぼし天皇の位につくよう熱心に勧めた。

高くらを夜ふけて通る源三位　九38
夕すゞになると頼政すゝめに来　拾五28

清 賛。

248 **人なれバとふに出て行さのゝ馬**

石川 謡曲『鉢木』の佐野源左衛門の馬。主人は貧しているので馬の餌とて少なくてまずく、世話にも手が回らない。そのくせ、いざ鎌倉の時は、と馬に大きな働きを期待している。人間ならとっくの昔逃げ出しているだろう。

佐野ゝ馬扨首をたれ屁をすかし　初34
あごで蝿追ふやうな馬常世持　一四30

清 賛。

249 **神風にこりてあきない舷斗**

石川 弘安四年、元軍が襲来したが、大風が吹き元軍は九州で壊滅した。このときの風を神風といった。中国ではこの経験にこりて軍船はやめ、商船ばかりを派遣することにした。

神風にもふこりはてゝうせぬなり　三〇30
神風にぶたやひつじのへどをはき　一九22

清 賛。

250 **すいかんでころんだ上へまりハ落**

石川 装束だけは古式ゆかしく正式なものだが、実技は下手な蹴鞠である。

すいかんで井戸をのぞいた見くるしさ　安四礼1
すいかんでしりもちをつく見ぐるしさ　安三桜1

清 賛。

251 **細見て見てハべちやくちやしやべる也**

石川 吉原は、お女郎さんを買って登楼してこそのもの、吉原細見を見ただけで何だ彼だと聞いた風なことを言っている仁である。

地廻リハ細見よりもたしかなり　宝11仁1
本ぞうの通代みやくしやべるなり　七37

清 賛。

252 **田町からもふいひわけの無イところ**

石川 田町は日本堤の南側にあって吉原に近

い。此処まできては行く以外ない。

あをのけに成て田丁をのりあげる　安四智3

にげそうなのを先キへ立て土手を行　一九19

清　賛。

253　**薬箱もたぬ斗にさまをかへ**

石川　坊さんが吉原へ。ただし薬箱こそ持たないが姿は医者に変装している。

中宿へ出家は入ルといしやか出る　一九5

中宿の内儀おとけて脉を見せ　拾七3

ばか坊主めがとこゝろでハ中やど　天五智9

清　賛。

254　**駕がきハ帰るに牛ハひとつ所コ**

石川　駕篭が勢いよく早いのに対する牛ののろさ。背景は高輪牛町であろう。駕篭かきは客を品川に送り込んで帰って来たのに、牛は悠長にまだそのあたりにいる。

四手駕牛の小百もかけぬける　一〇11

数百本四つ手ハ角をかけぬける　安三仁6

清　賛。

255　**かけとりへくいつみを出す中直り**

石川　大晦日の夜から除夜の鐘後にかけての句。掛取りとの激しい攻防中新年が明けた。双方共もう借金の話は終わり。掛取りにお正月用のくい積を出して勧めながら、お互いに今年もよろしく。

御尤〳〵とて春になり　安四義4

清　賛。

256　**あわとかづさをかけぬけるたいくつさ**

石川　わかりません、が、略解では、所用か何かで品川へ登楼せず駆け抜けるので退屈か、とされている。言われてみれば品川の句に安房・上総が出てくる。品川から海を隔てて見えたのだそうである。一応これに従う。江戸から東海道を上る最初の宿場である品川は、此処まで見送りに来た友人だちと登楼して出発というパターンが多いが、そうもしていられない事情の旅なのか。参勤交代の帰国の旅などであれば、一年間馴染んだ品川も見納め、行列に従い「かけぬけるたいくつさ」といえなくもない。

安房と上総を杉戸にて仕切ル也　一二39

安房上総ほめく二三戒やぶる　一四38

小栗　礎説は、論理的にはそういうことになろうが、色気がない。安房・上総を眺めて海辺の道を四ツ手で駆け抜けている間は退屈で仕方がない。はやく、お目立ての妓楼へ着かないかなあ、ではないか。

山八ツかけぬける内たいくつさ　安六55会

細井　同右。対岸の景色はいいけれど、心ははやる品川へ。破戒坊主。

安房や上総を見はらしてやつ付ル　玉7

清　小栗氏のように解釈し鑑賞して、はじめて作者の意をくみ取ることになる。

257　**こんたんの来た夜初会ハみぢん也**

石川　こんたん（魂胆）は、込み入ったわけのある人、情人（『広辞苑』）。

初会といえば、ただでさえかたちだけということも多いのに、ましてや女郎の情人が来ているとなれば、彼女の気持ちはそちらばかり。こっちはもう散々である。

初会にハさあといふ場て一ッふくし　宝11智2

なげられもしやうかと初会片くろう　一一6

清　賛。

民族の詩歌 (43)

酒

三好専平

大伴旅人が『讃酒歌』のなかで、「酒を飲まない奴は猿に似ている」と言ったが、酒は類人猿の時代から飲まれていたのではないか。「猿酒」というのは、木の実を発酵させた酒であるが、「猿が作って飲んでいたとしたら」

封建時代の武将たちは、相手と正体がなくなるまで酔うことで心を通じ合わせた。酒で国を征服した歴史。

現代社会でも、いわゆる、『無礼講』、酒の席でのあれこれは後に引かない。会社運営の潤滑油。

労働者のための安い酒がどこの国にもある。私も終戦後、焼け跡のウメダのドブロク屋台で激飲した。

平成二十五年、「アルコール健康障害対策基本法」ができ、飲酒運転事故や暴力、自殺などアルコール関連問題対策に政府が乗り出した。

川柳は、この人間と酒の関係にどう挑んできたか。

生酔のつっかい棒にけい子なる　茂
飲まぬやつしごく甘いと強いられる　毅
おはぐろを酢か酒塩のやうに買ひ　昌紀
禁酒して息子親父をはむくなり　幸生
今川もお酒の次には坪のこと　忠
酒だるへ四角に下戸は穴をあけ　菁居

（柳多留）

酒とろりとろり大空のこころかも　篤好
腰が抜けた話を酒の肴にし　奮水
それからは資本家呑ます事にきめ　圭一郎
その書棚酔いに乗じて買うた本　一粋
十二月まがりくねったとこで飲み　郁夫
ビールの泡を吹いて話をそらす気か　霜石
青春を呑むべく生まれ来し如し　蜂朗

（麻生路郎『大空』李白の末裔）

呑み助に会うなと医者の処方箋　茂
飲み友の電話に揺れる休刊日　毅
酒ばかり達者になってゆく句会　昌紀
呑めぬなら死んだがましと言うた筈　幸生
居酒屋で僕を観察する上司　忠
腎臓を病んで酒席と縁が切れ　菁居
混んでいる方が落ち着く立ち飲み屋　篤好
飲み過ぎに注意と瓶に書いてない　奮水
酔いざめの機嫌伺う夜泣きそば　圭一郎
酒好きの人はやはり馬が合う　一粋
禁酒していたら出世はしていない　郁夫
晩酌の一合ほどの夢を見る　霜石
ビールには泡 地球にはオゾン層　蜂朗
生きている恋もお酒も手が届く

（川柳塔五十周年記念誌）

酒飲みのレッテルいまだ色あせぬ　隆樹
卵酒に酔って昔を皮肉られ　昭
甘酒に生姜効かせば亡母の味　みつこ
お迎えが来ぬうちたんと呑んでおく　浩

（川柳塔・平成二十七年・五月号）

注釈は野暮と言うものであろう。

平本勝彦の〝デザインと絵画〟

父ちゃんの散髪屋は当時広島県の理容組合の理事長を務め、呉市長やカープの白石監督など名士御用達の一流店だった。高二まで長男のボクは跡を継いで、散髪屋になるつもりでいたが呉商三年の春、美術の村上先生のひと言で進路は大きく変わってしまう。「平本君はもったいないのお、あんたくらい絵の才がありゃあ美大へ進学したらええのに」。絵を描いてメシが食える!!夢のような話に思えた。ただ既に自分の跡取りとして人生に組み込んでいた息子の造反に一ヶ月悩んだ末、父ちゃんは言った。「ワシは散髪の世界で広島県の一流になった、お前は自分の選んだ絵の世界で一流になれ」。当時大学進学率は12%で「デザイン」という言葉も一般的でなく「日本大学芸術学部美術学科造形専攻」に何とか入学できデザイナーとして第一歩を踏み出した。父ちゃんの無理をした学費と仕送りを考えると背筋がシャンとする思いの十八歳の春であった。

昭和四十一年日芸を卒業、ロッテの宣伝部に入社し四年間で業界のABCを学んで退社。横浜からバイカル号、モスクワ鉄道でウィーンまで渡りヒッチハイクでヨーロッパを一周、ベルギーブリュッセルのデザイン会社に就職した。そこでパッケージデザインと出会った。

日本専売公社・パートナー・1979年当時デザイナーの登龍門と言われたタバコのデザインに34歳で採用された記念すべき作品。

東京オリンピックでグラフィックデザインは日本に定着したが、パッケージデザインは未開の分野だった。「これからはこれだ!」。帰国後パッケージデザイン専門の「平本勝彦デザイン室」をスタート、洋行帰りのデザイナーに仕事が殺到した。指名まで最低20年は待たないと依頼のない専売公社（現JT）のタバコのデザインに強引に売り込みをかけ、三度目のチャンスで「パートナー」のデザイン採用を摑み取った。デザイナー登竜門のパスポートを手にしたのだ。その後、花王、明治、ホクシー、不二家、亀田製菓、フジッコ、日本生協連のコープとクライアントに恵まれて何千点ものパッケージデザインを市場に送り出して来た。

板橋自宅2階アトリエ乃図

又今回掲載の絵は15年前から趣味で描きためた250枚のアクリル画の一部である。今年一月からブログ個展の形で発表している。古稀70歳で振り返ってみると、父ちゃんと約束した「絵の世界」の夢は何とか実現できたのではないかと思う今日この頃である。

二〇一五年 秋 江戸仲山道板橋宿　平本勝彦　拝

http://kenagegumi jugem.jp/

【高瀬霜石とけなげ組と平本霧石人】 毎日更新中。

KURE：BAN11月号より転載

愛染帖

新家　完司　選

（投句　279名）

モツ鍋に初挑戦の文化の日

（評）文化的な過ごし方に苦慮する文化の日。モツ鍋を食したのか作ったのかは不明だが、個人的に「食文化」を深めたのは確か。

奈良市　尾畑なを江

遠慮せずピシャリ諌める改札機

（評）間違ったことは許さない厳格な改札機。高齢者も社長も別嬪も公平に扱うのは優れたところではあるが、いささか態度が冷たい。

高槻市　初代　正彦

思っていることしか言えなくなった

（評）相手に迎合する御愛想は言えなくなった。そして、頭でひねくり回した理屈など嫌になった。達人の境地ではないか。

大阪市　谷口　義

はっとする幸せもらう句会の場

（評）ささいなことで怒る人がいる。ささいなことで「幸せ」を感じる人がいる。生まれつきの性格なのか、苦労した末の境地か。

池田市　上山　堅坊

夕焼けに叫んでみたら咳が出た

（評）美しく懐かしい夕映えを浴びて童心に戻ったのだろう。だが、こころは子供に戻っても身体はそのままなのでゴホゴホン！

鳥取県　細田　裕花

婚活に敗れ孤独死考える

（評）また大層な！　だが、一人暮らしでは「誰にも看取られずに…」という不安はある。出雲大社にお参りして再チャレンジだ。

笠岡市　藤井　智史

ひとり言好きな夫は対話下手

（評）「ひとり言はボケの始まり」の恐れもあるが、好きで言っているなら心配ないだろう。対話が下手なので自分と対話しているのだ。

奈良市　加門　萌子

心では盗みや殺し詐欺もした

（評）誰しも、心の中では何度も法律を犯している。実行に移さなかったのは、ただ単に「運が良かっただけ」かもしれない。

河内長野市　村上　直樹

嫌われる要素充分持っている

（評）欠点もあれば長所もあるのが人間。視点を変えれば欠点は長所であり、長所は欠点である。それを自覚しておれば大丈夫。

西脇市　七反田順子

逝く時もマイナンバーが要りそうだ

（評）ナンバーを提示しないと火葬許可が出ない。火葬が終ると自動的に当該ナンバーは消去される。というようになるのかな？

米子市　生田　和之

奈良市　大久保眞澄

総活躍代理に猫を差し出そう
リモコンもとかくコタツに潜り込む
伸び切った輪ゴムテレビに向けて撃つ

大阪府　米澤　俶子

女性だと見られるうちに専用車
食べること無ければなあとこぼす主婦

奈良市　米田　恭昌

頭数ばかり数えて旅終る
焼夷弾の燃え殻ひとつ家宝です

神戸市　松井　文香

守れない妻の門限午後八時
団体戦足引っ張っている私

札幌市　三浦　強一

もう何が起きてもという歳になり
特養の順番待ちで終わりそう

大阪市　栃尾　奏子

ただいまを言える所がちゃんとある
玄関でも一番偉い父の靴

米子市　竹村紀の治

痛いところ無いが財布がピーと泣く
世の中はハロウィン僕はカボチャ煮る

河内長野市　木見谷孝代

墓移し終活加速する夫
音楽を奏でるように絵筆とる

紀の川市　山東日出男
国際化犬をしつけるのも英語

羽曳野市　徳山みつこ
柿はＫＡＫＩ世界の棚で胸を張る

豊中市　水野　黒兎
納豆を練りながら聞くマニフェスト

鳥取市　奥田　由美
娘の脳もクイの不具合二、三本

茨木市　藤井　正雄
どこまでが勇気どこから無鉄砲

佐賀県　真島久美子
食べたよな食べてないよなラズベリー

河内長野市　松岡　篤
押し花になって脱力する季節

手のひらに書いたメモ消す仕舞風呂

岡山市　藤成　操江
絵を交え介護の母と語り合う

三田市　堀　正和
ランチ堪能お茶漬けでいい晩御飯

米子市　吉田　陽子
山もみじ虫も私も冬支度

熊本市　杉野　羅天
堂々とタクシーに乗る退院日

大阪市　板東　倫子
冷蔵庫ちゃんと座薬も入れてある

三田市　上田ひとみ
下手だねと言われるうちは伸びて行く

河内長野市　穂口　正子
労わりも酷使も駄目と膝が言う

貝塚市　吉道あかね
我が祈り晩節だけは穢すまい

和歌山市　武本　碧
レースカー心身共に若くする

戦争を忘れ戦後を思い出す
大阪は良いと思えば良いところ

岸和田市　雪本　珠子
ドキドキもワクワクもまだポケットに

大阪市　松尾柳右子
おじいさんらしく夫は頑固です

八尾市　山根　妙子
美容液届いてほしい肌深く

米子市　成田　雨奇
悪事以外お誘いはほぼお受けする

大阪市　奥村　五月
誕生日祝ってくれる人といる

岡山市　丹下　凱夫
昔むかし夫もパーマかけていた

松山市　神野きっこ
川柳のすすめ医者からテレビから

桜井市　安土　理恵
人生が五七五に染まりだす

沖縄県　森山　文切
二人して机に向かう午後三時

橿原市　居谷真理子
秋灯下動詞で悩む五七五

羽曳野市　中川ひろ介
選者ではなくて自分が悪かった

小野市　藤原　泰宏
没の句を供養しに行く縄のれん

弘前市　高瀬　霜石
全没がなんだ柳友が出来たぞ

鳥取市　夏目　一粋
川柳を口実にして旅に出る

手招きのとても上手な赤ちょうちん
故郷の地酒は赤土の匂い

大阪市　藤田　武人
腹の虫にまず一献をさしあげる

東大阪市　北村　賢子
こぼれ酒升へ嬉しい新走り

鳥取市　岸本　孝子
頑なな心を解す酒二合

藤井寺市　鈴木いさお
晩酌に集中できる　元気です

枚方市　海老池　洋
生きているあかし晩酌まだつづく

塩竈市　木田比呂朗
晩酌はカロリーゼロに変えました

大阪市　宇都満知子
日本酒が旨い笑顔の父浮かぶ

肌の合う人との酒で雪月花
回らない呂律で天下国家論
二次会へ行ったとこまで覚えてる
二次会そろそろマイク眠そうだ
酔えないよ先に泥酔されたんじゃ

鳥取県　斉尾くにこ
反省のほぼ八割はしゃべりすぎ

唐津市　仁部　四郎
算盤の玉入れ合って議会閉ず

大阪市　平井美智子
モンタージュ写真に似てる娘の彼氏

松山市　栗田　忠士
イレギュラーバウンドにある運不運

東京都　川本真理子
ON・OFFをまめに切り替え凌ぐ日々

枚方市　伊達　郁夫
絵ハガキに孫の体温載せてくる

紀の川市　宇野　幹子
病院の予約してから髪染める

高槻市　富田　美義
オペ無事に終えて強欲再稼働

和歌山市　古久保和子
フランスパン意地で齧っているのです

大阪市　太田としお
あの人もまたあの人も訃報欄

倉吉市　岡﨑美知江
書きかけの遺書気障っぽくなってきた

枚方市　寺川　弘一
禁酒禁煙したが結構楽しいよ

大阪市　大川　桃花
本めくる指先なめて秋を知る

松江市　石橋　芳山
やかましい雨音なにに怒ってか

大阪市　藤原千恵子
紅葉って少し離れて見るものね

堺　市　村上　玄也
元気だと言うが度合いは低レベル

岡山県　池田たか子
焼酎に柿も夫も甘くなる

三田市　北野　哲男
清潔な豚足並ぶガード下

富田林市　中村　惠
横文字を見るたび首を横に振る

鳥取県　竹信　照彦
だんだんと妻もほっとく爺さんだ

香芝市　大内　朝子
木洩れ日ももみじ色して秋の贅

河内長野市　黒岩　靖博
黄昏の麗人ゆらり恋ごころ

八尾市　宮﨑シマ子
猫じゃらしの中に地蔵の赤帽子

豊中市　藤井　則彦
割り引いて聞けば程好い世辞ことば

京都市　高島　啓子
小さいクモ小さい虫へ網を張る

神戸市　奥澤洋次郎
鼻歌もマイク握れば歌えない

堺　市　矢倉　五月
脳トレに四、五日溜めて書く日記

大和郡山市　坊農　柳弘
秘密にはならぬ耳打ち内緒事

鳥取市　倉益　一瑶
ベッドの母に薄情だったなと思う

堺　市　加島　由一
こげめしが好きべったりの婆ちゃん子

岡山市　永見　心咲
ボランティア大人のおむつ縫いました

鳥取市　田中　天翔
社会科が苦手でしたが世も苦手

高槻市　片山かずお
人様と比べなければ出ぬ不満

シドニー　坂上のり子
寝たいのに頭が充電し過ぎてる

大阪市　江島谷勝弘
わが家の伝統風邪引きに改源

海南市　小谷　小雪
すべきこと優先順位つけておく

大阪市　伏見　雅明
あれこれと薬を飲んで胃を壊す

豊中市　松尾美智代
勉強嫌い運動会は花でした

京都市　都倉　求芽
山も海もすてきな戦前の唱歌

神戸市　白川　淑子
秋深しふらりふらりと行く枯野

堺　市　内藤　憲彦
またここに紙袋入り紙袋

鳥取市　吉田　弘子
老いて未だ秋の夕暮れには弱い

唐津市　坂本　蜂朗
補修したハートで妻に感謝する

河内長野市　山岡冨美子
老いという森の深さが分からない

河内長野市　坂上　淳司
夜勤するナースの笑みにありがとう

富田林市　中井　アキ
ため息が続くデパ地下のお節

広島市　岸本　清
日本も偽装の国に成り下がり

鳥取市　永原　昌鼓
強いのは意地と胃袋欲の皮

西宮市　片山　忠
君が代も歌う横綱ほめられる

京都市　桝本　宏子
人生も老後楽しい多色刷り

倉吉市　中村　毅
旬の味カチカチにして閉じ込める

芦屋市　黒田　能子
昨年まで真っすぐわたし歩いてた

紀の川市　辻内　次根
歩く気になれば歩ける九千歩

鳥取市　前田　楓花
転んだら怪我をするので転べない

豊橋市　藤田　千休
為せば成る為さねば成らぬ子沢山

寝屋川市　森　茜
木枯らし一号冷から温にする湿布

京都市　櫻崎　篤子
無抵抗だから引っ張る猫のヒゲ

防府市　坂本　加代
猫好きは犬に吠えられ噛まれたり

西宮市　福島　弘子
ペットロスかける言葉が見つからぬ

弘前市　岡本　花匠
異常気象早目に終える冬仕度

大阪市　柴本ばっは
どこもかもゆるんできたわどないしよう

唐津市　岩崎　實
結納に仲人なしで孫嫁ぐ

岡山県　田中　恵
計画が明日へ明日へと逃げていく

尼崎市　市坪　武臣
体育の日もう走るなと心電図

高槻市　島田千鶴子
暖かい居間は家族の交差点

三田市　福田　好文
坪農園鼻高だかの野菜高

熊本県　岩切　康子
レバー煮の上手に出来た嬉しい日

弘前市　吉川ひとし
鏡見る妻の背中に隙がある

箕面市　広島　巴子
九割は寄付をしてます宝くじ

枚方市　松原　保
旧友が夢に出て来た今どこに

青森県　松山　芳生
舌がバカなのか津軽の味くらべ

鳥取県　山下　節子
騙すのはイヤ騙されるのはもっといや

橋本市　石田　隆彦
少子化のブランコ風と戯れる

芦屋市　竹山千賀子
0点もどこ吹く風のランドセル

神戸市　細川　花門
マスクしていても無口になれません

神戸市　冨永　恭子
鉛筆を鍬に持ち替え茶が甘い

和歌山市　磯部　義雄
塀越えてきた柿の実を摘まみ食い

枚方市　小林　わこ
喉飴の効いて猫なで声になる

富田林市　小出　修三
杖なしで歩けた頃が懐かしい

大阪府　野田　栄呼
正しいと直進してる母譲り

四条畷市　吉岡　修
チャリティーショー愛を集めているのです

大阪市　若本　安代
子の揺れに親も教師も気付けない

河内長野市　藤塚　克三
おばさんの割り勘払いレジが混む

三田市　足立つな子
七十年マニラの森で眠る父

共選欄　檸檬抄

（薫風書、カットとも）

（投句　３６９名）

「ピンク」三浦強一選

マニキュアはピンク老春謳歌する　瀬戸内市　東槇ますみ
ピンク着るやさしい人になりたくて　長岡京市　山田　葉子
ピンク色着て驚いたのは鏡　芦屋市　竹山千賀子
ほんのりと紅差すほどの酒でいい　岡山県　田中　恵
抽出しの底で眠っているピンク　吹田市　木下　敏子
頑張ってピンクの声に励まされ　神戸市　奥澤洋次郎
湯上りの火照った頬に一目惚れ　三田市　多田　雅尚
内緒ですピンクの下着買いました　東かがわ市　川崎ひかり
あかんべえピンクの舌が憎らしい　南あわじ市　萩原　狸月
ピンクの花が昔揺れてたダムの底　島根県　伊藤　寿美
金婚に提げて来たのは明石鯛　三田市　北野　哲男
恋に恋していた頃のピンク色　貝塚市　吉道あかね
下宿屋のピンク電話で恋語り　河内長野市　松岡　篤
ビーナスがピンクに染まる露天風呂　枚方市　伊達　郁夫
白髪にはピンク似合うと自己暗示　西宮市　福島　弘子

「ピンク」長浜美籠選

還暦を過ぎピンクからやりなおす　東京都　川本真理子
童謡に浸ると心までピンク　大阪市　若本　安代
思い出はピンクの箱に入れたまま　芦屋市　黒田　能子
捨てきれぬ思いに混ざるピンク色　倉吉市　渋谷　重利
大人への入口　ピンク映画館　弘前市　高瀬　霜石
最後までピンクを追って終りそう　四條畷市　吉岡　修
ピンクリボン私も検診をうける　大阪市　宇都満知子
ハンカチに包んだ嘘はピンクです　富田林市　中井　アキ
ピンクレディ妻はＵＦＯまだ踊れ　茨木市　島田　誠一
あの人もピンクのリボン頑張ろう　和歌山県　森下よりこ
ピンクなんですが悪玉菌ですの　鳥取県　斉尾くにこ
赤ちゃんを見てると何も彼もピンク　河内長野市　谷　久美子
後期こそ心豊かにピンク着る　鳥取市　吉田　弘子
ひと山をピンクに染めた花に酔い　大阪市　伏見　雅明
惚れっぽい私のハートピンク色　大阪市　古今堂蕉子

いつの日か嫁ぐピンクのランドセル　出雲市　竹治ちかし
試着室ピンクによしと言う勇気　塩竈市　木田比呂朗
童謡に浸ると心までピンク　大阪市　若本　安代
ちがう私ピンクのルージュ引いてみる　大阪市　磯島福貴子
彼なんていません頬はピンク色　大阪市　髙杉　力
年輪に一花咲かす爪ピンク　可児市　板山まみ子
健康でピンクの歯茎褒められる　三田市　久保田千代
ひと山をピンクに染めた花に酔い　大阪市　伏見　雅明
うす桃いろお正月です髪かざり　大阪市　柴本ばっは
壇蜜の吐息はきっとピンク色　大阪市　大川　桃花
わたくしを妖精にするロゼワイン　貝塚市　石田ひろ子
ロゼワイン午前0時は宵の口　尾道市　大本　和子
逢えぬ切なさピンクの酒に泳がせて　出雲市　伊藤　玲子
頬染めて初恋語る母の酒　奈良県　渡辺　富子
心までピンクに染まる大ジョッキ　枚方市　海老池　洋
抽出しにピンクの秘密基地がある　和歌山市　福井　菜摘
がんは嫌ピンクリボンの列に付く　神戸市　上田　和宏
早期発見ピンクリボンのお陰です　犬山市　金子美千代
胸のうち明かされ頬がピンク色　小野市　藤原　泰宏
口紅はピンク言葉を春にする　橿原市　居谷真理子
喜寿傘寿ピンクが似合うペアルック　河内長野市　坂上　淳司
内視鏡ピンクの腸で異状なし　大阪府　米澤　俶子
新妻の頬をピンクに染める屠蘇　三田市　上垣キヨミ

恋してるあの子のほっぺピンク色　伊丹市　平井　富夫
青春はピンクレディにキャンディーズ　鳥取市　前田　楓花
入園式桃色組に大はしゃぎ　箕面市　寺井　柳童
若い日はピンクのくしゃみしてました　鳥取市　倉益　一瑤
逢いに行く日の口紅はピンク色　唐津市　山口　高明
最期までピンクの翼保ちたい　生駒市　飛永ふりこ
下宿屋のピンク電話で恋語り　河内長野市　松岡　篤
インハワイピンクのシャツのペアルック　尼崎市　藤井　宏造
ようやっとピンクの似合う齢になる　桜井市　安土　理恵
秋夜長爪をピンクに塗る孤独　東かがわ市　川﨑ひかり
十二色サクラクレパス手にした日　三田市　足立つな子
恋の字に化学反応してピンク　和歌山市　古久保和子
桃色と呼ぶとびっくりするピンク　神戸市　能勢　利子
元気になって息もピンクになってきた　寝屋川市　冨山ルイ子
コスモスのピンクは媚びる白が好き　尼崎市　清水久美子
スカーフはピンク卒寿の春だもの　大阪市　津村志華子
桃色と言えば情緒があふれだす　鳥取市　夏目　一粋
ピンク着て祝う独りのお正月　三田市　上垣キヨミ
一合の酒がピンクにしてくれる　貝塚市　吉道あかね
褒められてピンクに染まる胸の奥　箕面市　大浦　初音
上気した顔で受けてるインタビュー　三田市　北野　哲男
声変りまだ少年の口ピンク　倉吉市　岡崎美知江
ピンクレディいま蘇る青春譜　河内長野市　村上　直樹

西の空ピンクだ鎌を研いでおく　倉吉市　中村　毅
勝負服はピンクと決めてまだ独り　堺　市　柿花　和夫
恋してる河童の皿はピンク色　宇部市　平田　実男
桃色吐息そんな言葉に恋をする　松山市　栗田　忠士
お妃の衿あし心もちピンク　松江市　川本　畔
満開に虎も輪になる花見酒　札幌市　小沢　淳
見つめられうすくれないに頬染める　池田市　栗田　久子
手を振ると答はそっとピンク色　藤井寺市　鴨谷瑠美子
恋の字に化学反応してピンク　和歌山市　古久保和子
バラ色の人生幻に終わる　東大阪市　佐々木満作
袋とじペーパーナイフゆっくりと　米子市　竹村紀の治
袋とじハサミを入れる自己嫌悪　川西市　山口　不動
エロ本とピンク映画の反抗期　鳥取市　加藤　茶人
大人への入口　ピンク映画館　弘前市　髙瀬　霜石
平均を生きて柩はさくら色　松江市　藤井　寿代
自分史のピンクのページうっふっふ　堺　市　羽田野洋介
ピンク色なき青春を悔いて居る　大阪市　吉内タカ子
ときめきのピンクを纏う時おんな　香芝市　大内　朝子
ピンク色の嘘で慰めてあげる　藤井寺市　太田扶美代

秀　句

花道の馬の脚にも降る桜　男鹿市　伊藤のぶよし
樹木葬さくらの下を予約する　大阪市　大西　晴雄
反安保デモにピンクのワンピース　枚方市　丹後屋　肇

角取れてピンク色です妻と俺　山口市　増田めだか
ピンクのタオル明るく飾る男部屋　池田市　上山　堅坊
触れないでと福島のモモ健やかに　札幌市　小沢　淳
ピンクも白も風と戯る秋桜　弘前市　今　愁女
桃色に染めた昔も遠い過去　横浜市　川島　良子
健康な爪はピンクで自然体　大阪市　津守　柳伸
頬ピンク前向きだけで生きている　西宮市　片山　忠
朱に染まる余白残しているピンク　大和郡山市　坊農　柳弘
かあさんのアルバムいつまでもピンク　青森県　松山　芳生
最高のピンクサクラの満開だ　鳥取県　山下　節子
バラ色の人生幻に終わる　東大阪市　佐々木満作
猪口一杯飲めばピンクに染まってる　鳥取県　竹信　照彦
ピンク色の火種だったら持ってるぞ　大阪市　田浦　實
十八の恋はピンクの息を吐く　堺　市　加島　由一
桃色の風と遊んだだけの恋　高槻市　原　洋志
桃色になったらきっと発芽する　岡山市　丹下　凱夫
衿元のピンクぐらいは許されよ　吹田市　木下　敏子
手を洗い薄紅色の孫を抱く　高槻市　富田　美義
いつの日か嫁ぐピンクのランドセル　出雲市　竹治ちかし

秀　句

口紅はピンク言葉を春にする　橿原市　居谷真理子
花道の馬の脚にも降るさくら　男鹿市　伊藤のぶよし
ラヴィアンローズ心変わりは許さない　西予市　黒田　茂代

「巡　る」

（投句　216名）

海老池　洋　選

難民の叫び届かぬ鉄条網　西宮市　福島　弘子
靖国へ歴史を巡ることさせぬ　三田市　北野　哲男
捨てたのは人間宇宙回るゴミ　四條畷市　吉岡　修
宇宙遊泳そして男は星になる　大和郡山市　坊農　柳弘
富士の湧水百年前に降った雨　豊中市　松尾美智代
み仏に巡り合うまで続く旅　和歌山市　福井　菜摘
書を伏せて先ず御近所の寺社めぐり　唐津市　仁部　四郎
一病と共に遍路の旅に出る　橿原市　居谷真理子
巡礼の目も澄みわたる満願日　豊橋市　藤田　千休
遍路道何度も巡る深い罪　八尾市　宮崎シマ子
人の世に哀楽重ね季は巡る　豊中市　水野　黒兎
巡る季の幸も途絶えて遠い里　出雲市　竹治ちかし
幾山河巡り卒寿の年新た　八尾市　高杉　千歩
古代から春夏秋冬狂わない　枚方市　寺川　弘一
巡る春信じて枯葉地に還る　奈良県　渡辺　富子
来年も又咲いてネと追肥する　堺　市　矢倉　五月
表向きお参りですが味巡り　大阪市　柴本ばっは
古書巡り昼は老舗のそば処　茨木市　藤井　正雄
別れがたい二人何度も巡り道　東大阪市　北村　賢子
ご焼香思いは巡る走馬灯　奈良市　米田　恭昌

人生の岐路に逡巡するばかり　東大阪市　佐々木満作
苦も楽も巡り巡ってみな宝　大阪市　内田志津子
輪廻転生やっぱり人に生まれたい　和歌山市　武本　碧
楽しまん浮世巡りもあと少し　西宮市　緒方美津子
巡るたび昭和の景色消える郷　弘前市　福士　慕情
ポスターで巡る温泉紅葉狩り　大阪市　古今堂蕉子
病院の全科巡って歳デンな　高槻市　富田　美義
血の巡りいいのか何時もいい笑顔　吹田市　木下　敏子
一巡りしたら太っていた噂　堺　市　村上　玄也
遺産を巡り争うなんて幸せな　三田市　福田　好文
巡り合い神のいたずらかも知れぬ　長岡京市　山田　葉子
巡り合い無期懲役に処せられる　三田市　堀　正和

佳　句

幸せな巡り合わせにありがとう　八尾市　村上ミツ子
幸せがきっと巡ってくる明日　紀の川市　楠原　富香
良い種を蒔けばいい事巡り来る　香芝市　大内　朝子
前世はきっと瞬間湯沸かし器　堺　市　内藤　憲彦
回転木馬終着駅はまだ見えず　大阪府　米澤　俶子

人

遍路百回涅槃の境はまだ遠い　松山市　栗田　忠士

地

巡り合いのその後は知らぬ沙羅双樹　藤井寺市　太田扶美代

天

祖父母・父母・僕と続いてゆく螺旋　弘前市　髙瀬　霜石

軸

巡り合わせあって人生面白い

「手　柄」

（投句　212名）

鴨谷　瑠美子　選

川柳で特選とったことがある　鳥取市　土橋　螢
ノーベル賞日本の偉大なる手柄　香芝市　大内　朝子
ラグビー界手柄はためく五郎丸　生駒市　飛永ふりこ
十二桁マイナンバーを暗記する　大阪市　大西　晴雄
すごいねと人の手柄をほめそやす　豊中市　水野　黒兎
名監督は選手の手柄だけを言い　鳥取市　岸本　宏章
武勇伝大袈裟なのが面白い　奈良県　安福　和夫
五十年手柄はママと賞められる　大阪市　古今堂蕉子
たっぷりと妻がヘソクリ持っていた　堺　市　内藤　憲彦
肩書きが部下の手柄を独り占め　三原市　鴨田　昭紀
上役の手柄話が長すぎる　堺　市　村上　玄也
数々の手柄のパレード御堂筋　藤井寺市　田付　絹枝
お手柄の自慢話を横できく　和歌山市　北原　昭枝
戦争の手柄話はもうごめん　堺　市　大隅　克博
酔う程に手柄話も酔うて来て　河内長野市　松岡　篤
目立ちたがりの手柄話で不味い酒　西宮市　足立　茂
自慢して手柄の値打ち下げている　池田市　上山　堅坊
当たったぞたった一枚買ったクジ　三田市　堀　正和
お手柄ねみんなやる気になって来た　長岡京市　山田　葉子
手柄話少しの嘘は許される　羽曳野市　吉村久仁雄

命さえ無事なら手柄など要らぬ　藤井寺市　鈴木いさお
兵役の父手柄話はしたがらず　堺　市　奥　時雄
手柄顔せぬ嫁に感謝のことば　倉吉市　山中　康子
婿養子納得させたひとりっ娘　堺　市　矢倉　五月
百歳の父の手柄は手が語る　大阪市　若本　安代
親孝行自慢ばなしを聞いてあげ　藤井寺市　太田扶美代
手柄にはしないが蔭の力持ち　鳥取県　石谷美恵子
本当の手柄は陰のボランティア　西予市　黒田　茂代
子の手柄少し誇張の親心　茨木市　藤井　正雄
年の功荒れる会議もまとめあげ　河内長野市　藤塚　克三
お手柄は明日になったら忘れられ　岡山県　紫　しめの
あの人のめったに見せぬ手柄顔　和歌山市　武本　碧

佳　句

失敗談手柄話になっている　吹田市　須磨　活恵
自慢する手柄はないが人が寄る　小野市　藤原　泰宏
功績を上げたら鼻が高くなる　紀の川市　楠原　富香
大手柄あなた選んだ私の目　貝塚市　吉道あかね
棚ぼたで僕の手柄になりました　沖縄県　森山　文切

人

洪水にヘリの活躍忘れない　西宮市　緒方美津子

地

宴席で正論手柄の第一歩　唐津市　仁部　四郎

天

ちちははのお手柄いのちありがとう　弘前市　福士　慕情

軸

お手柄と言われて心引き締める

「アピール」

（投句　207名）

金川宣子選

日本は不戦誓った国ですよ　大阪市　江島谷勝弘
ジャパネット大きな声と割引きと　鳥取県　山下　節子
三面鏡アピール角度探る女　河内長野市　藤塚　克三
大食いがアピールしてる皿の数　大阪市　奥村　五月
母さんが好きでいたずらばかりする　香芝市　大内　朝子
何色にも染まるアピールしてる白　奈良県　渡辺　富子
ふんばってオギャア一声あげました　西脇市　七反田順子
蛍光の夜の散歩のたすき掛け　防府市　坂本　加代
しっかりと主張しているもみじの手　三田市　上田ひとみ
手土産にランクを上げた菓子を買う　大阪市　内田志津子
アピールは丸く可愛いだんご鼻　大阪市　榎本　舞夢
よくもまあ自分のことを良く言うね　大阪市　坂　裕之
折り鶴を置いて静かに席を立つ　佐賀県　真島久美子
アピールが足りず落選した憂き目　和歌山市　磯部　義雄
ハイ・ハイとアピール続く参観日　弘前市　稲見　則彦
デイケアの化粧タイムに笑い声　河内長野市　坂上　淳司
大声で挙手した人を指名する　和泉市　横山　捷也
明日開くパワーアピールする蕾　大阪府　米澤　俶子
幸せをアピールしているペアルック　藤井寺市　太田扶美代
ユルキャラに期待している街おこし　四條畷市　吉岡　修
アピールでファールボールがホームラン　宝塚市　太田としお
名前だけ連呼して行く選挙カー　橋本市　石田　隆彦
オレオレとノック3回開けぬ妻　富田林市　山野　寿之
幼子がおもちゃ売り場で座り込む　三田市　九村　義徳
さりげない言葉の中にある自慢　犬山市　関本かつ子
小さ目のTシャツが好き筋肉マン　松原市　森松まつお
関心を引こうと孔雀羽根ひろげ　藤井寺市　鈴木いさお
のんびりを宿がアピールランプの灯　海南市　小谷　小雪
でっかいぞ道頓堀の動く蟹　三田市　北野　哲男
手をあげるおけいこもする参観日　堺　市　矢倉　五月
花まるが息せき切って訴える　塩竈市　木田比呂朗
政治家の胸でアピール赤い羽根　大阪市　伏見　雅明

佳　句

シクラメンずらり並んで冬が来る　貝塚市　吉道あかね
税抜きの価格で安く見せている　小野市　藤原　泰宏
グローブを上げて捕ったと立ちあがり　可児市　板山まみ子
寝たきりが目でアピールのありがとう　茨木市　藤井　正雄
九条をもっとアピールしましょうよ　枚方市　寺川　弘一

人

やせ薬アピール効果財布だけ　三田市　上垣キヨミ

地

国民のアピール無視の安保法　西予市　黒田　茂代

天

論点の乱れを正す咳一つ　堺　市　内藤　憲彦

軸

サンタ日に大きな丸がつけてある

初心者教室

題 ― 記憶

山口光久

新年おめでとうございます。

今年も多くの方のご投句を期待していますが、出来れば早い機会に、水煙抄欄から川柳塔欄への投句を願っています。

人名、地名、書名、商品名などの固有名詞を一句の中に入れると特殊な効果をもたらす事があります。固有名詞を使うことで、

① 現実性を帯びて句が生きてくる。

② 句にムードを与える。

③ 作者の好みや心理状態が強調される。

等々の効果があります。反面動く句、報告句、説明句になりがちなのも事実です。

てんとう虫ここにも小さい輪島塗　薫　風

親も子もブランドを着る神戸線　みつ子

転んでも安藤美姫は色っぽい　昌　紀

注意しなければいけないのは誹謗中傷、個人攻撃、デマなどです。

さらに、人名、商品名等が一般的に知られた固有名詞であることが条件です。

祝吟、弔吟では人名を直接詠み込むのが普通です。

【添　削】

原 パスワード分からなくなり動かない　モ　モ

パスワードは大事な暗証番号、度忘れをしたら途方にくれるでしょう。キャッシュカードの暗証番号もパスワードの一種。

添 パスワード思い出せずに動かせぬ

原 幸せにすると確かに言いました　亜希子

「言いました」は自分が、相手に言った言葉か、相手が自分に言ったか分かり難い。どちらにも取れます。「聞きました」ならはっきりしますね。

添 幸せにすると確かに聞きました

原 みぞおちの一打に思わず膝をつく　ゆかり

中八になっています。間延びをした感じでリズムも悪いです。中七、下五はきっちり守りましょう。字数の関係で、字余りになる時は上五に持っていきましょう。

添 みぞおちへの一打思わず膝をつく

原 古コート去年の名残の赤い羽根　(斉)宏　子

この句も中八です。助詞一字を省くと中七に収まります。

添 古コート去年の名残り赤い羽根

原 初恋の人が記憶にない恐怖　ひろこ

添 初恋の人の記憶が消えている

原 丁寧にしまっておいたあの記憶　心　咲

「あの記憶」では焦点が惚けてきます。作者自身はよく分っているでしょうが、読者には分りません。独り善がりに陥ってはいけません。どんな記憶か特定した方がよいでしょう。具体的に。

添 丁寧にしまっておいたプロポーズ

原 記憶力試めされているのは私　修　三

添 記憶力試されている認知症

原 朝夕の食事の記憶しっかりと　(山)久　子

添 朝夕の食事で試す記憶力

原 いい記憶しか残らない亡き父母の　(高)弥　生

添 いい事しか記憶してない父母のこと

原 婚前に多かったのが義父と文　尚　世

添 婚前は存在感のあった義父

原 記憶装置ダウン海釣りの仕掛け　清　司

添 記憶装置ダウンで仕掛け儘ならぬ

原 鈴鳴らす母の記憶を聞く介護　重　利

添 鈴鳴らし母の記憶を呼び覚ます

原 子の顔を思い出せない親哀れ　柳　三

「哀れ」が適切か否か考えてみましょう

添 子の顔を思い出せない認知症

原 昨日より幼なき頃の記憶ある　満寿恵
添 昨日より幼い日々が鮮明に
原 野良だってやさしい人は忘れない　(前)洋子
「野良」では紛らわしいので、はっきりと、野良犬とした方が分り易いでしょう。
添 野良犬もやさしい人を忘れない

【少しの工夫でよくなる句】

原 参観日記憶に深い父の顔　ミヨノ
添 参観日記憶に残る父の顔
原 安保ってノンポリのまま半世紀　寧
添 安保法ノンポリのまま半世紀
原 記憶力頼りにならぬメモを取る　加代
添 記憶力頼りにならずメモを取る
原 夫婦傘記憶違いも半世紀　勝治
添 夫婦傘記憶違いで半世紀
原 無くしたい記憶が今も鮮明に　福貴子
添 無くしたい記憶が今もこびりつく
原 お偉方記憶にないと逃げをきる　美智子
添 お偉方記憶にないと逃げを打つ

【入選句】

池田屋に龍馬の生きた証追う　のり子
父母の記憶が僕を支えてる　国和
さっぱりと忘れたい事多くあり　美紗子
うれしかった今日の出来事忘れない　開子
戦争の記憶死ぬまで忘れない　こずえ
陸前高田一本松は記憶する　義徳
昨晩のおかずうかばずちょい不安　紀雄
父ちゃんの名前忘れてそこの人　純子
同窓会記憶ある顔誰だっけ
全没の記憶はすぐに忘れたい
その事は記憶に無いと白を切る
日記帳記憶呼び寄せ補足する　洋子
焼きついて離れぬ記憶八月忌　泰宏
思い出が湯気でぼやける宿の風呂　昭枝
記憶力過去の私が消えていく　紀美恵
長年の記憶をたどる老いの旅　孔一
記憶では母のおにぎりまんまるい　(山)弘子
脳回路ゆるんで記憶にげて行く　忠士
忘れたと言えば認知と思われる　勝正
ジョークにも本音を記憶させておく
目印の記憶のそば屋消えている　(今)廣子
七回忌母の記憶を忘れまい　和之
青春のタイムカプセル掘り起す　智史
記憶には皆無の甘い妻の声　登子
記録見てやっと記憶が甦る　孝明
老いるほど里の記憶がよみがえる　忠士
ときめきの記憶を辿るフルムーン　(田)廣子
ハネムーン同じ宿ですフルムーン　安子
記憶力少し怪しくなって来た　敏昭
ひもじさは確かな記憶戦中派　洋一
ひろ介　(高)道子
アルバムが記憶の扉ノックする　敬子
3・11目蓋に浮かぶあの悲劇　英男
姑のことばが今もこびりつく　ひとし

【佳句】

神様が時折記憶ゼロにする　由美
同窓会遠い記憶が蘇り　元三
共にきたふたりの記憶つないでる　(見)温子
脳トレで少し記憶が蘇る　狸月
前日の夕食思い出せぬまま　きっこ
孔一　秋星

【今月の推せん句】

サイレンを聞けば空襲思い出す　畑中　節子

戦中派の方は、サイレンが鳴ると空襲警報を思い出します。学校や公園、田舎では各家庭に防空壕がありました。

パッタリと会って記憶の点と線　富永　恵子

何年振りかでばったり出会った旧友、往時の面影はない。名前すら思い出せない。記憶を辿りながら語り合うことに。

あなた誰言われながらも介護する　津村　律子

認知症が進むと我が子さえも分からない。悲しい事ですが、それが現実です。認知症の人には笑顔で接するようにと言われています。必ず、笑顔が返って来るとか。

【私の句】

苦労した記憶は脳裏はなれない　喬

川柳塔鑑賞

同人吟　前　たもつ
—12月号から

ドキドキし川柳塔のページ繰る
山下　凱柳

どんな川柳に会えるだろうか。あの人はどんな句を見せてくれるだろうか。わくわくしながら柳誌を繰る。私も全く同じ気持です。読むだけでは足りず、時には電話をしたりして……。

顔浮べ柳誌を読めば皆名句（たもつ）

人恋しヒャリコヒャラリコ笛を吹く
居谷　真理子

「秋が来て笛は太鼓を恋しがる」薫風先生の句を思い出します。笛は薫風先生、太鼓は寺尾俊平さん。オノマトペの効いたリズムのよい句です。

枯れるまで恋とワルサをしてやろう
川端　一歩

毎日が忙しくて時間が足りない人が恋とワルサの出来るはずがない。一歩さんとはこんな遊び心の句が作れる人なのです。

ノーベル賞に拍手している微生物
藤井　則彦

ノーベル賞を題にした多くの中から、擬人法の効いた句を選びました。大村博士は行く先々で土を集め、一グラムの土に一億もの微生物がいる中から、風土病に効く菌を発見された。この大偉業に微生物に拍手をさせ、ノーベル賞を称えた手法は妙。

安保法曼珠沙華まで立ち上がる
福島　弘子

安保法と曼珠沙華という二物衝撃法で日本の将来を左右する問題を訴えている。「惜しみなく愛は奪えと曼珠沙華」の薫風先生も褒めておられることでしょう。

戦争は反対だろう蟻の列
太田　昭

蟻は種族を守る時しか攻撃しないと言う。ライオンも満腹の時は襲わないらしい。動物はもともと平和主義。

国勢調査聞いてくれない幸福度
内藤　憲彦

一三二一句中、国勢調査に物申した。目付けのよい句の見本です。句の鑑賞は句を選ぶことであるとこの句から学ぶ。

爆買いにケチをつけてはいけません
江島谷　勝弘

さてここは日本国かと観光地
稲見　則彦

中国の観光客は年間一五〇〇万人。落とす金は数千億と聞く。大阪の観光地も爆買いで溢れています。ところが空港はゴミだらけ……。でもありがたいお客さんです。ケチをつけてはいけません。

八十五まさかまさかの表彰式
中井　アキ

路郎賞準優秀作第一席おめでとうございます。まさかまさかどころか当然のご褒美です。女性の平均寿命86・83歳。まだ進化中です。

兄ちゃんと駆けた棚田は藪になり
平松　かすみ

古里に帰り荒れて行く田や畑を見るのは辛い。そんな気持を代弁してくれました。

「千枚田親父も兄ももう居ない」

年金じゃ介護施設もはいれない

山口　高明

医療をともなう介護施設は、月二十数万はかかるとか。どちらかが入れても、夫婦は無理。身近で深刻な問題の提起。

不覚にも見抜けなかった子の悩み

津田　シルク

中学生のいじめによる自殺が続く。元気に送り出したわが子がその日のうちに自殺する。不覚などと言い表せない親の心境を読まれました。

あなたより一日でも長く生きねばと

伊藤　アヤ子

大方のご夫婦は連合いよりも早く逝きたいと思っていると思う。アヤ子さんは違います。「あなたより一日でも長く生きねば」と。これは本当の愛です。下五の「と」に決意のようなものを感じる。きっとすばらしいご夫婦でしょう。

大都会土を探しているモグラ

竹山　千賀子

大都会で土を探しているのはモグラだけではありません。マンションのベランダは雨が入らず、ねぎも育ちません。菜園で土を耕す夢ばかり見ています。

長生きのつまりは長期納税者

糀谷　和郎

長生きすることは長期納税者ということ。今、和郎さんに教えていただきました。「長生きのつまりは」の表現は川柳的です。リズムのよい句です。

どこへ行ったか公園にいた赤トンボ

堀　正和

赤とんぼの里龍野でも赤とんぼが減ったと以前聞いたことがある。一体どこへ行ったのでしょう。他にも赤とんぼの句がありました。いつまでも赤とんぼの句をつくりたいものです。

お早うを妻と自然に交わせない

片山　忠

私も長い間気まずい朝を過ごしていました。妻の「おはよう」がきっかけで挨拶を交わすようになりました。思い切って「お早う」と言ってみましょう。

死ぬなんて考えたことないこの私

榎本　日の出

この私だけでなく、誰もが死ぬなんてかんがえたくないのです。きっと人間のいつまでも生きたいという欲の仕業でしょう。

地球軸傾く難民の居場所

山岡　冨美子

有刺鉄線やっとひらいたすきまあり

まえで　とよこ

ISに追われたシリア難民は西ヨーロッパを目指すニュースは重い。ギリシャ国境の鉄条網をくぐり抜ける子どもの姿が今も焼き付いて離れない。難民が早く落ち着き、難民などない世界を祈っている最中、パリ同時多発テロ発生。

玉手箱譲られ開けるのが怖い

西口　いわゑ

この玉手箱は半世紀以上も連れ添ったご主人からの譲りものでしょう。開けるのが何となく怖い気持がわかります。

滅多なことで落ちては来ないシャンデリア

寺川　弘一

シャンデリアはめったなことで落ちては来ないという発想は弘一さんのセンス。このシャンデリアは動かない。

赤信号だらけの体へっちゃらさ

松本　文子

「赤信号だらけの体」の巧みな比喩が「へっちゃらさ」へうまくつながります。文子さんの元気いっぱいの句に喝采。

（投句２１０名）

本当に月日の巡りは早いもので、また新しい年を迎えました。

毎年のことですが、今年こそは何か自分自身に納得のゆくことをしたいと思いばかりが焦ります。

しかし、そんな中で、この「インスピレーション・ナビ」のように、皆様方の新鮮な発想に触れると心満たされることしきりです。

本年もよろしくお願いいたします。

来年は買い換えようね扇風機　横浜市　川島　良子

（評）節電意識の高まる中、エコな扇風機が見直され大活躍です。来年は新しい扇風機で、ますますエコライフ。

悪もんは私ひとりじゃおまへんで　堺市　大隅　克博

（評）〈悪もん〉と関西弁で言われると悪人とは別物になってしまいます。立場上そないなってしもたんや、みたいな。

老い二人いつも会話はずれている　大阪市　石橋　直子

（評）ずれた会話でも、それが妙に噛み合って、何ということなく日常が回っている平穏さがまた可笑しいですね。

傷ついた数だけ友が増えてゆく　河内長野市　山岡冨美子

（評）自分の心が傷けば、それを教訓として他人を思いやる気持ちが生まれます。その温かさに人は打たれるのでしょう。

人畜を管理なさるかマイナンバー　姫路市　古川　奮水

（評）人間を、ではなく〈人畜を〉と詠まれたところがすごいです。管理する方から見れば一緒だなんて許せない。

なあ妻よ本命外したから会えた　大阪市　田中ゆみ子

（評）人生すべて塞翁が馬、というところでしょうか。あの時、よくぞ外れてくれたと感謝。

玉葱の芯のあたりにある本音　枚方市　海老池　洋

（評）剝いてむいて、芯の近くまでやっと辿り着けば出てくる本音。心許すまではなかなか遠い道のりです。

那須与一よお前も後期高齢者　松江市　石橋　芳山

（評）那須与一さん、お懐かしい名前ですね。後期高齢者というコトバが妙に生々しく響きます。

針山の針がご機嫌ななめです　和歌山市　武本　碧

（評）ご機嫌ななめなのは針の出番が少ないからでしょうか。この頃は針箱の無い家庭もずいぶんあるようですもの。

目玉おやじも時にはおシャレしてみたい　紀ノ川市　山東日出男

（評）水木しげるセンセイもとうとう鬼籍に。ところで、目玉おやじのおシャレってどうするのでしょうね。

行先をダーツで決める一人旅　河内長野市　木見谷孝代

中心に母がいるから好き勝手　芦屋市　黒田　能子

奇を衒う帽子を的にされている　横浜市　菊地　正勝

人間はいつも満点取りたがる　大阪市　栃尾　奏子

太陽光集め収入得ています　東大阪市　北村　賢子

叩かれて私は丸くなりました　鳥取市　山下　凱柳

アボカドの種に魂胆ありそうな　和歌山市　楠見　章子

痛い目に遭って反省しています　高槻市　島田千鶴子

七人の敵に一本矢が足りぬ　東大阪市　佐々木満作

米子市　八木　千代
浅傷(あさで)だと思うあの日に比べれば

藤井寺市　太田扶美代
こんなのどうです風力発電機

大阪市　藤田　武人
的外れここまでくれば意地になる

橿原市　居谷真理子
湖の竜を怒らせてはならぬ

男鹿市　伊藤のぶよし
美人なら任せてくれと付けまつ毛

貝塚市　石田ひろ子
ほっこりと芋焼き上がる落葉焚き

河内長野市　渡邊　修
婚活も的が次第に広くなる

明石市　椛谷　和郎
非常口ひとつだけではやばいです

高槻市　富田　美義
的外れ空に向ってバカヤロー

富田林市　中井　アキ
シナリオにゲームセットの文字はない

西宮市　亀岡　哲子
バイリンガル宇宙ことばもいりますな

羽曳野市　中川ひろ介
子等囲むパンプキンパイ焼く匂い

香芝市　大内　朝子
ガヤガヤと的のはずれている会議

笠岡市　藤井　智史
ドーピングしてまでメダル欲しくない

吹田市　山本希久子
悩みごとどんと引き受け母でいる

藤井寺市　若松　雅枝
笛太鼓天のうずめが踊り出す

弘前市　高瀬　霜石
ピピピピピピ一億電波依存症

羽曳野市　徳山みつこ
幸運の矢だ寄っといでよっといで

宝塚市　田中　章子
戦争をする国武器を売るお国

倉吉市　山中　康子
宝くじ当って怖い人もいる

藤井寺市　鈴木いさお
満身創痍やって来ましたシリアから

大阪市　大西　晴雄
ひまわりの中に顔出すチューリップ

八尾市　山根　妙子
歳末の大売出しが始まるよ

高槻市　片山かずお
まだ新米のキューピットです悪しからず

藤井寺市　鴨谷瑠美子
映画村にこんな道具があったわね

弘前市　吉川ひとし
綻びが目立ち始めて来た地球

尼崎市　清水久美子
的を射た矢と引き換えに米二俵

生駒市　飛永ふりこ
どんと来い矢面になる覚悟でき

大洲市　花岡　順子
幸せがこんなにめまい起こりそう

池田市　上山　堅坊
六本のカンフル剤も効かないわ

富田林市　中村　惠
あたーりー誰と行こうかペア旅行

橋本市　石田　隆彦
倍の矢で対抗せぬか野党殿

河内長野市　穂口　正子
もてすぎて困ったことも有ったっけ

羽曳野市　宇都宮ちづる
嫁ぎ先釣り合いとれぬ娘を案じ

沖縄県　森山　文切
人類の起源に戻りたい地球

大阪市　内田志津子
豪雨去り根雪も溶けてやがて春

八尾市　新海　信二
着地点なんでこんなに片寄るの

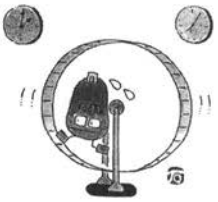
藤井寺市　田付　絹枝
待ち針の数をメモして針仕事

河内長野市　大島ともこ
的役は依願退職致します

弘前市　稲見　則彦
雪合戦どうしてこんな羽目になる

西宮市　片山　忠
じたばたすると薬の量が増えてくる

3月号発表
(1月15日締切)



柳箋に2句

水煙抄鑑賞

—12月号から

島　ひかる

うたた寝に猛暑恋しい肌寒さ

見山　温子

正月が超特急でやって来る

近藤　秋星

つい先日まで暑い暑いと過ごした日々なのに、いつの間にか肌寒さを感じる頃になり、もうお正月。歳月が超特急で過ぎて行きます。

明日は何事があるか分らない、一日一日を大切に感謝しつつ生きたいと思う。

古希の坂心はいつも始発駅

大和　峯二

人は何歳になっても心はいつも始発駅のようで居られるとは前向きでいいね。

ひと言を控え同居の輪に和む

伊藤　寿子

そうそうひと言多い人が居ます。〝輪に和む〟特に同居の場合同感です。

笑い皺増やしてみんな寄席を出る

中村　毅

笑うつぼ違う夫婦で五十年

田中　天翔

〝笑う門には福来たる〟昔の人はいい事を言いました。人は笑った数だけ元気になるそうです。

寄席に行けなくても、笑うつぼが違っても大いに笑いましょう。

この人と居ると呼吸が楽になる

田中　ゆみ子

確かに居ますね、親、兄弟、姉妹、友達、恋人、ゆみ子さんにとっては誰？わたしには四歳違いの妹でした。その妹がこの文を書く数日前に亡くなりました。

おーいおい貴方私の名を呼んで

田中　紀美子

世の男性の殆どが「おーいおい」です。わたしにも名前があるのよ名前で呼んでちょうだい!!かわいい女ごころ、それとも。

どうしてもウサギに見えぬお月さま

坂本　加代

加代さんどうしてもウサギが見えないですか、こころ静かにじーっと見て居ると観えて来ます、こころの眼。

能登めぐり妻の化粧は輪島ぬり

岡本　勲

今の新幹線でお出掛けでしたのね、妻の化粧は輪島ぬりとは畏れ入りました。

壁ドンはバンツとズボン履く時よ

平井　富夫

〝壁ドン〟流行語になりました。壁ドンする時される時、ドキドキハラハラですがこの様な壁ドンが在ることに身も心も安心しました。

心配を酒で薄めてうまく生き

藤後　卓也

心配をお酒で薄めるとは上手い表現。うまく生きるには飲み過ぎない様に、ストレスにならない程の我慢です。

写経して命のリズムととのえる

宮宅　比佐恵

比佐恵さんは写経して命のリズムをととのえるのですね、私は般若心経を唱えて心のリズムを整えて居ます。

煩悩の跡形もなしお骨上げ

荒巻　夢

数日前妹の白骨と向き合いました。一部薄らピンク色、微笑んで居る様でした。

※赤い百合の色素が残ったと説明。

同人特集 私の一句

（順不同）

句碑一基私が立っているように　竹原市　小島蘭幸

鉛筆を離すとただのおじいさん　鳥取県　新家完司

浅漬の茄子も胡瓜もよく喋る　和歌山市　川上大輪

寂しさがゆらり祭のうしろから　大阪市　西出楓楽

失言の取消し真意よくわかり　唐津市　仁部四郎

挙手の礼しながら落ちていく椿　米子市　八木千代

七十億たった一人の僕と知る　大阪市　前たもつ

少しずつ晴れる少しずつ戻る　桜井市　安土理恵

此処で死ねない生きて帰ると父決意　奈良市　阿部紀子

すべり台ママの笑顔が待っている　豊中市　池田純子

補聴器はまだ要りませんお静かに　和歌山市　磯部義雄

美しい背骨を持った一行詩　橿原市　居谷真理子

生真面目をチョンと破いて笑わせる　出雲市　伊藤玲子

表現はどうあれ僕は僕である　弘前市　稲見則彦

ふらり来て姉を偲びつ吾亦紅　神戸市　井上じろう

ゆらゆらの八十路の旅を楽しもう　高槻市　指宿千枝子

ゆらりゆらり飲むのはこれでやめとこう　大阪市　井丸昌紀

傘寿の声天の定めに従おう　熊本県　岩切康子

大胆な少年の日の夢叶う　三田市　上垣キヨミ

足りてます新しいもの要りません　神戸市　上田和宏

天も地も人の心ももどかしい　河内長野市　植村喜代

札束にチューをしたけど逃げられた　大阪市　榎本日の出

ひと粒の種といのちの話しする　枚方市　海老池洋

青空よ平和が続きますように　香芝市　大内朝子

少年よその一日を俺にくれ　吹田市　太田昭

思い出が生きる味方をしてくれる　吹田市　大谷篤子

通学路にあってはならぬ手向け花　西宮市　緒方美津子

ふれあいて笑福の渦米寿坂　弘前市　岡本花匠

春はいいいろんな人がにこやかだ　松江市　小川注湖

太陽に恋して青い実が熟れる　高知市　小川てるみ

空っぽの心にひびく師の言葉　西宮市　奥田みつ子

生きすぎたとぼやきドリンク飲む婆ば　大阪市　大川桃花

花筏母さんとてもきれいだよ　三田市　尾崎一子

生まれながらに蟻心得ている職種　尼崎市　加川靖鬼

チンして食べるレンジと似てるお仏壇　富田林市　片岡　智恵子

自然体徹し切れない白髪染め　東かがわ市　川崎　ひかり

雲ふわり港はぼくの中にある　東京都　川本　真理子

糠漬けの臭いの残る手で化粧　犬山市　金子　美千代

八十歳まだデッサンのままですが　大阪市　川端　一歩

炎天のポストにも礼言うておく　西宮市　亀岡　哲子

晴れた日は愛をいっぱい買いに出る　藤井寺市　鴨谷　留美子

過去帳の最長老になれそうだ　三田市　北野　哲男

良く笑うきっと至福の人だろう　出雲市　岸　桂子

逞しい児になれ森の幼稚園　鳥取市　岸本　宏章

若者に政治教えた安保法　鳥取市　岸本　孝子

今ここで挫けてなるか明日の夢　和歌山市　喜田　准一

個は孤だともたれ合わないようにする　河内長野市　木見谷　孝代

よう笑ろうたいちにち得をした気分　和歌山市　楠見　章子

魂がふらりと降りた無人駅　三田市　久保田　千代

一本のペンがわたしの傘になる　鳥取市　倉益　一瑤

しっかりと食べて大きな声を出す　芦屋市　黒田　能子

ウラ方に徹して人生紙芝居　大阪市　熊代　菜月

御来光世紀の息吹燦々と　大阪府　桑田　ゆきの

捩じり花天まで続く好奇心　弘前市　今　愁女

お隣りのバラも近頃同じ色　大阪市　古今堂　蕉子

恐ろしい暴走　車だけじゃない　松山市　古手川　光

そこそこと掻かせた夫の背を偲ぶ　米子市　後藤　美恵子

重そうなピアスが少し気にかかる　鳥取県　小西　雄々

飛ぶ余力少し残して夢を追う　大阪市　小谷　集一

お手伝い生みたて玉子そっと抱く　枚方市　小林　わこ

天辺へ辿り着かないから元気　大阪市　坂　裕之

心から笑ってみたい外は雨　箕面市　酒井　紀華

手の届くところに美しい獲もの　篠山市　酒井　真由

退屈が死ぬ程嫌な菜っ葉服　河内長野市　坂上　淳司

四季巡る五感でいつでもリフレッシュ　東大阪市　佐々木　満作

コオロギはヒゲの先まで鳴いている　堺市　澤井　敏治

仮の世を舞う人間の姿して　富山市　島　ひかる

大仏の苦悩仰角では見えず　茨木市　島田　誠一

微調整しながら待っている明日　高槻市　島田　千鶴子

もう少し待ってみるかと花時計　高槻市　初代　正彦

千羽目の鶴が一番よく折れた　藤井寺市　鈴木　いさお

ふところで希望の種をふくらます　吹田市　須磨　活恵

終点は我家つばめも人間も　犬山市　関本かつ子

傘寿から一日一句を吐くつもり　黒石市　相馬一花

人間が乾かぬように雨が降る　藤井寺市　髙田美代子

守秘義務があるので帯がついている　京都市　高島啓子

ピンぼけの写真大事に持ち歩き　出雲市　多久和敬子

セピア色の里を彩る柿すだれ　出雲市　竹治ちかし

白寿まで生きた母持つ妻と居る　鳥取県　竹信照彦

一生はあっという間の玉手箱　和歌山市　武本碧

亡母に似た雲だゆったり流れてる　芦屋市　竹山千賀子

村中で羽ばたき守るこうのとり　藤井寺市　田付絹枝

読み聞かせ母子のとても濃い時間　宝塚市　田中章子

幸せが顔に漂う笑い皺　河内長野市　谷久美子

適当に坐っていますこの世です　大阪市　谷口義

娘夫婦帰国に美食めぐりする　和歌山市　玉置当代

ドキドキもワクワクもして春が来る　岡山市　丹下凱夫

学校の廊下で初恋と出会う　枚方市　丹後屋肇

閉じこもりにならないように日に当たる　和歌山市　辻内次根

不機嫌な朝は鏡を見てごらん　大阪市　津村志華子

九条と演歌愛して70年　大阪市　津守なぎさ

若鮎の跳ねてまぶしい早春譜　大阪市　津守柳伸

最終バスと知らずにいつか乗るだろう　枚方市　寺川弘一

汗かいて太りなさいと外れクジ　海南市　堂上泰女

秋深し右も左も高齢者　篠山市　遠山可住

丸くなる妻にやさしくしてやろう　堺市　遠山唯教

こってりと生きねば我ら高齢者　羽曳野市　徳山みつこ

大掃除しなくても来たお正月　京都市　都倉求芽

うどの白口からふわり春が湧く　生駒市　飛永ふりこ

流れ星どれにも違う事情あり　高槻市　富田美義

つなぐ夢あって明日も生きられる　高槻市　富田保子

雨に濡れた花の絨毯そっと踏む　寝屋川市　冨山ルイ子

夢足して足して残り火を応援　富田林市　中井アキ

主題歌もマッさんもいい嫁がいい　大洲市　中居善信

挨拶程度の会話でまだ夫婦　大阪市　長井善純

B面にスポット浴びてからの運　堺市　内藤憲彦

終止符を一つ打つにも勇気いる　尼崎市　長浜美籠

挨拶のできる人脈温かい　米子市　中原章子

日本の元気を見せたノーベル賞　吹田市　野下之男

文才は無いが心は伝えたい　鳥取市　西川和子

孫の夢のせてふわふわシャボン玉　枚方市　二宮山久

ケセラセラ笑って流して生き上手　枚方市　二宮紫鳳

児等の声騒音なんてウソでしょう　日高市　根岸方子

ぜいたくは遠いが生きていて楽し　大阪市　原田すみ子

趣味バネに鍬もつ今日の手が弾む　鳥取市　平尾菜美

地平線あの上あたり我が余生　大阪市　平嶋美智子

飲む口と盃を持つ手は確か　宇部市　平田実男

ハッピーな春だ孫からお小遣い　寝屋川市　平松かすみ

好奇心強く徘徊続けてる　箕面市　広島巴子

事実かとじっと目を見て聞いている　富田林市　肥山一文

子を渡す川の深さを確かめる　弘前市　福士慕情

鬱の日はじっくりと聴くモーツアルト　豊中市　藤井則彦

親切を受けて家路はほのぼのと　尼崎市　藤岡りこ

アナグロの親デジタルの子に学ぶ　大阪市　伏見雅明

高校野球節目を飾る始球式　姫路市　古川奮水

雨は地に涙は空に返します　和歌山市　古久保和子

過去は過去明日のことを考える　さいたま市　星野育子

アルバムは幸せだけを貯めたがり　鳥取県　細田裕花

年金がまだ生きてるか聞きにくる　三田市　堀正和

難民になることもなし七十年　東京都　まえでとよこ
氷河溶けここにまた蝶墜ちはじめ　豊中市　水野黒兎
ナーバスな勘で誤作動ばかりする　堺市　村上玄也
ぎりぎりの暮らしへプラスする笑顔　八尾市　村上ミツ子
薄れゆく愛を補う熱いお茶　米子市　政岡日枝子
勝ち負けは閻魔の前でつけましょね　京都市　桝本宏子
長く生きてほんのひと時花の章　豊中市　松尾美智代
遠い過去夢に出て来た終戦日　大阪市　松尾柳右子
ふくらんだ夢冒険がしたくなる　和歌山市　松原寿子
神さまは許しゆらりと立ち去った　松江市　松本文子
優しい人でした丸い影でした　青森県　松山芳生
ジョークだと解せぬ妻と猫がいる　札幌市　三浦強一
母も子も力出し切り生まれ出る　京都市　三宅満子
家族には内緒の傷がふえていく　八尾市　宮西弥生
妻の仮面鬼と天女の組合せ　八尾市　宮﨑シマ子
一年の句読点打つ除夜の鐘　大阪府　籾山隆盛
濃く淡く藍ひしめいて空は寂　寝屋川市　森西
戦には行かぬ紙ヒコーキだから　沖縄県　森山盛桜
鰓呼吸できる男になってやる　沖縄県　森山文切

鮮やかに水の旨さよ八合目　堺市　矢倉五月

動物の戦はいつも丸腰だ　河内長野市　山岡冨美子

お散歩のお供はいつも介助犬　神戸市　山口光久

飾らないあるがまんまの君と居る　神戸市　山﨑武彦

マンションの灯りに温度差は見えぬ　鳥取県　山下節子

いつの日か飛び立つ鶴が折りたくて　長岡京市　山田葉子

川柳に救われ湧き上がるファイト　倉吉市　山中康子

重心は西に傾く八十歳　吹田市　山本希久子

おもちゃ箱ウルトラマンが立ち上がる　奈良市　山本昌代

二位でよい言うてたらすぐ三位おち　四條畷市　吉岡修

街路樹がだいぶ芽吹いた焦るまい　鳥取市　吉田孔美子

マンネリの作り笑いが干涸びる　大阪府　米澤俶子

感謝して食べる三度の白い飯　藤井寺市　若松雅枝

目立つよう目立たぬようにお洒落する　大阪市　若本安代

まっさらな朝がやる気をノックする　奈良県　渡辺富子

職業欄そうだおばあさんと書こう　奈良市　大久保眞澄

する事もないので鍋を磨いてる　松原市　森松まつお

わが軍は専守防衛隊である　大阪市　江島谷勝弘

古書店の隅に昭和の深い森　和歌山市　木本朱夏

本社　十二月句会

◇十二月七日（月）午後一時
アウィーナ大阪

暖冬を予感させる日和の七日、十二月句会は百十九名（投句五名）の参加で開催。初参加は豊中市の木藤明子さんと神戸市の奥澤洋次郎さん。句会に先立ち、過日亡くなられた西内朋月さん（川西市）に黙祷を捧げた。

今月のお話は伊達邦夫さん。題は「健康寿命を伸ばそう」。世界一の長寿国日本で、介護の手を借りずに「普段の生活に支障なく過ごせる」健康寿命を伸ばすために心掛けるべきことを、厚労省の施策や、医師の提言、百歳の人の生活実態などを例示して紹介された。要は楽しみや生きがいを持ち、実行すること、仲間と集うことが何より大切で、川柳を楽しみ、句会に参加し、柳友と集う私達は、期せずして健康寿命を伸ばす生き方をしていると教えていただいたような気がするお話だった。（眞澄）

月間賞は栃尾奏子さん（大阪市）

（司会―善純・蕉子）（脇取―扶美代・勝弘）
（受付―紀雄・昌代）（清記―憲彦）

席題「詰める」　片山かずお　選

張り詰めた空気弾ける呱呱の声　武彦
ISの銃に詰めたい人の情　堅坊
ニイハオの飛びかうレジがすし詰めだ　あや子
マイナンバー脳に詰めてもこぼれ出す　憲彦
詰襟の頃はあんなにモテたのに　とーな
上げ底もあるけどうまく詰めてある　見清
詰まるとこ儲かりますかその話　見清
裸の王様逃げまわってる詰め将棋　ひろ介
詰め将棋負けてやるのも爺の技　萌子
一夜漬け詰めて一気に出すテスト　大子
行間に私の意地が詰まってる　良子
詰めるだけ詰めて動かぬエレベータ　肇
最小限詰めて重たい旅カバン　柳伸
詰めるのが上手夫の旅かばん　章子
旅仕度まずは薬の詰め合わせ　真理子
追い詰めずゆっくり答待ってやる　安代
問い詰めて知りすぎた悔い抱いている　葉子
カバン持ちいつも詰め腹切らされる　満作
荷物詰めお嫁にきたが離婚する　明子
追い詰めたらあかんどこかで悪さする　則彦
半分は欲が詰まっている頭　完司
ジャスミンのポプリ枕に詰めている　完司
煮詰まった話あとから来て壊す　俶子
非常用の缶詰にする妻の留守　六点
耳栓を詰めてうなずく妻の愚痴　善純
またしても詰めが甘くて逃す運　好

娘の愚痴ぎゅうぎゅう詰めて来るメール　富子
詰めるだけ詰めてもケーキなら入る　楓楽
詰物はしておりません自前です　冨美子
一日中働き詰めでこれっぽち　光久
たっぷりと気持を詰めてお礼状　五月
詰め込んで整理済んだとすまし顔　大子
店屋もんも少し詰めますお正月　忠子
おせち詰めサァ頑張ろう年賀状　みつ子
水音を詰めにんげんというかたち　あきこ
問い詰められ二枚目の舌動き出す　英夫
底冷えの財布に詰めるお賽銭　瑠美子

佳

通いつめる店のひとつは持っている　信子
ガラクタと夢詰め合わす福袋　朱夏
ジグソーパズルの最後を風が詰めている　あきこ
さあ貴男まだ言い訳はありますか　奏子
九条にぎゅきゅっと詰めてある平和　朝子

人

おいしさを詰め込み過ぎた胴回り　堅坊

地

指詰めた男に背負い切れぬ過去　楓楽

天

二人きりそれでも詰めているお重　恭昌

軸

やみくもに詰めた知識で役立たず　奏子

兼題「胴」　松尾美智代　選

ずん胴でも気性で僕は惚れたんだ　篤

瓢箪のくびれ目指してストレッチ　英旺
好き勝手食べて気にする胴回り　玄也
天高し胴のあたりからメタボ　扶美代
胴まわり88に絞ってる　勝弘
パリコレに折れそな腰を見せる胴　なぎさ
胴長のわたし安定感はある　章子
幸せに膨らむ胴の抱く命　朝子
胴まわり増えて嬉しい病晴れ　大子
三味線の胴にいのちを弾き込める　求芽
警笛が聞こえてきそう胴まわり　紀乃
胴上げに心は天にまで届く　黒兎
ずん胴鍋ことこと家族まつシチュー　満知子
ずん胴は一族の通行手形です　義
緊張感どこへおいたか胴回り　良子
ウエストライン絞る苦しい外出着　肇
肩と胴がっちり素敵五郎丸　紀子
胴上げへ心ひとつに流す汗　朝子
黄金比には程遠い胴まわり　奏子
面と胴打たれ相手の旗上がる　満作
胴巻きに確とおさめたマイナンバー　恭昌
胴まわり気にしながらのグルメ旅　いさお
やせなさい医者がいつでも言うセリフ　加お里
ウエストはこの辺りかと問うベルト　俶子
ウエストが行方不明の胴回り　すみ子
津軽三味線私も胴で勝負する　和夫
静寂を破る竹刀の胴一本　寛
ほっといてダックスフンドよりはまし　勝弘
糖脂肪胴にばっかりつきたがる　奏子

一筋の道前にして胴震い　真理子
社費で酒飲んだ目安の胴まわり　誠一
三人の子供を産んだ胴回り　能子
鯖は胴切り今夜は味噌煮です　理恵
このあたり確かウエストあった筈　哲子
胴巻にお守り秘めた母性愛　ヒロ
エプロンでかくした胴が叫んでる　日の出
胴斬りのマジック固唾呑んでいる　克巳

佳

胴長をキャッチャー向きと褒められる　かずお
胴を据えれば怖いものなど何もない　洋
胴元のばあちゃん連れて行く旅行　桃花
ズン胴もコミットすればくびれ胴　克巳
妻の座の居心地胴のくびれ消す　楓楽

人

寸胴のものなどいない蟻の列　洋

地

胴体に日の丸胸詰まる知覧　善純

天

断捨離が出来ぬ人間の胴欲　寿之

軸

胴巻の中で旅したパスポート　

兼題「かすか」　長浜　美籠　選

生きている証しかすかな寝息聴く　雅明
親切がかすかを越えるお節介　キヨミ
あのお方かすかな隙も見逃さぬ　准一
かすかでも嬉し楽しや年金日　万紗子

糸手繰る記憶が徐々に鮮明に　寿之
かすかでも見逃しません麻薬犬　としお
ちょい悪の感じがとても魅力的　玄也
難民の声がかすかに耳の奥　完司
かすかなる期待に終わる宝くじ　美津子
遠くから眺めるだけの淡い恋　寿之
ハルカスのかすかに見えるわが家です　忠子
虐待児のかすかな叫び胸痛む　堅坊
釣り竿のかすかな引きにあるスリル　正彦
愛妻はかすかな匂い嗅ぎ分ける　裕之
どん底を抜けてかすかな虹を見る　富子
汽笛の音かすかに響く町に住む　忠子
胎内からかすかかすかにノックする　瑠美子
シクラメンの香りかすかに暮の街　いさお
心電図は平らかすかな望み消す　見清
柚子の香にほんのりゆとりもらう鍋　千代
賀状書くかすかな縁をつなぐため　和夫
木洩れ日がほしいひとりのクリスマス　武彦
十億円当たれば遺書を書くとする　靖鬼
思い出は遠く仄かな香を放つ　紀乃
ついに来たかすかだけれど加齢臭　理恵
かすかだがまだ背なにある震度七　章子
かすかな期待も裏切られる政治　善純
眠っちゃダメの声をかすかにする睡魔　かずお
かすかでも消えない古い傷の跡　冨美子
直向きな背骨かすかにぶれだした　恵
両親の気配が消えてゆく実家　すみ子
歩き出そう風の香りを吸いこんで　葉子

夫婦仲かすかに軋むリストラ後　誠一
目も耳も記憶も限りなくかすか　冨美子
たった一つの恋だった遠花火　賀世子
血圧が上がった分だけ恋かしら　日の出
風はかすかだけど九条守らねば　あや子

佳

関白は結婚までの淡い夢　憲彦
気にはしてます施設の老母のこと　六点
かすかですがまだ残ってた羞恥心　美智代
冬ざれの駅のベンチにあるかすか　瑠美子
定年後かすかな溝が深くなる　英夫

人

お月様かすんで手術決めました　保州

地

淀みない口調かすかに嘘におう　楓楽

天

ほろほろとカルメラ噛めば母かすか　ばっは

軸

香煙にかすかにちちの咳払い

兼題「メッキ」　佐々木満作　選

辻褄の合わぬメッキは剥される　准一
クラス会メッキが剥げる笑い皺　キヨミ
メッキ剥げとことん苦い風に逢う　万紗子
アベノミクスどんどん厚くなるメッキ　富子
ことば数増えてメッキが剥げてくる　美籠
付け焼刃の知識は直ぐに底をつく　玄也
付け焼き刃メッキ剥がれて恥を掻く　克巳
つっこみが上手くメッキに錆がうく　見清
メッキなどいらぬ亭主はいぶし銀　満知子
金メッキ剥してしまう12桁　とーな
着飾って今日は無口で通します　賀世子
風呂敷を広げてメッキ剥げて行く　紀雄
メッキ剥げたあたりの貌に哀がある　あきこ
親からの髪にメッキをした茶髪　寿之
客寄せにライトアップと言うメッキ　耕治
鑑定の結果でバレた金メッキ　いさお
背伸びせず気楽にいこう地のまんま　茂
重ね着の中は鎧という総理　ばっは
人間の脆さを包み込むメッキ　柳弘
メッキ剥げそうでチャックをしとく口　楓楽
遺伝子の組み換え最大のメッキ　五月
気取ってもすぐにメッキの剥げる僕　裕之
鍍金さしやさしい人になってゆく　よしみ
嘘に嘘重ねた愛にある破局　寿之
勝利者のメッキはがしたドーピング　和夫
ネクタイとスーツでメッキ街へ出る　完司
錆びぬよう心にメッキしておこう　能子
杭不足　メッキ足許からはげた　蕉子
本物は装飾(かざり)要らずの燻し銀　妙子
シンプルなデザインメッキよく映える　寿子
消費税は福祉のためと言うメッキ　英夫
身の錆が余計目立ってくるメッキ　洋次郎
騙されてあげるメッキの剥げるまで　葉子
傾いて杜撰工事と騒ぎ出す　としお
すっぴんに戻ってからの大欠伸　郁夫
メッキしてもんじゅ動かす腹づもり　たもつ
僕の妻日毎メッキが剥げて来る　舞夢

佳

ブランドを着ても心は飾れない　好
ゆっくりとメッキを剥がす仕舞風呂　美智代
厚塗りのメッキ剥せば秋の風　良子
私のメッキを歳月が裁く　冨美子
剥げてなお気高くおわす盧遮那仏　進

人

はじめから正直に言うことにする　月子

地

飾らないあるがまんまの君と居る　武彦

天

天衣無縫メッキではない　いい笑顔　正雄

軸

暴かれて本性現した狸

兼題「楽　器」　河内　天笑　選

万策つきてハーモニカ吹いている　義郁夫
娘が嫁ぎ荒野にピアノ立ちつくす　見清
廃校のオルガン忘れない校歌　裕之
昼間から酒許される祭り笛　正雄
笛吹きに帰れと里の秋まつり　冨美子
チャルメラの屋台を追って風の町　好
音合わせそれは楽器のご挨拶　かずお
聴いて聴いてとバイエルを聴かされる　理恵
叱られて河原で吹いた草の笛　哲男
雷神の冬の太鼓が鰤起し

手拍子に始まる打楽器のルーツ　奏子
ハンドベル神はたしかにおわします　瑠美子
三味線と競い合ってる冬の波　信子
指笛が手踊りまねく島の歌　和夫
母さんのラッパは河内弁で鳴る　冨美子
ハモニカで綴る昭和のわらべ歌　いさお
屋根裏に父のギターが眠ってる　万紗子
木琴の音色ほっこり胸をうつ　昌代
善人のラッパが唸る縄のれん　誠一
チンドン屋楽器ぞろぞろ練り歩く　明子
手拍子が音痴の僕を歌わせる　忠昭
徳利をたたいて唄う年忘れ　敏治
オカリナを吹けた喜びドレミファソ　満知子
大好きです胸の小太鼓鳴り出した　わこ
ロバのパン屋チンカラリンと来た昭和　憲彦
手も足も楽器にしてる漫才師　みつ子
豆笛を吹く妹よ弟よ　蘭幸
尾骶骨に響くコントラバスの音　則彦
愛撫されいまに楽器になるわたし　あきこ
たんぽぽの茎が奏でる恋の歌　良子
ビートルズ世代を生きてきたドラム　蘭幸
声変わりの頃に嵌まったハーモニカ　則彦
戦いを諭す竪琴ビルマ発　武彦
戦場へ散った兄貴のハーモニカ　冨子
心音でママと胎児の二重奏　朝子

佳

ギターの胴たたきリズムをとっている　明子
葱きざむ音は打楽器妻の乱　賀世子
進軍ラッパいつも母ちゃん吹いてます　としお
胎教にと歌った声がまずかった　蕉子
ウクレレで輝く銀河引き寄せる　俶子

人

バーボンと紫煙の中のジャズピアノ　宏造

地

楽器屋で動かなかった男の子　耕治

天

去りぎわの秋が振ってる銀の鈴　真理子

軸

都々逸もジャズも奏でられる喉

兼題「照明」　小島　蘭幸　選

わが道を照らしてくれた師の言葉　英旺
照明の温さ家族の居る温さ　昌代
電飾の街を孤独がすれ違う　富子
わたくしに明かりをくれたのはあなた　冨美子
照明に我が子が遠くなる挙式　キヨミ
わが人生スポットライトには無縁　善純
愛の灯をともす二人の絵ろうそく　敏治
復興の記憶を照らすルミナリエ　裕之
きみの訃へ灯さぬ闇が醒めている　あきこ
点滅をくださいひとり居の聖樹　武彦
かさぶたがまた疼きだすルミナリエ　洋次郎
スポットライト浴びる背中は伸びている　武彦
照明を消してわたしの出番です　月子
裸電球向学心に燃えていた　保州
スポットを浴びずひとりで咲いてます　郁夫
ランプからLEDを生きて来た　日の出
内定の孫が照明浴びている　唯教
スポットライト浴びる私の四幕目　よしみ
幾度の冬鎮魂の灯が揺れる　扶美代
明かりぼんやり人生は四幕目　希久子
スポットを浴びて笑っている遺影　郁夫
電飾の並木寒いというている　ばっは
異端児としてスポットを浴びている　朱夏
人生を照明係して終える　楓楽
壇上へ情け容赦のないライト　なぎさ
無影灯の真下わたしが捌かれる　朱夏
蝋燭のかたちのライトお仏壇　完司
シャンデリアの下でたこ焼食べている　義
LEDと余命競争してみよう　眞澄
百万ドルの夜景原子炉忘れてる　耕治
顔写真あなたに相違ありません　満作
電飾とサンタの安売りはごめん　信子
ほの暗いバーで逢いたい人がいる　桃花
里の母テールランプが嫌いです　美津子
七色のネオンゆかいな嘘七つ　完司
ローソクを一気に消せぬ誕生日　寿之
こころというものに灯りがほしい夜　とーな

佳

ライトアップしよう日本は平和です　眞澄
ルームシェアします明かり分け合って　希久子

わたくしの独りを月光が洗う　あきこ
照明はないが花道らしきもの　瑠美子
冬の夜に独りふゆの灯にひとり　とーな
人
賀状かく小さな狼煙あげている　冨美子
地
スポットライトもう踊るしか無さそうだ　奏子
天
見つめ合うには十分な雪明かり　栃尾　奏子
軸
とぼとぼと行く照明はいりません

○

平成27年本社句会皆出席者
（順不同）

足立　茂　油谷克己　市坪武臣　あまのとーな
海老池洋　榎本舞夢　上山堅坊　江島谷勝弘
大内朝子　加川靖鬼　木本朱夏　榎本日の出
小島蘭幸　川端一歩　川端六点　居谷真理子
柿花和夫　亀岡哲子　黒田能子　奥田みつ子
坂　裕之　澤井敏治　島田誠一　指宿千枝子
遠山唯教　中村　恵　能勢良子　太田扶美代
西出楓楽　藤井則彦　水野黒兎　鴨谷瑠美子
升成　好　桝本宏子　前たもつ　久保田千代
村上玄也　矢倉五月　安田忠子　古今堂蕉子
山口光久　山田耕治　山田葉子　鈴木いさお
山本　進　吉岡　修　平嶋美智子
松尾美智代　山岡冨美子　（49名）
（記載漏れの方はご連絡ください）

句会燦燦

十一月句会を読む　岩崎　眞里子

母帰宅手品みたいな夕御飯　美籠
スーパーで一番偉いのはモヤシ　奏子
安売りの玉子おはようございます　義

収穫に文化にスポーツに、秋は超忙しい。目の回る忙しさの中で母は沸騰寸前。それでもスイーッと出て来る晩御飯。そんな母の強い味方は、モヤシに玉子に…値引き弁当！かな。

竿の先秋の光の赤トンボ　黒兎
土は手品師どんな色にも花咲かす　好
線香がゆれる母さんいつも笑ってる　万紗子

多忙な人間をよそに光に包まれている蜻蛉。日溜まりと睦み合っている草や色とりどりの野の花達。あぁ、亡母もいる…。

飛びこせる溝だとずっと思ってた　能子
生まれつきシャイで垣根と溝が好き　完司

人と人との間には距離感が必要だが、埋められない溝は無いと思っていた。しかし溝や垣根が好きな人もいるとすれば、それは埋めたり飛び越たりせず、尊重すべきものかも知れない。

見つめると睨み返してくる活字　完次
本を読む発光体になっている　真理子
壮大な手品地球が浮いている　冨美子

川柳は言葉で出来ており、活字で発表される。作品を通して心通わせることもあれば、火花を散らさんばかり睨み返されることもある。でも、深読みと言われようが作品の奥深く入っていくと、読者の内側に光明が生まれる。そう言えば…地球も！

光差す方へゆっくりゆっくりと　ひとみ

齢と共に手を合わせることが多くなった。何か願い事をするというよりも、懐かしい人達がいる見えない世界が身近になってきたからだろうと思う。合掌を解いて静かに眼を開けると、光差す方がゆっくりと見えて来る。

柔地物壇

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願いいたします。
編集部

川柳さんだ（兵庫）（前月号）**田中　章子報**

柔らかな笑顔になって百生きる　たもつ
軟弱なあの子が今はラガーマン　花門
柔らかなつきたて餅も干涸びる　つな子
耳朶が福を呼んでる嫁が来る　順子
柔肌のママは昼間はボクのもの　氷筆
餅肌を独り占めしてすみません　好文
ゴールして自信がついた目鼻立ち　美籠
ゴールへと繋ぐたすきに汗光る　恭子
もう私十二分にも生きました　聖也
小さな庭けなげにゴールミニトマト　美智子
半世紀妻の躾はまだ未完　正和
ゴールまで五感ゆすぶり生きてみる　晶子
集う度薄くなります住所録　博
千手観音一人二人と握手する　哲夫
黒豆が楽しみでまたやってきた　勝弘
親戚が揃えばいつも黒い服　修平

同い年と聞いてしげしげ顔を見る　耕治
年重ね亡母の深さに届かない　キヨミ
八十五まだ余生とは思わない　哲男
ありのまま年を重ねて素の心　哲子
記念会秋の三田路おもてなし　一子
これからも点しつづけるモニュメント　千津子
舞い納め一枚の秋ラップする　淑子
ご自愛を記念切手の花言葉　健二
毎日が記念日あなたとの暮し　ひとみ
記念樹が思い出いっぱい連れてくる　あかね
凡人の歩幅に狂わない暮し　光久
えんぴつの饒舌になる秋が好き　ヨシエ
荒れた世に天使のような月の顔　みつ子
可愛らしいおばあさんにはなるつもり　能子
お互いに賞味期限の切れた仲　祐康
掌中の珠が背いて転び出す　宣子
ユーモアを入れると空気温かい　廣子
七日分メニュー言えたらノーベル賞　雅尚
人を抱く両手に銃は握らせぬ　美和子

川柳塔すみよし（大阪）**森松まつお報**

私には出された物は皆珍味　舞夢
うぬぼれへちりとてちんという珍味　克己
食べ慣れぬ珍味おどおど箸伸ばす　隆昭
私には妻の手料理珍味です　敏晴
幻の銘酒へ珍味花を添え　いさお
鮒ずしが好きな人とは距離を置く　昌紀

懲りすぎて不思議な味になりました　まつお
知り過ぎた恋の珍味に火傷する　柳弘
高値でも好きな珍味に金払う　公平
樹になろうなれよと水をやっている　日の出
太るもとやっぱりなにかつまんでる　美世子
もう少し太りなさいと義母の見栄　昭
激太り新婚時代に戻りたい　舞蹴
明日から食事制限するつもり　志津子
いい予感眉がきれいに引けた朝　満知子
年寄りは眉に唾をつけておこう　勝弘
写楽の眉は今にも動く気配なり　保州
言わずとも眉間が曇る聴診器　美籠
だまされぬ眉に唾ぬり一票を　大輔
眉あげて明日の風に吹かれよう　シマ子
十八番眉で芝居の決め台詞　妙子
艶やかな眉間心広そうだ　朝子
眉ひとつピクともさせぬ肝っ玉　崩
痩せなくていいよ太目が好きと言う　安代
宿飲もう飲まないと真顔なり　重信
逝かれたら困る老妻にめろめろ　たかこ
めろめろで気付かなかったトリカブト　(矢)五月
惚れ抜いてめろめろになれ男なら　由一
照れちゃうが妻の笑顔は世界一　宏造
意気衝天恐い男だ燃えている　ばっは
めろめろに酔えば好きよと言えるかも　桃花
くされ縁ですのと女嬉しそう　一歩
めろめろだ福山さんのコンサート　としお

花絨毯金木犀がはらはらと　福貴子

竹原川柳会（広島）　古田　太虚報

済みませんご免なさいと云うけじめ　規代
趣味は四時までけじめを付けて夕支度　慶子
同居して心にけじめつけておく　栄恵
根の深い話にけじめ付けて置く　栄香
ノーと言うだけでけじめはつくのです　蘭幸
花束で親を泣かせて自立する　輝恵
毎日が日曜気楽とは云えぬ　汎美
気楽だがお一人さまはちと侘し　敬子
お気楽な顔しておでん煮ています　千代美
喜寿傘寿気楽に出来ぬ理由があり　弘子
晴耕雨読気ままに風と戯れる　昭紀
気楽とは縁なく生きる母の業　京子
海に佇ち大声あれは亡夫の声　貞子
ふり向けばいつもやさしい母の声　寛
風の声童話の森へとけてゆく　鬼焼
ありがとう我が家で聞けた虫の声　半徳
雷声の一喝双葉ポンと出る　幸子
ゆっくりと心の声を聴きながら　淑子
ムンクの叫びどんな声色なんだろう　笑子
声あげることを覚えた日本人　白狐
父母の励ます声も蝉しぐれ　宣之
底冷えもやっと慣れたな新天地　歩美
天高く色即是空舞う揚羽　厚子
捨てるには惜しい箱だがじゃまになる　比呂子
進化するサマがわかるな三兄弟　史子

川柳塔打吹（鳥取）　野口　節子報

終電車酔うたん棒がひざ枕　紀の治
困るなー耳は遠なり目はかすむ　瑞子
花嫁の候補多くて困る僕　清
シルバーがもりもり日本盛り上げる　陽之助
芋柿栗秋をもりもりMがL　悦子
バブル期はもりもり稼ぐ夢時代　龍枝
もりもりと薬食べての命乞い　紀美恵
もりもりと夏草のびる逞しさ　公恵
毒盛ったTPPを消す閣議　照彦
入道雲が入道雲を産んでいる　芳光
人間が涌きでる爆買いのツアー　くにこ
泣いて又ハートの汚れ流してる　久江
汚れ役出来る男の胆を見る　幹啓
鏡のせい汚れを拭けば美人だよ　道子
汚されて踏みにじられて立ち上る　久芽代
汚れいっぱい積んで地球は重かろう　美知江
汚れたねと金木犀に噛われる　完司
色事が好きな汚らわしい猿だ　石花菜
夢に見る里の景色はそのままで　貴恵
ジローの絵帰りたいなあ倉吉に　義人
何となく安らぎくれる里の風　芙美子
里心掻き立ててくる祭り笛　重忠
山里が日本の未来背負ってる　滋
あわ立ち草だけ迎える里の風　節子
女房の里でお尻が痒くなり　野蒜
ばあちゃんの笑顔が里に居つかせる　利重

鈴木　いさお　選

どん底へ落ちて地獄を見た皺だ　修
天候にかかわりなしに花が咲く　シマ子
大都会人が溢れていて独り　みつ江
君に会う前の私に戻りたい　眞澄
輪が広くなると謀反を考える　千代
賽銭がついでのような音で鳴る　盛桜
七十年前の夏から来た自由　和之
必要な時だけ居ればよい夫　真理子
限りない愛に甘えて親不幸　すみ子
結局は会うことになる長電話　義

佳句地十選（12月号から）

安土　理恵　選

倦怠期ああ沢庵の数珠つなぎ　欣之
しゃぼん玉思い通りにとべてるか　美世子
深呼吸心も空の青になる　比呂子
森を出た埴輪が語りかけてくる　芳生
今が花今が花だと生きていく　夢子
だまらせる力を持っているお金　雅女
我慢してよかった運が向いてきた　いさお
神様の意に逆らえぬ順不同　満洲夫
人並みという物差しに出る格差　信兵衛
球根とわたしの明日に水をやる　雪菜

古里に帰れば茄子を焼く匂い　芳光
里山の暮らしのんびり自然体　たけ代
動脈も静脈もなく里眠る　三津子
高齢の里を取り巻く暴風雨　宣子

川柳ふうもん吟社（鳥取）**夏目一粋報**

ポリープが一つ遺言書き直す　洋々
主流から外れた椅子がよく軋む　無限
被災地でツバメ馴染んだ家探す　毅
泣きびすの心澄むまで部屋ひとり　善平
棘のある私愛してくれますか　美佐枝
泣きびすの雷がいて大豪雨　一瑤
軋むまで使い果たした一輪車　清信
柿も熟れわたしも熟れて秋深む　とも湖
泣きびすの花嫁壁がすぐ落ちる　天翔
輪廻転生瓦礫の土を割る新芽　三千代
被災地を忘れたふりで再稼働　隆浩
ポリープの恐怖私を狂わせる　圭一郎
父母が逝き夫が逝って戸が軋む　和子
働いた駄賃一杯飲む至福　凱柳
被災地に遠い東京での議論　みゆき
ポリープが早く取ってと囁いた　雅女
和に遠く軋む地球の音がする　秋月
朗報が軋む頭を和らげる　地佳平
リールが軋むきっと大きな鯛だろう　蟹郎
医者と妻忘れる酒を飲んでいる　敏夫
形見分けポリープまでも受け継いだ　千枝子
ロボコップ油の切れたお爺ちゃん　野蒜
繰り返しできるポリープ闘いだ　由美子
戦好きのポリープ増えて国滅ぶ　清流
せめて句で悪女になろう恋しよう　美恵子
虐待のニュース人間狂ったか　節子
被災地よりも安保安保と説く政治　回春子
日本のマナー被災地でも並び　茶人
キャタピラの轍が軋む国境い　賢悟
改ざんのマンション心まで軋む　房江
マイナンバー軋む話が多過ぎる　金祥
被災地にだって遠慮のない豪雨　妻子
被災地にまだまだ欲しいボランティア　昌鼓
どしゃ降りに被災地思い寝つかれず　春名
上向いて歩きたいけど転びそう　一粋
（方言　泣きびすは泣き虫の意です）

川柳塔みちのく（青森）**稲見則彦報**

家計簿を偽る妻のテクニック　重虎
おばあちゃん日がな一日探しもの　小とみ
迷彩で天敵躱す知恵袋　風来坊
年齢を偽り潜る映画館　則彦
偽装したユダの笑顔に気付かない　慕情
偽りを脱ぐと青空僕のもの　芳生
がさがさと少年殻を脱ぎ捨てる　劦
スーパームーンわが嘘叱り愛燦燦　花匠
しがらみも規則違反もない無人島　美鈴
偽りの恋にだまされ泣いた日も　一湖
めっきりと潤いのない記事が殖え　黙人
映画館一人ガサガサ食べる音　井蛙
凄腕をどこで磨いた偽医者よ　京子
ガキ大将黄色い線も少し踏む　隆樹
戦争は辞めた筈です安保法　ひとし
巨乳は巨乳整形だって構わない　のぶよし
偽りの笑顔花咲く酒場街　初枝
渡らぬと言う信号の赤ですが　龍馬
信じれば本物になるネックレス　柳子
がさがさと粗野な物言い黄昏れる　一呑
過疎の村まさかの検問反則金　つとむ
五体からがさがさ落ちて行く理性　呑舟
冬籠り枯葉を運ぶ音がする　きよし
英霊が出征準備しています　規子
手洗いのシルクの感触こんな愛　和香子
目くばせをしてジャングルに消える猿　一花
腹たてているが選んだのはぼくら　霜石
山紫水明　永住の天と地とわたし　氏加子
逢いに来た傘がやさしく待っている　五楽庵

川柳塔唐津（佐賀）**仁部四郎報**

掻いてぬり塗ってはかいて我が痒み　實
日の丸に責めを負わせて七十年　蜂朗
爆薬をつんでドローン何処へとぶ　高明
単身の課長が見てる写経帖　四郎
千円であれば要ります領収書　節子

和歌山三幸川柳会　武本碧報

オリジナルだから音符がよく弾む　義雄
運動会目立つ靴下はかせよう　富香

サムライもなでしこもいて魔女もいた　みつ江
球場がでんぐり返るホームラン　幹子
朝市の野菜を包むスポーツ紙　美枝子
運動会いつでも雨を望んでた　幸子
フライングそっと見ていた夕月夜　宏夫
ボール拾いだけで終ったユニホーム　章子
自分との闘いになるアスリート　敏照
飛ぶボールきっと楽しくしてくれる　次根
日程をぎっしり詰めてギブアップ　美羽
来年も生きる予定の衣替え　俶子
予定では母も聞いてた蝉時雨　あき子
容赦なく予定を奪い去った風　八重子
廃案は予定にないと安保法　義泰
卒寿半ばまだ生きている予定外　昇
子ら巣立ち一人の地図に書き換える　菜摘
それにしても気楽な白紙委任状　保州
濁点を取れば気楽に生きられる　和子
責任も無ければ金も無い暮らし　日出男
この先は気楽にリズム刻みたい　ほのか
針のない時計が過ごす秋日和　当代
肩書を持たぬ気楽な日向ぼこ　昭枝
ふと思う独り暮らしも乙なもの　絹子
宿題を山積みにして孫昼寝　みね
二世帯に住み分け気楽生きている　弘子
気楽さの中で淋しさ同居する　智三
ほがらかに生きると天が味方する　碧
天性の人柄わっと輪が和む　純子
天国も地獄も記憶する昭和　起世子
天高くストレスになるダイエット　ひろ子
天高くなり熱燗に乗り替える　小雪
天災に明日はわが身と思案する　よしこ
天空を仰ぎ明日への夢を抱く　准一
満天に冴える銀河に癒される　彦弘

川柳茶ばしら（愛知）　関本かつ子報

少数派何を言っても通らない　遡行
白赤黄ピンクもあるとチューリップ　まみ子
図書館の空気が弾む日曜日　百合
急接近した友同じ痛み持ち　美千代
古希過ぎてまだまだ若い人になり　雅美
仰向けに寝てる犬にもある平和　かつ子

高知川柳社　小川てるみ報

酔いどれの祖父に敬う海がある　哲史
偉いねえと言って見上げる龍馬像　圭二
敬ってなお余りある父母の恩　陸宏
これでいいのかだんだん朽ちてゆく祠　和広
来し方の全て敬うものばかり　幸美
好きだから敬意を込めて書く手紙　てるみ

南大阪川柳会　津守　柳伸報

本当の意味知ってから笑えない　祥昭
意味深な笑顔ふりまく罪な女　高志
意味よりも孫の可愛さほだされる　タカ子
近いうちお邪魔しますと意味有り気　ばっは
ニュートリノ何度聞いてもわからない　勝弘
ずる休み後から意味をつけている　久美子
一億総活躍何をせいと言うのです　一歩
裸木になって次代の土肥やす　紀乃
意味なんか無いけど旅に出たくなる　志華子
植物人間生かされる意味神に問う　楓楽
生きている時に聞きたいその弔辞　正春
生前葬弔辞は本音語れない　歌留多
飾られた弔辞故人を惚れ直す　恭昌
美辞麗句聞いて仏もはずかしい　修
家族葬弔辞はなくて静かなり　ルイ子
タレントの弔辞は芝居見てるよう　あや子
着メロが明るく響く弔辞中　武臣
誉め殺し弔辞にお世辞オペンチャラ　忠昭
念のため折りたたみの杖持ってます　シマ子
加齢など言わせぬ老いのスニーカー　郁夫
まだ老いる訳にはいかぬ趣味の道　いさお
負けて勝つ老人力の底力　集一
老いた子が老いた父母介護する　昌紀
愛がある言葉頂き涙ぐむ　柳右子
野菜への愛一筋に虫殺す　東風
偽善者が愛を嘯き神を売る　克己
熱かった愛も冷めると憎しみに　和雄
愛された記憶の中の吊るし柿　柳弘
両の手に赤児愛情握りしめ　直子
寄り添うて愛さわやかな両陛下　弘子
とびっきりきつい女で美しい　廣子
寡婦として自力の道はきつすぎる　更紗
冷たくてきつい人だとつぶやかれ　実

正社員の椅子捜しても見当たらぬ　栄子
きついこと言われた頃が花だった　国和

はびきの市民川柳会（大阪）永田　章司報

痛いのは投手かすったユニフォーム　六点
諦めた視力に光iPS　ちづる
刺した蜂にさされた痛み解るまい　泰子
チクッとしますと優しい注射針　みつこ
心眼を開いて凪の日が続く　美代子
残された欲は食欲だけになり　千鶴子
何もかも透明になるマイナンバー　フジ
ナンバーで呼ばれて牢屋思い出す　光男
春夏秋冬食べたい欲と小競り合い　登志子
目くばせで何も言うなと妻合図　ひろ介
痛む胸そっと柔らぐ秋の風　高鷲
古希すぎて食欲おちて七分なり　かつ美
老二人憩うベンチに木の実降る　美喜
傘寿すぎ次の目標米寿です　敏
痛いとこつかれて立場逆転し　喜久子
火傷せぬ位置で一言多くなり　獏沓
目の前の老眼鏡を捜してる　さくら
食欲がなくて食べてる皮下脂肪　ヨシ枝
真夜中に痛む虫歯へ今治水　いさお
自分だけ信用出来るマイナンバー　アヤ子
マイナンバー政府は何を企むか　雄太
世間の眼だれが見てるかわからない　真一
マイナンバーどこまで国民管理する　洋一
ダイエットはこの秋過ぎてからにする　シルク
戦争を知らぬ世代が国仕切る　章司

川柳塔なら　中原比呂志報

恥多くバックミラーを閉じて生き　史郎
惚れたこと解凍せずに過ごしてる　優
惚れた耳チャイムの音を選り分ける　日の出
過去のこと万年筆のラブレター　賛郎
美しい地球に月は惚れたまま　薫
思い出に浸る時間が長くなる　順啓
無惨です過去を無くした認知症　博一
川柳に惚れて未練を遺す生　喜太郎
あのキックみんな惚れ惚れ五郎丸　ふりこ
赤い口どっと笑ってくれそうだ　完次
日の丸影うすく紅旗ひるがえる　勝弘
紅一点男の宴盛り上げる　貫一
まだともう老いに鞭打つ紅の色　成子
人間の脆さを包み込む紅茶　柳弘
紅の血を燃やした老婆の青春　恭昌
終章へ紅色を足す恋になる　富子
アナタ彩の口紅愛を主張する　美智子
身だしなみ女忘れず紅をさす　奈津子
出直しを誓い紅を引き直す　弘子
反旗紅おんなを甘く見るでない　理恵
紅引いて鬼から人になってゆく　辰雄
大空に向かって吠える安保法　紀雄
空仰ぎ昔よかったと繰り言を　和夫
すぐばれる格好つける空元気　おたか
場の空気正直者が凍らせる　盛隆
心持ち一つで今日も晴れる空　将文
高いとこ好きな猫の目空の色　隆子
空の色地球の翳りそのままに　眞澄
秋の天本音ぶつけることにする　柾子
蒼天のどこにも嘘は隠せない　良一
夕焼けの空よこの世は美しい　萌子
澄みきった空の青さに邪念はない　倫
心経を唱え私はすべて空　甚之市
まっ新な空を掴んでいる再起　惠美子
空を切る空手の指先の尖り　見清

プラザ川柳（大阪）坂上　淳司報

熱の人金本きっと虎変える　淳司
貢がれて知らぬ訳ない裏献金　修
痴呆予防うっかりせずに気を張って　悦夫
我が財布空にせし娘は今何処　勇一
うっかりミスちゃっかり煙に巻くワイフ　弘光
貢ぐ気にさせる魅力が罪な人　一夫
貢いでも貢がれた事ありません　清乃
娘ならご馳走さんですべてチャラ　和代
貢がれる容姿と才覚が欲しい　五月
熱心にスマホ繰ってる指の先　久美子
老いるとも心若けりゃ青春だ　一彌
若作り干支をうっかり歳がばれ　正子
貢がずに草履温め天下取り　克三
ええもんはじっと眺めてきっと買う　芳子
熱心に遊んでるから金送れ　篤
沿道で時季を忘れぬ金木犀　政夫

川柳同友会みらい（鳥取）吉田　陽子報

明日ある子どもの声に活もらう　節子
座禅組み暫し心のダイエット　信平衛
梨送りぶどうりんごが届く秋　昭子
積み上げた努力ジャンプの幅になる　三郎
戦争へ向かうジャンプは許さない　章子
歩くのはつらいジャンプは尚つらい　和代
願い事上へ上へとジャンプする　恵美代
ヘリ隊に日本国中総拍手　和之
検査値に気を良くしては不摂生　亜矢
すさむ世をコスモス色でとり囲む　陽子
いい空気だけではとても暮らせない　真帆
原点の空気を忘れそうになる　安子
照り降りのない人ならば仰ぎます　菜美
鳩時計鳴って空気がゆるみだす　葵
女ですニュートリノより軽く飛ぶ　みどり
わたしはわたしどの角度から写しても　華蓮
バルーンに平和の空気入れ続け　美恵子
わたくしの空気ＰＭより濁り　遊子
いま落馬したら終わりになる喜劇　公弘

川柳塔さかい（大阪）　村上　玄也報

真っすぐに立ってるつもり本人は　さくら
離婚届は快晴の日に出しに行く　五月
天気予報近頃当りつまらない　健吾
傾いた釘を上手に効かす父　憲彦
奥の手は隠しときやと念を押す　素頓馬
お天気屋何があったか今日は晴れ　澄空
おやすみと可愛い顔で寝る天使　ひろ子
美人には時間をかける聴診器　好
ちょっと風吹いても私傾くの　月子
怖れずに神もたじろぐ願いごと　若芽
予報士が美人あなたを信じます　ゆみ子
ひと苦労傾く道の車椅子　安代
限界集落傾く軒に吊るし柿　敏治
生き上手前後左右に傾いて　和夫
何回も金を見せられウンと言う　清
神経痛の夫天気予報は超確か　ばっは
いい天気私をどこへ干そうかね　日の出
ずるい事も身に付け走る処世術　佳子
夫には隠して絵馬に願いごと　永久
傾いた社を盛り上げたのは若手　シルク
ずるい事黙ってみてる風見鶏　扶美代
傾いてもしぶとく回る古い独楽　唯教
札束に直ぐに傾く人の性　玄也
お金では買えないものに値打ちあり　としお
傾いて写せば真っ直ぐな斜塔　時雄
傾いた家運支える落ちこぼれ　雅明
傾いたままでも花は咲いている　ヨシ枝
惚れてます傾いてます酔ってます　由一
帰り道赤提灯が呼んでいる　憲
恐ろしいからくりで待つネット詐欺　誠一
おとなしい顔で天辺ねらってる　世紀子
日は西へ二日酔いなどどこへやら　進
傾いた我が家でもいい帰りたい　舞夢
予報官妻の天気は読めません　みつこ
ちょっとだけ傾いてはる地蔵さん　天笑

川柳大阪　山﨑　珠生報

そちらでも幸せですかお亡母さん　(鈴)いさお
幸せと心の中で思ってる　芳香
幸せにと亡父母に送られ五十年　福貴子
良い友に巡り合えてる幸せだ　美世子
修羅場抜けて平凡こそが幸と知る　克己
秋空に布団を叩く幸の音　かよこ
踏み台にされて闘志が湧いてくる　朝子
私でよければどうぞ踏み台に　勝弘
安くてもいい番台のアルバイト　まつお
夫婦でも誘った方がお支払い　満知子
居酒屋の壁に時計は掛けてない　(矢)五月
油断せず逆転トライでノーサイド　珠生
ストレスが町医者三軒はしごする　司
今は昔オトコも出来るおさんどん　万紗子
花の香に油断はならぬバラの棘　堅坊
マイナンバー油断ならない丸裸　紀雄
いま油断したら右向け右になる　一歩

長柳会（大阪）　辻村　ヒロ報

罪ひとつ胸に仕舞って清く生き　ヒロ
貢ぐとも貢がれないぞ痩せ我慢　辰男
精一杯貢いだつもり裏切られ　輝子
ＹＥＳともＮＯとも言わず風に乗る　知津子
子をだめにする手はひとつ貢ぎすぎ　ひろこ

泡とばし熱弁ふるうも耳かさず　由夏
競い合い勝ってみせると老いの恋　洋二
角砂糖口に入れると砂時計　正博
チョイ走り孫の歩幅に追いつけぬ　光弘
日毎夜毎のメールで見事玉の輿　直樹
はがき一枚書き連ねて母の愛　ともこ
まだこない生存通知年賀状　もこ
はがき一枚孫の成長字で解る　マサ
熱意では負けないつもり牛歩でも　ふみ
人生で迷う年齢とうに過ぎ　信彦
そこかしこ歴史の味が京の地に　靖博
熱心に紡ぐ夫婦にぼろもある　三和子
五億円それだけですか貢ぎ物　たけし
精一杯貢ぎ育てた子が派遣　正美
熱心な勧誘疑念湧いて出る　隆彦
熱心な絵筆は人を喜ばす　孝代
熱心に邪念を捨てて写経する　幸子
新人の奇抜な案が社を救う　けい子
菩薩にも鬼にもなって子に貢ぐ　和代
案の定息子も嫁の尻の下　淳司
触れないで遠いあの日に戻るから　和子

あかつき川柳会（大阪）　山本　昌代報

埋め立ててシナ海全部奪う腹　克己
偽装記事載らぬ日はなし世紀末　鈍甲
十二桁歯を食いしばり生きている　生枝
寒暖の差に血圧がうろたえる　朝子
年一度ちょっと散財バースデー　福貴子
半年に一度採血旨い酒　和雄
信長の血筋テレビの人気者　義泰
血縁も絶えたか墓が荒れたまま　隆昭
ドローンに奪われそうな宅急便　紅絵
早く帰国のニュース待つ拉致家族　恵美子
血統書ないが品あるうちの犬　直子
血が通う話がないよこの頃は　勝弘
親ゆずりすぐ調子ずくBで生き　隆充
散る覚悟まだ出来ないでいるもみじ　いさお
さわやかな三面記事で茶が旨い　哲男
マイナンバータンス預金に衣替え　栄子
川柳を載せぬ新聞など買わぬ　久美子
散り際にありがとうだけ言うつもり　千代
赤い糸もつれたままで散ったひと　瑠美子
赤い血が吹き出しそうな正義感　のぶ久
自衛隊他国で散るの許せない　美智子
奪った土地返す代りに辺野古くれ　康信
読みかけて広告と知るあほらしさ　堅坊
丁寧な児の片付けに目を細め　穏夫
釈明のこじつけた記事不透明　高鶯
しみじみの秋が身に染む零れ萩　一志
わたくしのハートを奪うゴッホ展　祥昭
永遠の0と無念に散る命　壽峰
犯人にされ二十年記事も哭く　紀乃
三面記事背筋が寒くなる話　秀夫
郷愁に耳奪われる「赤トンボ」　信二
好きならば束縛してよ奪ってよ　ふさゑ
全国紙二三比べる政治好き　篤
奪われた青春八十路忙しい　敏子
愛犬は血統付きのお姫さま　忠昭

川柳塔まつえ吟社（島根）相見　柳歩報

無駄な音消えてふるさとから谺　文子
いい音で踊り百まで初舞台　ちえこ
新米がやさしい音で煮えている　ゆき
妻怒り音が聴こえぬ台所　輝山
音積んで崩して冬を近くする　博子
オブラートに包み小出しにする本音　千里
皿洗う音が男を責めている　堂太
幸せは小さな音でやってくる　美智子
全没に平常心が逃げて行く　芳恵
この電話関係ないとすぐ逃げる　邦代
諭吉さん定期にされて逃げられぬ　久絵
逃げ切れん八十路の道はマイペース　幸子
鳩尾のホタル逃がしてまだ女　寿代
熟し柿食べて古里想い出す　幸
愛満ちて蛇ノ目の傘を受け入れる　たけし
機は熟す松江の城は国宝に　幸代
未熟さが邪魔した時の忘れもの　青帆
熟年過ぎてまだまだ足りぬ知恵袋　あきら
若いわね熟女に憧れ子育て放棄　俊子
熟しても松田聖子を追いかける　柳歩
いそいそとわたし無視して逝った人　桂子
いそいそと出かけて毒を吐いてくる　草庵
いい事がありそういそいそ靴を履く　凉子
封を切るいそいそ嬉し見慣れた字　雪代

玉音のおかげだろうな生きている　注湖
生き様を記録しているペン走る　昌枝
生きて往く気力父母から貰ったぞ　左余
生きている人しかできぬ人助け　弘充
長生きをめざして粗食ケチになる　妙子
七曲がりゆるり転がり生きて行く　知恵子

富柳会（大阪）　関よしみ報

いさかいに耳を預けて壁となる　静子
渡り鳥言葉の壁はないらしい　田鶴子
壁越えて違うわたしと出逢えた日　慶子
横なぐりの雨にも義理がつきまとう　伸雄
壁蹴ればドラマを崩すある兆し　登子
愛と憎心の襞で闘ぎ合う　壽峰
不協和音戻せぬままに雨しとど　高鶯
除夜の鐘きっぱり過去を断ち切れぬ　常男
温い手が差し伸べられた落下点　澄子
人生の無駄も明日への生きた財　朋子
荒れる海静かな海も母の海　清仁
手を添えて無駄にはさせぬ子の涙　深雪
小春日和の温もりくれるボランティア　未知
壁の穴から旨そうだねと声かける　武人
善悪が写る鏡で化粧する　恵
壁少しずらせば世間よく見える　一文
義理に負け片肌脱いだ男伊達　奏子
万物は神に無駄なく造られた　寿之
嫁姑たった一言高い壁　アキ
ティスプーンとても素直な愛でした　晴美
きっぱりせぇ言うて紅葉が炎えさせる　欣之
児に還る母はふいふい日向ぼこ　よしみ
空っぽの器に燥ぐ秋を盛る　森子
私の中で女は向い風

城北川柳会（大阪）　近藤正報

断捨離をしようと思う歳になり　節子
杭疑惑インプラントに触れてみる　英男
うやむやのままでいいです来世まで　縣祚
辞令無情紙一枚で人を切る　集一
シャンプーの匂いが届く距離にいる　洋志
げんこつにも愛が籠っていた昭和　北舟
おばちゃんもアメ爆買いの年金日　公子
折り鶴が世界平和のかけ橋に　杁香
お札から諭吉消えればただの紙　榮子
老人を見上げ歩幅を合わす犬　千恵子
あの世までマイナンバーが付いて来る　庄二
よちよちと未来に向うベビー靴　志華子
周平の歩幅で江戸を垣間見る　星雨
風引くな無理はするなと母の文　満洲夫
趣味ひとつ抱いて歩幅が広くなる　堅坊
へこんでも明日へあすへと立ち上がる　朝子
死にたくないと読めるサインが遅すぎる　たもつ
入選と期待が没に紙一重　弘委智
正体を見せろと渡すリトマス紙　郁夫
紙漉きに愛をそそいでまだひとり　ばっは
冤罪が晴れたと朝刊が届く　一歩
十円を握り広場の紙芝居　実
足跡が喜怒哀楽を物語る　高志
許すこと覚えて人は丸くなる　野鶴
潔く枯れ葉が散って春を待つ　克己
メモ帳になって役立つ紙の裏　美智子
年金もいつの間にやら目減りして　和
うやむやには出来ぬ仏との約束　修
紙礫に石を包んだのが混じる　賢子
生存もうやむやのまま拉致家族　柳弘
うやむやの少し手前にある動悸　博
焼芋の薫り肥満を連れてくる　勝弘
すぐそこに喜寿がニタニタ笑ってる　正
気張ってもどんどん人に追い抜かれ

倉吉川柳会（鳥取）　竹信照彦報

文化祭ひねくれ松や土手かぼちゃ　石花菜
上天気菊花が薫る文化祭　重忠
文化祭猫も杓子も出品す　紀美恵
文化の日結婚式を挙げました　康子
秋深し手芸を競う文化祭　英子
北風に想う子のこと父母のこと　宣子
店先のムカゴ銀杏故里想う　由紀子
電話取る詐欺を連想して構え　龍枝
幸せを連想しつつ生きてゆく　智恵子
萩の町連想させる志士の顔　酔芙蓉
鳥取を連想させる梨砂丘　祐子
さわやかな風景画ふる里思う　風露
遷宮の餅に嬉しい五円玉　萩江
正直な人に褒められ有頂天　日出子

嬉しくてジャンプしたけど三センチ　茶子
初試合孫は空手で賞を取る　茂夫
寿のリングが光る薬指　悠子
逆らわずうなずくだけで従わず　美樹
失敗だハエ取り紙を踏んじゃった　次男
ねちねちは親譲りです許されよ　妻子
ねちねちと消えたお金の行方追う　瑞子
ねちねちとチリケヤイトが効いてくる　鬼一
大阪のオバハン飴を食えと責め　野蒜
ガム噛んでねちねち爺臭を消す　照彦

豊中もくせい川柳会（大阪）藤井　則彦報

失恋の深傷に涙呑んでいる　肇
包丁のリズムで虫の居場所知る　歌留多
大皿に主菜副菜てんこもり　ヨシエ
云い出せばポロポロ出るわ友の愚痴　真理子
お浄土が近づいて来る衣替え　千恵子
ポロポロの程度のミスは懐かしい　武彦
人だから口惜し涙を知っている　(永)玲子
オーブンの出番少ない老いの食　美津子
運命論素直に聞けぬ非業の死　健二
津軽弁リンゴの中で蜜になり　美佐子
まな板に女の業をのせて秋　雀舎
ひとり居のとっても暇な歳の暮れ　堅坊
コッツンコしても蟻さんもめません　勝弘
変身願望願望だけにしておこう　久子
四股踏んだ足の重みを知る土俵　靖鬼
マイナンバー呆け防止にと暗記する　巴子
校正のたびにポロポロ誤字脱字　則彦
ピーラーでわたしもひと皮剥いて欲し　求芽
妻の邪魔しない余暇なら許される　(岩)玲子
強がりの方も立つ時どっこいしょ　正彦
ポロポロと無駄にこぼしている命　美智代
紅葉の桜葉秋もありがとう　見清
わたしのことで一緒に泣いてくれている　葉子
天国で要らないものを捨てましょう　耕治
あれそれが増えて名刺が落ちていく　眞澄
ポロポロと落す涙がものを言う　比ろ志
出来具合グリルにまかせお茶にする　千鶴子
ぶつからず出来ますかいな良い仕事　徹

川柳花の輪（大阪）　岡本　薫報

霧かかり絵心さそう竹田城　やすの
手術して白内障の霧が晴れ　正太郎
見事です夫のいい分みな却下　あや乃
霧流れ墨絵のごとき吉野山　みちる
維新の党分裂騒ぎ五里霧中　昭好
人生の見事なジャンプまぶしすぎ　笑子
早出して渋滞に会う霧の中　泰子
きりがおり稲刈り遅れひと休み　陽
駆け落ちで見事添い遂げ金婚式　風
為せば成る見事な復帰金メダル　一幸
突然に山霧晴れて遭難碑　敬子
見事だなマイナンバーでもう詐欺を　勇太朗
同窓会見事なウソをぬり固め　薫

岩美川柳会（鳥取）　石谷美恵子報

鳥取の水と空気は日本一　圭一郎
オットット盃口を吸い寄せる　一瑤
根が太る時と信じて五七五　天翔
盃が天下無敵にしてくれる　完司
祝盃をかわすと皆んなお友達　重忠
親子でも金の貸し借り水臭い　蟹郎
嫁の座が根づいて家の主となる　節子
朝ドラの元気な女小気味よい　たぬ
大根も初冬の日差し太りだす　菖子
挿した木が根を張るように生きてやる　幸安
噂には根も葉もないが棘がある　敏子
金がないせめて根性身につける　一粋
私のプライドすぐに水に浮く　茶子
一杯の水から今日が動き出す　清帆
好感度根が正直で憎めない　弘子
雑草と日毎してます根くらべ　雅女
盃を伏せやり合ったなあ亡友よ　美恵子

川柳藤井寺（大阪）　鴨谷瑠美子報

紅引いて仕事モードに切り替える　フジ子
秋夜長グラスに紅が一人酒　絹子
一刷毛の紅でこけしの出来上り　美代子
幼児が口はみだして紅をつけ　シルク
紅をさす仕草の中に老いを見る　育代
キスはだめ今日は口紅忘れたの　光男
紅一点男社会に華添える　キーキー

七五三帰りは口紅とれている　瑠美子
馬役の爺の腰痛知らぬ孫　ちづる
隣国と歴史認識馬合わぬ　紀雄
駄馬に乗り妻は立派な騎手になる　一文
回転木馬ゆっくりこの世楽しまん　みつこ
真っ白な天馬ダーリン乗せてくる　六点
誘惑を馬耳東風と受け流す　彦弘
始皇帝語り継がれる兵馬俑　絹枝
美味しいもの一杯有って困る秋　喜代子
困ってる人に届かぬ福祉の手　扶美代
困ったなあ靴下はくの難しい　ヨシ枝
困ったら売れと汚いツボくれる　まつお
お金ならいくらあっても困らない　いさお
困ったら母の墓前へ聞きに行く　雅枝
困ったら外遊という逃げがある　一歩
貧乏の神居座っている我が家　壽峰
尻馬に乗って己を見失う　高鶩

西宮北口川柳会（兵庫）藤井　宏造報

壊さぬと前に進めぬ物作り　美津子
進んだが道間違えて尼になる　みよし
アメーバがボクになったと進化論　一徳
過疎進む村で神輿が泣いている　正和
そういえば恋心など捨てていた　ひとみ
信号が赤でも進む救急車　茂
ルーティンで意識集中五郎丸　盛夫
折れそうで折れぬ荒地の秋桜　淑子
折れた矢を集め明日への策を練る　千代
骨折損それでもきっと花が咲く　武臣
兄弟ゲンカ先に折れた子褒めてやる　利子
つっかえ棒折れて自分の程を知る　千賀子
折れておこう明日の事は分からない　てる
折れそうで折れない老母の得意技　弘子
堅物もたまには折れる娘の甘え　恭子
昨日折れた心鏡に起こされる　求芽
うっかりミス続き人間ヤメヨカナ　みつ子
余生です日日うっかりと送りたい　じろう
探してるいったい何を探してる　文香
親の愛親になるまで気づかない　りこ
うっかりは神のいたずらかもしれぬ　いわゑ
うっかりと忘れてましたバラの棘　哲男
いつからか陽の射す道を選んでる　キヨミ
目の前の問題をまず片づける　章子
生き上手輪のすみっこに席をとる　宏造
秋色は哀しくなるの赤い薔薇　紀華
謝罪会見滑らか過ぎて逆効果　浩司
少しほめられ夢の続きをふくらます　わこ
強情やねと言われハイと答えてる　勝弘
その時が来た雑巾をしぼり切る　美籠
感謝する心が幸を呼びよせる　光子
折鶴に願いを乗せて風を待つ　邦男
曲折の半生耐えた土踏まず　秋果
うっかりと忘れた事にしておこう　美香
思いやり三途の川までついて行く　伯備

川柳あまがさき（兵庫）大浦　初音報

笑い合い心の石が溶けて行く　和子
郵政株石より固く買っておく　柳明
やすやすといかぬ作句に四苦八苦　初音
独り寝を飲みたくさせる小夜しぐれ　晴美
目は確かだまされません撒き餌には　五月
ボケたふり以前はふりで今少し　富夫
石頭歳取るほどに堅くなり　千代子
目配りがだんだん利かぬまま老いる　よしひさ
名月に騙されました万歩計　歌留多
あったかく差し出す母の栗ごはん　雪菜
少女のようにはだしで走る砂けって　洋子
過ぎた恋のように旧姓キュンとくる　りこ
白と黒囲碁の世界にある深み　靖鬼
他人の美を探す瞳は美しい　哲夫
子を産めと非正規増やし無理を言う　健二
花道を走る歌舞伎の見せどころ　つね湖
休肝日5分で終る晩ごはん　紀恵
雲走るわたしも走る秋暮色　ヨシエ
秋風の悪戯泪もろくなる　美籠
輝いた過去をこっそり結びつけ　幸香
やすやすとわたしのハート盗ませぬ　宏造
庭の石動かしミミズ困らせる　耕治
道連れが出来てやすやす万歩計　里江
生活の知恵が言わせるありがとう　かずお
プロ野球終り静かな夜がくる　正和
ひいき目に見てもやっぱり低い鼻　茂

冷や飯になると旨さのわかる米　章子
あなたを見ているとまた泣いてしまう　ひとみ
昨日からひきずる疑問石になる　紀乃
次の世は母になりたし子沢山　紀華
苦むして息が聞こえる庭の石　祐康

京都塔の会　桝本　宏子報

ヤマかけた問題ズラリ並んでる　葉子
紅葉のざわめき大原嵯峨あたり　英旺
ホッとした矢先さらけ出す失言　文代
こころのケア鈍行で行くひとり旅　宏子
突然のハグ一斉に虫騒ぎ出す　義昭
マドンナが傘を忘れてきたらしい　牛延
矢印に導かれ行く検査室　悦子
お向いから松茸隣りから新酒　公子
イケメンの見合写真は次男坊　弘子
宇宙船地球ざわめく音を聞く　求芽
上を差す矢印だけを見て生きる　見清
おみくじは小吉でよし破魔矢買う　保子
しめしめと思える話落ちてない　万紗子
矢を放ちきなくさい世にする総理　忠子
ちちははをみとりわたしはケアハウス　啓子
明日への希望を紡ぐ今日のケア　則彦
セーターを着させ私の色に染め　洋志
健診はしめしめ大過なく終る　泰夫
キョウヨウもキョウイクもない日曜日　弘之
全身のケアをしている私の血　堅坊
ケアなんて五体鍛えてケセラセラ　ふりこ
艶のある疑似餌で男釣りました　朝子
儲かった当った良かった新企画　欣之
へそくりの音がしているあの花瓶　美津子
妻旅行しめしめ朝から呑んでいる　肇
肌のケア十年遅いと叱られる　福子
世話されて口癖になるありがとう　五月

わかあゆ川柳会（島根）　松本はるみ報

るんるんの弾む心を見透かされ　かつ子
弾む足今日はどこまで歩こうか　好栄
ぽんぽんと弾んだボールきっと来い　恵美子
バス旅行いねむりばかり横の席　ハル子
いねむりをしたくなるよな今日の雨　安子
弾む夢月へ飛ぼうか竹とんぼ　はるみ
いねむりの夢から覚めて一人言　英子
メロディーかリズムか分からぬまま弾む　昌

大山滝句座（鳥取）　新家　完司報

出来事の一つ不幸も幸福も　正人
幸せなことに借金まだできる　芳光
くろぼくの大地育むトムソーヤ　くにこ
日本の背骨が燃えてナナカマド　芳山
大丈夫まだいけますと酔うている　紀の治
意のままにさせたら恐い安倍思想　楓花
地に足をつけたままなり飛行せず　大鯰
やけくそで粗末な国になっちゃった　石花菜
小さめの御飯茶碗に代えて秋　小鹿
目が覚めた大丈夫この世であった　雄大
黙っている時は納得していない　美ッ千
温暖化地球にほっぺ付けてみた　幹啓
評論家その知恵いかに生かすべき　けいこ
大臣になればいろいろボロが出る　道唱
ゼロ歳も背中に背負う一二桁　規雄
恩師より老けてしまった同窓生　章子
通院の服もだんだん厚くなり　鈴野
寝息聞く息していると大丈夫　久子
松剪定終えて卒寿の誕生日　重忠
卒寿でも八十路に負けず生きている　恒子
切れそうな紐につながる家族たち　完司

翠　洋　会（大阪）　佐々木満作報

重責を果たしビールの美味いこと　昭
責任の重さ感じる子の未来　善之
重力の法則穴によく落ちる　理恵
若い二人重心の位置定まらぬ　捷也
通販にまたのせられた浪費癖　恭昌
旅プラン吊橋があるから止める　義
口込みの力宣伝上回る　公平
美女になる宣伝通り美女になる　富子
五郎丸囲み取材でポーズ見せ　紀子
悪がきがアイドル囲むクラス会　弘子
囲まれているのが子かと車停め　敬子
しがらみに囲まれ酸素不足です　蕉子
百歳を囲み絶えない笑い声　楓楽
引っ張ったら延びる私の生命線　希久子
宣伝のスイーツ長い蟻の列　志華子

ゆるキャラに泣いた子中で今バイト　げんえい
ギシギシと地球がきしむ音がする　浩二
エンブレムその後すっかり成りひそめ　舞夢
顔よりも鍛えています足の裏　日の出
ライバルの本音聞き出す酒を酌む　正雄
古希半ば傘寿目差して気構える　満作
わたしのステップでわたしの人生　すみ子
ときめきを秘めてステップ艶やかに　照子
軽やかなステップ揃い幕が開く　みつ子
ありがたいことだ平和のマンネリ化　眞澄

六甲川柳会（兵庫）　**市坪　武臣報**

人生は大事に送ろ楽しもう　照子
誰よりも自分にあまい俺がいる　盛夫
一夜漬詰めがあまくて煮くずれる　千賀子
甘い言葉似合わぬ顔で得してる　弘
スイーツはお止めなさいと血糖値　武彦
お別れ会初めて知った彼の徳　忠貞
妻ハンドル夫は横で脇に水　浩司
飲みすぎて腱鞘炎になる手首　茂
ここだけの話が飛び火炎上す　道子
反戦の炎へ無視の水かける　洋次郎
咲き乱れ炎の如き菊花展　洋一
ハッピーな気持を明日の糧にする　順子
ほいほいと孫のことならあまい爺　武臣
金婚式甘いもすいも満ちた日々　賀寿子
八十路すぎ老いのハンドルきしみだす　繁義
母さんに送ることばはありがとう　弘子
岸壁で送った女の面影が　じろう
愛されて愛することを知るヒト科　利子
ハンドルは孫に任した縄電車　敏夫
半衿を替えて母の香ゆらゆらと　夏子
大空へハンドル切った初飛行　美恵子
米びつへ今年も送る里の秋　和郎
燃えつきた炎静かな闇となる　能子
吊橋を渡り切ったらつく度胸　光久

川柳ねやがわ（大阪）　**籠島　恵子報**

透明に成り切れなくて影法師　柳弘
好きなひとが透明になっていく不安　亜成
感動の涙声出すラガーマン　尚世
一言のありがとうから知る絆　麗
へそくりも全部隠さず言う同居　ルイ子
血の通う医者はハートも診てくれる　朝子
拉致の国ほとほと困る不透明　堅坊
眼を合わせこころに添うてくれる医者　賢子
何よりのブランドですよ逆さ富士　かすみ
涙の数だけ幸せになれそうだ　能子
辛口の助言は大きな愛を知る　わこ
過疎の医者ノーベル賞はないけれど　哲子
能力を知っているから無茶はせぬ　光久
内儀さんと温度差知って良き相棒　一
世界遺産のカケラ拾って知識積む　寿子
案山子にはブランド品が似合わない　鈍甲
叱るより母の涙の一しずく　一江
神さまを宥めすかして生きている　祥昭
透き通る女の愛は寡黙です　仁
ありがとうをいっぱい言って逝きはった　恵子

きゃらぼく川柳会（鳥取）**成田　雨奇報**

金木犀甘い香りで彼岸告げ　あやこ
憲法無視日本国家の一大事　雨奇
今も又何かとせわしこの年で　かね子
夕焼け小焼けカラスが鳴いて柿の道　幹啓
コスモスが迎えてくれる無人駅　紀の治
病でもうまく生きれば芸術だ　桐子
風にのり小さな秋が巡りくる　恵子
鈴虫に夜とぎまかせ秋更ける　壽々子
天候とTPPで意欲失せ　卓雄
平凡が幸せだったさあ往こう　多美子
在宅のままで死にたいから起きる　千代
秋風や流れる浅瀬足枷に　初枝
七五三母の着物で愛らしく　治代
葬の列古い絆で粛々と　日枝子
脱ぎ切れぬ心の垢になやまされ　ひろこ
バレたかなドキドキするも一安心　ひろし
僕の歯は総入れ歯だと歯医者さん　宏之
世界今戦乱の季と申します　繭
ジュース飲み酒とは知らず踊り出す　美草
意気投合オーダーメード鍬と組む　美佐子
失意の日父の言葉が胸に咲く　瑞枝
一点を突き詰めて賞かっこいい　美穂
時時は雨も欲しいと庭木たち　ゆき

サークル樗欅（大阪）　松尾美智代報

結局はめでたくゴールインだとさ　房子
ラストダンス結局不発でした秋　義子
休肝日誘い断わり家で飲む　昌紀
見せ場だけ力を入れるクセがつく　久二雄
何気なく相槌打ったのが誤算　光久
結局は生まれたままで逝くのです　たもつ
生かされて生かされるって何だろう　加お里
少し休めと遮断機降りる散歩道　美智代
不器用に生きて消しゴム使いすぎ　扶美代
気疲れのせぬ末席が性に合い　千代
頼られている生き甲斐をくれている　蕉子
立ち話結局てんやもんにする　智恵子
結局は飛べぬあひるのままでいる　希久子
結局は自分悪いと知りながら　みつ子
鳩尾のあたりに内緒住まわせる　楓楽

岸和田川柳会（大阪）　佐藤幸子報

わかりやすい人だ味方になった敵　昭
お月さんと話せる窓を開けて置く　益祥
プライドがあるから私頑張れる　和美
認知症がらり人柄変えてゆく　一子
いい人ががらりと変わる曲り角　香代
プライドを捨てて治った肩の凝り　幸子
大喰いが自慢の種で出るテレビ　笑司
プライドを捨てれば見える人の道　大輔
育てあげた自慢の子等は皆異国　隆昭
癌告知人生がらり変わりゆく　珠子

スーパーの値引きサービスじっと待つ　忠太
防犯のカメラが犯人を狙う　紀乃
ニートの子昔自慢の種だった　久
がらり景色変えてしまったのは枯れ葉　信子
満ち足りて狙うものなし日々怠惰　弘子
狙ってる獲物しばらく遊ばせる　ふさゑ
本命のチョコであなたを狙い打ち　ひろ子
ひとり旅今宵の友はお月様　みつ江
弱点を狙い打ちする妻の武器　益男
戦争の出来る国ならテロの的　義泰
どさくさに共謀罪を狙うとは　律雄

川柳さんだ（兵庫）　田中章子報

メダカ食べまつりの金魚大きなり　宣子
人間の勝手で野良になるペット　一子
飼い主の趣味で腹巻きしてる犬　雅尚
愛娘吠えれば鬼も後ずさり　博
なんとまあペットフードの選り好み　耕治
癒されるペットロボット買う準備　つな子
愛犬と猫なで声で話す夫　好文
両の手を合わすと心温くなる　キヨミ
両手から溢れる愛が欲しい歳　喜久子
両手とも義手で頑張るアスリート　光久
思い切り両手を拡げ空を抱く　堅坊
異議なしと諸手を挙げる会議室　野薫
付かんでもいいとこばかり肉が付く　雄太郎
弱肉強食これが本音の世界観　徹
手料理はやはり血となり肉となる　ヨシエ
肉付けをして原案が光り出す　紀乃

肉付きがよいと言われて痩せられぬ　幸香
御仏に口説かれたなら逝くとする　美智子
口下手か思いの丈を詩に詠む　修平
不器用がひと言好きとつぶやいた　武彦
儲け話ソフトタッチでやってくる　正和
善い人を泣いて口説いて振り込ます　勝正
女なら見境もなく口説いたぜ　隆
まだ言えぬそっと背中に好きと書く　加代子
伸びきった義母の爪切る勇気出し　晶子
記念にと撮った写真が老けている　歳子
はんなりと舞うたり生き恥さらしたり　祐真由
お祈りがブレークしてる五郎丸　康
床の間で叙勲の額がいばってる　花門
おいしいねふたりで分けるおむすびも　ひとみ
美人薄命と言われたのに死なれへん　廣子
夫には言えぬお人と夢で逢う　茂山
姑と嫁のはざまで生きた長ーい日　婦美子
花のパリ命散らした多発テロ　順子
群れたがる寂しがり屋がまた一人　淑子

お知らせ

☆一月十五日締切（三月号発表分）より一路集の課題は3題から2題投句数も2句に、変更します。
☆愛染帖投句数も3句から2句に変更します。ご注意下さい。

句会名	日時と題	会場と投句先
ほたる川柳同好会	12日(火) 13時30分締切 朝・飾る・ほんのり	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール　蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2－4－1　水野黒兎
川柳塔すみよし	16日(土) 14時20分締切 頭・実る・ポケット	住吉区民センター 〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東2－4－9 古今堂蕉子
岸和田川柳会	16日(土) 12時30分開場 朝日・喜ぶ・美しい・ゼロ	岸和田市立福祉総合センター 〒596-0067 岸和田市南町9－7－818　藤井康信
川柳塔みちのく	16日(土) 17時締切 開ける・しずしず・干支	弘前市松森町73「レストラン・セーブル」℡0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛　℡0172-36-8605
川柳ねやがわ	17日(日) 13時締切 演技・一流・唄う	国松会館 〒572-0063 寝屋川市春日町9－9 高田博泉 内　川柳ねやがわ
川柳藤井寺	17日(日) 14時締切 福・共選	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0023 藤井寺さくら町2－2－201　高田美代子
豊中もくせい川柳会	18日(月) 13時45分締切 番号・開く・これから・自由吟	豊中市中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅　徒歩5分 〒561-0801 豊中市曽根西町2－8－4　江見見清
川柳さんだ	19日(火) 13時30分締切 一流・アイデア・祝う ほんのり・自由吟	キッピーモール6階（JR三田駅前） 「まちづくり協働センター」内のホール 〒669-1546 三田市弥生が丘5－2－4　堀　正和
川柳たちばな	20日(水) 14時締切 印象吟・客(互選)・自由吟	立花公民館（尼崎市塚口町3－49－7） 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造
和歌山三幸川柳会	23日(土) 12時30分開場 祝う・パラダイス	和歌山商工会議所　4階　第3会議室 〒640-8570　ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの市民川柳会	24日(日) 14時締切 和・酔う・ロビー	陵南の森公民館 近鉄「高鷲」駅北東　徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8　徳山みつこ
川柳ふうもん吟社	24日(日) 13時30分開場 紙一重・アッハッハ・しくじる	開発ビル　2F　ホール 〒689-0202 鳥取市美萩野2－171－3　中村金祥
南大阪川柳会	25日(月) 18時開場 銀行・凄い・照れる・雑詠	大阪市立住まい情報センター　5F　研修室 地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
京都塔の会	25日(月) 14時締切 エース・あちこち・顔	京都ハートピア　地下鉄丸太町駅⑤出口すぐ 〒600-8428 京都市下京区諏訪町通松原下ル 弁財天町328－202　都倉求芽

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

1月各地句会案内

（開催日順）

句会名	日時と題	会場と投句先
倉吉川柳会	5日(火) 14時締切 神・リズム・名乗る	正月句会　倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072－17 谷口次男
あかつき川柳会	8日(金) 14時締切 染まる・音・未来・時事吟	大阪保育運動センター（新谷町第1ビル 2F） 地下鉄「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2－312　前田紀雄
川柳塔さかい	8日(金) 13時開場 脈・惚れる・つばき(折句)	堺市総合福祉会館 〒590-0016 堺市堺区中田出井町3-4-31　村上玄也
川柳塔なら	8日(金) 11時開場 うれしい・明日・正	新年句会　ダイニング花小路2F　℡0742-23-9551 奈良市小西町23　近鉄奈良駅④番出口・徒歩1分 〒633-0054 桜井市阿部787　松本方　安土理恵
川柳大阪	9日(土) 14時締切 夢中・明日・飾る	地下鉄・長堀鶴見緑地線　京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区本通4－11－6　山崎珠生
城北川柳会	9日(土) 10時50分締切 決める・リセット・そろそろ 自由吟	新年句会　錦城閣（キャッスルホテル）3F 地下鉄・京阪「天満橋」駅 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14　江島谷勝弘
富柳会	9日(土) 14時10分締切 柱・誇り・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴町4－1－10 川柳とんだばやし富柳会　池　森子
川柳塔打吹	9日(土) 14時締切 希望・いつか・いよいよ	倉吉市上灘町9　上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637－3　牧野芳光 方 川柳塔打吹　事務局
川柳塔まつえ吟社	9日(土) 13時30分締切 初・注連縄・福・ひらひら	松江市　雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町笠浦222－1　相見柳歩
八尾市民川柳会	10日(日) 14時締切 狛犬・そこそこ・劈く・雑詠	八尾市渋川町　安中町集会所　1F JR八尾駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2－1－7　土田欣之
川柳塔わかやま吟社	10日(日) 14時10分締切 兼　題＝お年玉・サンプル・ぐるぐる 課題吟＝神社仏閣	和歌山ビッグ愛　〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 兼　題　〒640-8453 和歌山市木ノ本890-12 宮口克子 課題吟　〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桒原道夫
西宮北口川柳会	11日(月) 14時締切 自由・敬う・色分け・自由吟	西宮市立中央公民館　6F 阪急「西宮北口」駅南出口歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602　梅澤盛夫
川柳あまがさき	12日(火) 14時締切 食べる・話・たっぷり・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 阪急「武庫之荘」駅南へ200m 〒661-0033 尼崎市南武庫之荘5－20－14　加川靖鬼

柳界展望

★川柳研究社創立85周年記念川柳大会は、平成27年9月21日、タワーホール船堀にて開催。同人成績次の通り。

三太郎賞　高瀬　霜石
散るのではないぞ解き放たれるのだ

天　高瀬　霜石
左遷地じゃないさ別天地さホタル

★第3回川柳カード大会は9月12日、たかつガーデンで開催。同人特選。

谷口　義
大竹しのぶがその気になっている

★第39回寝屋川市民川柳大会は11月15日、国松会館で開催。同人秀句。

小林　わこ
辛口の助言大きな愛を知る

水野　黒兎
透明な子らの瞳に虹が立つ

伊達　郁夫
思い切り笑う涙を溜めている

北村　賢子
眼を合わせこころに添うてくれる医者

★南大阪川柳会五十周年吟行大会が11月23日、キャッスルホテル錦城閣で開催。同人秀句。

前　たもつ
川柳の息吹脈々半世紀

坊農　柳弘
跳ね過ぎたウサギ月から戻らない

前　たもつ
未知と言う最後の坂もまた楽し

宮西　弥生
ときめきの冷めないうちに着るピンク

★川柳塔みちのく100号記念誌上川柳大会には563名の参加があり、同人の特選次の通り。

石田ひろ子
生きていてよかったりんごとの出会い

佐藤　古拙
父もまたその父もまたりんご挽ぐ

柏原　夕胡
幸せになれそうりんご丸齧り

宮崎シマ子
りんご畑のじいちゃん禁煙したらしい

渡辺　富子
おかえりとりんごを乗せた母のメモ

りんご大賞　柏原　夕胡
幸せになれそうりんご丸齧り

りんご準大賞　古今堂蕉子
津軽三味聞いて優しくなるりんご

★川柳たけはら七〇〇号突破記念誌上川柳大会結果。投句者429名。本社同人の天位。

安土　理恵
逃げ道のところどころにあるお酒

★第2回松江川柳誌大会同人天位次の通り。

古今堂蕉子
余りにも静かな湖面罪でした

★第35回川柳塔鹿野みか月川柳大会は鹿野町総合福祉センターに於て11月29日開催。同人の成績次の通り。

第一位　前田　楓花
合戦の侍ペンを尖らせる

第四位　竹村紀の治
合掌のかたちで白くなってゆく

第六位　福西　茶子
神の名で地球崩している悪魔

第七位　竹信　照彦
噛みついた沖縄突き放す政府

★第23回和歌山県川柳大会は11月29日、JA和歌山で開催。同人の天位。

和歌山県川柳協会会長賞
磯部　義雄
生きていることが一番秋日和

産経新聞社賞
宇野　幹子
カラス瓜夕日の中で風になる

和歌山県市議会議長賞
武本　碧
九条が揺れて平和がきしみ出す

和歌山県議会議長賞
石田ひろ子
雲ふわりアンパンマンの孫が来た

和歌山県知事賞
上田　紀子
私を忘れた母は宇宙人

☆木本朱夏さん（副理事長）は、上方芸能198号「関西芸能文化圏・この人の日々」に紹介された。

▽ご芳志御礼△

○　藤田武人さん（同人・大阪市）より金一封拝受。

▼訃　報▲

■西内朋月さん（参与・川西市）は病気療養中のところ11月22日逝去。享年八十三。家族葬にて見送られた。

■牛尾緑良さん（元同人・和歌山市）は病気療養中のところ12月6日逝去。享年七十四。

▽お詫びして訂正△

▼12月号＝P13下段24行目、黒田節ひと節待って年の暮→舞って。P27上段9行目、すけずけと飾り気のない暖かき者→ずけずけと飾り気のない暖き者。P64下段19行目、空白に少し愛憎入れて春→愛情。

▽新誌友紹介△

尼崎市　藤田　雪菜　紹介者　長浜　美籠
尼崎市　永田　紀恵　紹介者　長浜　美籠
和歌山市　倉橋　悦子　紹介者　木本　朱夏
弘前市　工藤　京子　紹介者　須郷　井蛙
門真市　川西　重徳　紹介者　川端　一歩
松山市　田辺　幸恵　紹介者　古手川　光
松山市　郷田　みや　紹介者　中居　善信
松山市　柳田かおる　紹介者　中居　善信
山鹿市　中山　好打

常任理事会＝12月7日(月)①平成29年の常任理事会本社句会の日程②第22回川柳塔まつりについて③高野山合祀報告④定例確認事項⑤各部報告事項⑥その他

次回＝1月7日(木)AM10時～

高野山川柳塔碑合祀
ご芳志御礼

杉野　羅天　様
仁部　四郎　様

新同人紹介

池田　たか子
―蘭幸・完司推薦

工藤　千代子
―蘭幸・完司推薦

田中　恵
―蘭幸・完司推薦

永見　心咲
―蘭幸・完司推薦

藤井　智史
―蘭幸・完司推薦

前田　恵美子
―蘭幸・完司推薦

61

発表誌を楽しむ（2）

何事を行うにしても、気力と体力が充実していなければ思うような成果は得られません。前号で「発表誌を読むときは感動した句に鉛筆でチェックしながら」と述べました。が、コンディションが良くないと感覚も鈍くなって感動そのものが得られず、優れた句を見逃すかもしれません。

気力と体力に加えて時間的な余裕も欲しいものです。お茶や珈琲でもいただきながら「今日いちにちはこの本を楽しもう」とゆったり向き合うのがベストでしょう。

このようにして得た◎印の句は、あなたが感動した句ですから、あなたの感覚や波長に合っているのは間違いありません。句会や大会が迫っているのに創作意欲が湧いてこないときなどに再読すると、「やっぱり川柳っていいなあ」と気分が高揚して、だんだん「ヤル気」が湧いてくるでしょう。

また、もっと余裕がありましたら、◎印を付けた句を抜粋してノートに記録することをお勧めします。そのときには、「作品」「作者名」「掲載誌名」、この三つは必ず記します。パソコンに入力してもいいのですが、手書きのほうがリズム感と一緒に記憶に残るのではないかと思います。

このようにして積み重ねた記録は、あなたのエネルギーの備蓄倉庫のようなもの。再読するたびにチャレンジャーの意欲が甦るでしょう。勿論、それ等の句を真似するのではなく、その作品が持っている力から「刺激を得る」のです。

さて、今回も「第三回春の川柳塔まつり誌上大会」にて選者二人共に抜けた句をピックアップしました。第四回の応募に向かって刺激材料としてください。

課題「ポーズ」川上大輪選・木本朱夏選・ダブル入選句。

悲しいねレンズ向けると笑う子よ　真島美智子
美しいポーズあちこち無理をして　田村ひろ子
服従のポーズ尻尾を折りたたむ　木下　草風
組み替えて女足から出す答え　藤村　容子
観覧車ポーズ決まらぬままの恋　水津加央里
中流のポーズを笑う預金帳　原田すみ子
ポーズとるこんな感じでいいですか　中村　伸子
転んで独り立ち上るのも独り　森中惠美子
要注意単なるポーズかも知れぬ　土居　直子
嘘だっていいのにポーズさえみせず　江見　見清
青空に勝利のポーズ干してある　西村　寛子
つきあげた右手に言葉などいらぬ　村山　浩吉
三猿のポーズで妻は不意を突く　村上　直樹
騙されないぞ原発の死んだふり　竹村紀の治
威嚇するポーズとしては完璧よ　ひとり　静
ハイチーズよく化けたねと云う鏡　堀　冨美子
Vサインもうやめちゃった歳だもん　穂口　正子
含羞草のポーズで次の策を練る　福本　清美
善人のポーズ仮面がずれてくる　中前　幸子
にんげんの証が欲しいハイチーズ　伊賀　武久
ポーズみな老いを背負った同期会　政岡日枝子
仁王さまお疲れでしょうそのポーズ　古手川　光
颯爽と周回遅れポーズつけ　京谷　文子

新年おめでとうございます

西宮北口川柳会

例　会　毎月第２月曜日　午後１時　西宮市立中央公民館
（阪急電鉄神戸線西宮北口下車　南出口徒歩３分）
プレラにしのみや４F

投句先　〒663-8112 西宮市甲子園口北町27－4－602　梅澤盛夫

西口いわゑ
奥田みつ子
秋元てる
浅野房子
足立茂
石原歳子
市坪武臣
井上じろう
上垣キヨミ
上田ひとみ
梅澤盛夫
江島谷勝弘
緒方美津子
長川哲夫
大坪一徳
奥澤洋次郎
加川靖鬼
片山忠
亀岡哲子
河井庸佑

北川美香
北野哲男
久保田千代
黒田能子
蔵田光子
小林わこ
酒井紀華
酒田浩司
白川淑子
竹山千賀子
田中章子
寺井秋果
都倉求芽
富永恭子
富山ルイ子
中西豊子
長浜美籠
七反田順子
難波伯備子
野口晶子

能勢利子
春城年代
福島弘子
藤井宏造
藤岡りこ
藤本直
藤原みよし
古川奮水
堀正和
牧渕富喜子
松井文香
松下比ろ志
丸山一之
山口光久
山崎武彦
山田耕治
山田婦美子
山本義子
両川無限

新年おめでとうございます

川柳塔すみよし

会長　鶴田遠野

例会　毎月第４土曜日（但し会場の都合で変更になる場合もあります）

浅井公平
浅野民子
荒川繁子
板尾岳人
石橋直子
石丸正太郎
磯島福貴子
宇都満知子
井丸昌紀
岩崎公誠
内田志津子
大内朝子
江島谷勝弘
榎本日の出
榎本舞夢
太田としお
大川桃花
大治重信
大隅克博
奥村五月
大谷篤子
大西晴雄
奥田チヱコ
吉川哲矢
河井庸佑
川端一歩
北村賢子
阪井美世子
甲田靖子
古今堂蕉子
坂裕之
佐々木満作
澤田定子
柴本ばっは
鈴木いさお
高杉千歩
立石郁子
田中廣子
田中ゆみ子
谷川安昭
鶴田遠野
土井舞蹴
中井崩
中島栄子
長浜美籠
西出楓楽
萩尾紀子
橋本典子
東山守善
深町敏晴
藤井宏造
藤島たかこ
藤原昭
坊農柳弘
増田啓次
増田隆昭
松崎大輔
三宅保州
宮崎シマ子
宮村満寿恵
宮本かりん
村田恵子
森松まつお
森松芳香
矢倉五月
山岡冨美子
山根妙子
山本半錢
横山里子
若本安代
荒川博行

新年明けましておめでとうございます

川柳あまがさき

会長　長浜美籠

足立　茂
石川きよみ
上垣キヨミ
江見　見清
大岸　和子
岡部　美浪
片山かずお
北川　純
九鬼　洋子
坂本　晴美
谷　祐康
都倉　求芽
永田　紀恵
藤井　宏造
古川　奮水
前川千津子
宮崎　咲貴
山口ヨシエ
渡辺　柳明

足立つな子
入江　修平
上田ひとみ
大浦　初音
扇野よしひさ
奥村　五月
川端　蔦子
北野　哲男
小山　紀乃
酒井　紀華
谷城太郎
鶴田　遠野
藤田　雪菜
堀　正和
松村　里江
溝端　利夫
山本　幸香
新井つね湖
市坪　武臣

内田美也子
阿野寿美子
長川　哲夫
加川　靖鬼
河津　正治
木山歌留多
酒井　健二
竹林千代子
玉村　幸子
中井　楓花
野口　晶子
平井　富夫
藤岡　りこ
松下比ろ志
三好　京江
山田　耕治
矢野　矢薫

例会　毎月第二火曜日
場所　尼崎女性センター・トレピエ

あけましておめでとうございます

ほたる川柳同好会

水野　黒兎
小牧　信男
藤原　桂子
寺井　柳童
中山　春代
宮田　輝
神野　宇乃子
池田　純子
貝塚　正子
上田　陽子
南　正代

藤澤　長一
高嶋　勝
栗田　久子
田中　螢柳
米原　雪子
多田　契子
松尾　美智代
荒木　郁子
樋口　順子
岡田　守啓
上山　堅坊

句会　第二火曜日　午後一時より
勉強会　第四火曜日　午後一時より
場所　豊中市蛍池公民館

おめでとうございます

河内長野川柳協会

顧問　板尾岳人

長柳会・プラザ川柳

会員有志

水谷正子
山岡冨美子
村上直樹
坂上淳司
黒岩靖博
山室光弘
木見谷孝代
石田隆彦
梶原弘光
谷久美子
松岡篤
辻村ヒロ
大島ともこ
藤塚克三

川柳葦群

■主な内容
同人作品「葦群抄」
近詠作品「葦の原」
作品鑑賞　新家完司・大西泰世
柳論　エッセイ　句会報　ほか

■A5版　37頁　季刊（年4回）
年間 4000円（〒込）
発行人・編集人　梅崎流青

〒832-0087 福岡県柳川市七ツ家426　TEL.0944-72-6046
振替口座　01760-2-120254
E-mail　house7@cello.ocn.ne.jp

あけましておめでとうございます

翠　洋　会

浅井　公平　　高杉　千歩
安土　理恵　　高橋　敬子
安福　和夫　　谷口　　義
阿部　紀子　　辻内げんえい
井上　照子　　津村志華子
岩本　浩二　　寺井　弘子
榎本日の出　　西出　楓楽
榎本　舞夢　　能勢　良子
大川　桃花　　原田すみ子
大久保眞澄　　藤井　正雄
太田　　昭　　前川　善之
奥田みつ子　　山本希久子
古今堂蕉子　　横山　捷也
小谷　集一　　米田　恭昌
佐々木満作　　渡辺　富子

あけましておめでとうございます

川柳塔鹿野みか月

会　員　一　同

〒689-0423　鳥取市鹿野町中園180

森　山　盛　桜

あけましておめでとうございます

きゃらぼく川柳会

会　員　一　同

事務局　〒683-0804 米子市米原5−1−3−304
竹　村　紀の治

完売御礼！

川柳の理論と実践

ご好評いただいております「川柳の理論と実践」につきましては、２刷も完売いたしました。まことにありがとうございます。

３刷は「改訂版」として計画を進めていますが、発刊日は未定です。

今後ともご支援下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597　新家完司
TEL0858-52-2414　FAX0858-52-2449

あけましておめでとうございます

竹原川柳会

会長　小島蘭幸

会計　岩本笑子

石原淑子

土井輝恵

若年幸子

上村夢香

ほか会員一同

明けましておめでとうございます

富柳会

池森子　肥山一文

中井アキ　石橋未知

中崎深雪　久世高鷲

古田千華　井澤壽峰

山野寿之　田嶋伸雄

関よしみ　沢田和子

中村恵　松本正治

栃尾奏子　岸本慶子

藤田武人　福元鶴子

林澄子　岡本静子

前田登子　都筑文重

河野彦次　他一同

あけましておめでとうございます

川柳塔さかい

会長　河内天笑

石田ひろ子
梅木澄空
榎本舞夢
太田扶美代
奥時雄
河内月子
古手川光
小山永久
澤井敏治
島田誠一
田中ゆみ子
田部和幸
遠山唯教
内藤憲彦
原清晋
伏見雅明
増田わこう
松浦英夫
向井清
矢倉五月
山本半錢
若本安代

出海素頓馬
榎本日の出
太田としお
大谷篤子
柿花和夫
源田八千代
小林若芽
齋藤さくら
柴本ばっは
髙木世紀子
谷川憲
津田シルク
徳山みつこ
中野健吾
西村りつえ
日野愿
増井ヨシ枝
升成好
宮本かりん
村上玄也
山岡冨美子
米澤俶子

明けましておめでとうございます

川柳ふうもん吟社

会長　両川洋々

会員一同

事務局：〒689-0202 鳥取市美萩野2丁目171-3
中村金祥
TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日　13:00～

会　場：砂場隆浩事務所（鳥取市片原1丁目107）

賀　正

川柳ねやがわ

会員一同

年　賀

川柳藤井寺
川柳みささぎ

代表 髙田美代子　会員一同

謹賀新年
川柳塔まつえ吟社

主幹 石橋 芳山

同人一同

事務局　〒690-0001 松江市東朝日町206−7
TEL.090−2003−5846　石橋芳山方

明けましておめでとうございます

八尾市民川柳会

会長　土田　欣之　　会員一同

あけまして
おめでとうございます

大阪川柳人クラブ

会員一同

会長　礒野いさむ
副会長　板尾　岳人
　　板野　美子
幹事長　竹森　雀舎
事務局　伊達　郁夫
会計　中川　隆充

あけましておめでとうございます

サークル　檸　檬

浅野　房子
井丸　昌紀
太田　扶美代
奥田　みつ子
片岡　智恵子
久保田　千代
古今堂　蕉子
長浜　美籠
西口　いわゑ
西出　楓楽
西村　哲夫
前　たもつ
松尾　美智代
山口　光久
山本　加お里
山本　希久子
山本　義子
吉村　久仁雄

あけましておめでとうございます

おかげさまで90周年を迎えました

いずも川柳会

会長　竹治　ちかし

会員一同

事務局　〒693-0006　出雲市白枝町４２３　伊藤玲子方

TEL 0853-23-3200

新年明けましておめでとうございます

城北川柳会

伊達郁夫

近藤正

江島谷勝弘

小林杁香

永井縣筰

綱島榮子

平嶋美智子

藤原千恵子

おめでとうございます

川柳大阪

会員一同

新年おめでとうございます

はびきの市民川柳会

会長　塩儁　敏・会員一同

あけましておめでとうございます

川柳塔みちのく

主幹　福士慕情

季刊柳誌「川柳塔みちのく」100号を記念し、誌上川柳大会を企画しております。奮ってご参加ください。

事務局　〒036-8275 弘前市城西1－3－10
稲見則彦（☎0172－36－8605）

明けましておめでとうございます

豊中もくせい川柳会

会員一同

謹賀新年

川柳塔唐津

岩崎實
吉冨節子
坂本蜂朗
仁部四郎
山口高明

あけましておめでとうございます

川柳さんだ

会員一同

あけましておめでとうございます

創立50周年吟行大会ありがとうございました

南大阪川柳会

会員一同

住まいの情報センター（地下鉄谷町線・堺筋線 天神橋６丁目駅③出口）
原則として第４月曜日・６時から

謹賀新年

和歌山三幸川柳会

主幹　三宅保州
理事長　古久保和子
副理事長　喜田准一
副主幹　磯部義雄
〃　川上智三
理事　田中みね
〃　玉置当代
〃　楠見章子
〃　武本碧
〃　森口美羽

事務局　〒640・8111
和歌山市新通七―一七
古久保和子方
TEL 073・423・8930

例会　毎月第四土曜日　12時30分
和歌山商工会議所
「バス停　和歌山市役所前」

謹賀新年

和歌山県川柳協会

会長　三宅保州
副会長　川上大輪
[お問い合せ先]　事務局長　古久保和子

〒640-8111 和歌山市新通7丁目17
TEL 073－423－8930

あけましておめでとうございます

鳥取県川柳作家連盟

会員一同

連絡先　〒680-0843 鳥取市南吉方3丁目364
安田方　春木圭一郎
TEL 0857－24－2834

川柳茶ばしら

謹賀新年

早川遡行
板山まみ子
脇田雅美
金子美千代
鶴留百合
関本かつ子

季刊

「川柳展望」

A5版　一五二頁
誌代　四、九六〇円（年間）

☆見本誌進呈いたします。

TEL 072・649・5226
FAX 072・649・2334
〒567・0009
茨木市山手台4―6―3―101

川柳展望社

迎春

川柳ささやま　一同

代表　北澤稠民

あけましておめでとうございます

京都塔の会

会員一同

あかつき川柳会

〔鶴彬をはじめ先覚川柳人の反戦平和と社会風刺の精神を現代に生かす(**会則**)〕

川端一歩
森村美花
近藤正
岩佐ダン吉
荒川鈍甲
江島谷勝弘
加山勝久
阪井美世子
塩田一行
杉谷和雄
鈴木いさお
中里はこべ
西川ひろし
前田紀雄
松本千鶴子
塩満敏
宮﨑シマ子

〈句会〉

◆毎月②㈮ 13時開場
◆(財)大阪保育運動センター

〈会報〉

◆「あかつき」(月刊 300円)

明けまして
おめでとうございます

六甲川柳会
メダカの学校

世話人

井上忠貞
梅澤盛夫
輿水弘
竹山千賀子
山﨑武彦

大阪川柳の会

事務局　〒532-0025　大阪市淀川区新北野1-3-4-706　本田智彦 方
TEL 06（6303）7297

代表
礒野いさむ

世話人
足立淑子
井上かれん
池田武彦
碓氷祥昭
大堀正明
竹森雀舎
伊達郁夫
内藤光枝
藤井満洲夫
本田智彦
森口美羽
安井英華

◎会場　駅前第二ビル5階（大阪市北区梅田1-2-2-500）　※開場　午後1時

吉祥

川柳塔なら

会長　中原比呂志
副会長　安土理恵
副会長　飛永ふりこ
会計　安福和夫
世話人
居谷真理子
宇賀史郎
大久保眞澄
加門萌子
高畑おたか
仲西賛郎
中堀優
長谷川崇明
森中博一
渡辺富子

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局　〒640-8482 和歌山市六十谷1188－14　川上大輪 方
電話・FAX 073－462－7229

賀　正

川柳塔社

名誉主幹　河内天笑

主幹　小島蘭幸

理事長　新家完司

副主幹　川上大輪

副理事長　木本朱夏

副理事長　鶴田遠野

常任理事　足立茂

居谷真理子　柿花和夫

片山かずお　久保田千代

古今堂蕉子　坂裕之

佐々木満作　島田誠一

鈴木いさお　長井善純

藤井宏造　坊農柳弘

松原寿子　水野黒兎

森松まつお　山﨑武彦

江島谷勝弘

川柳塔社常任理事会

編集後記

★おみくじにやがてとあってよろず吉　薫風

★「川柳塔の川柳讃歌」を御執筆戴いている木津川計先生は、「上方芸能」発行人であり、編集人である。私も「川柳人生劇場」を連載させて頂いているご縁で、先生からご丁寧な御挨拶状を戴いたのが昨年一〇月。今年五月の二〇〇号をもって終刊されるとのこと。

★終刊を決意されたのは「①読者の高齢化による定期購読者の減少②発行人たる私が老いたことです。創刊時三三歳でしたのに八〇を数えたのです」。一九六八年四月の創刊以来四八年。人間ならば働き盛りの壮年である。大阪の文化向上のために警鐘を鳴らし続け、発言されてこられた先生。先生の前にはまた新しい世界が広がることでしょう。「八十歳さあこれからが反抗期」江原とみおさんの川柳を、先生にお贈りしたいと思います。

★インスピレーション・ナビの楽しいイラストの数々は、平本勝彦先生の作品。インターネットのブログ「高瀬霜石とけなげ組と平本霧石人」は毎日更新中。ぜひ覗いてみてください。思わず頬が緩むこと間違いなし。

★科学に「しきい値」という概念がある。金属を折り曲げ、何回か繰り返すと突然折れる。また何種類もの薬品を水に溶かして熱するとある温度で突然変化が起こる。この変化が起こる点をしきい値といい、これを超えると元には戻らない。

★しきい値は科学のみならず、個人の生活、環境問題、社会現象にも見られるという。健康に良いと言われる運動もやりすぎると「あっ痛い」と、しきい値を超える。腰痛はしきい値が近いという警告だそうだ。「過ぎたるは及ばざるがごとし」ほどほどの運動と川柳で今年も元気に過ごしたいものです。（朱夏）

○大阪のシンボルタワー通天閣が、今年1月に60週年を迎える。

お祝いのムードを高めるため、現在の展望台の上部に、新たな展望台「展望パラダイス」を設置、避雷針も高くして、108メートルにするという。（現在は103メートル）

さらに、還暦に着るちゃんちゃんこをイメージして、赤を基調にしたネオンにすることも計画されているらしい。

○初代通天閣は、明治45年に建築。パリの凱旋門とエッフェル塔を合わせた形で人気を呼んだが、昭和18年に火災にあい、戦時中のこともあり鉄材供出の為ため解体された。戦後、再建を求める声が地元より上がり、31年に2代目タワーが完成した。

○ハルカスには及ばないが、展望パラダイスから大阪を見渡し、ビリケンさんに触れ、帰りに名物串かつで生ビールというのは如何です？（まつお）

ひとこと

「調心」「調息」「調身」

定年後すぐ、太極拳と川柳を始めて8年目。現在は二段位とB級指導員資格を持っています。

太極拳人口は約一〇〇万人。心身を健康にする全身運動です。

太極拳の要諦は、

「調心」雑事を忘れ無心に動く。

「調息」十分に吐いて深く呼吸。

「調身」姿勢を正し連綿と動く。

3つが調うと全身の気の流れが良くなり心身のゆとりが得られます。

具体的には、手と足と腰を常に連動させながら二十四個の動作をゆっくりと連続して行います。一人で演武が出来るには約二年は掛かります。稽古を重ねて行くうちに、柔軟な体と持久力も得られます。課題が次々と生れ、鍛錬に終りのない生涯スポーツです。

優劣を競わず老若男女が体調に合わせ無理なく続けることが大切。また「頭でなく体で覚えろ」「ヤル気とネバリだ」とも言われます。何だか川柳に似ていませんか？

（内藤　憲彦）

作品募集

3月号発表（1月15日締切）

川柳塔（8句）　小島蘭幸　選
水煙抄（8句）　川上大輪　選
愛染帖（2句）　新家完司　選
檸檬抄「愛着」（2句）　（三浦強一　長浜美籠　共選）
インスピレーション・ナビ（2句）　大西泰世　選
一路集（2句）　「通う」　内藤憲彦　選
　　「凄い」　上垣キヨミ　選
初歩教室「単純」（3句）　山口光久　担当

4月号
檸檬抄「打診」
一路集「うなずく」「蛸」
初歩教室「鏡」

本社1月句会

とき　1月7日㈭　13時開場・13時40分締切
　―開場時間、締切時間を変更しています。ご注意下さい。
ところ　アウィーナ大阪　4階　金剛
　天王寺区石ケ辻町19―12　電06・6772・1441
おはなし「親ごころ　子心」　小島蘭幸氏
席題「　」　村上玄也　選
兼題「これから」　山田葉子　選
　「甘い」　坂裕之　選
　「踊る」　池森子　選
　「ダッシュ」　村上直樹　選
　「本音」　新家完司　選
　（各題2句以内）
会費　1000円　投句料　500円（切手可）

本社2月句会

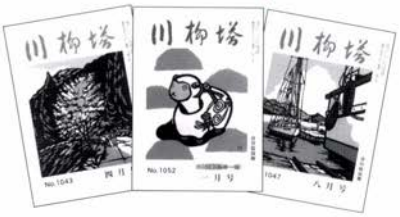
4-5日（木）午後1時から
兼題「端」「あほらし」「攻める」「セット」「上等」

第34年度 夜市川柳募集

第8回「嵌める」　長谷川博子　選
ハガキに3句　**1月20日**締切
投句先　〒593-8305　堺市西区堀上緑町2-16-3
河内天笑方　**川柳塔さかい**

定価　八百円（送料94円）
半年分　五千円（送料共）
一年分　九千八百円（同）
二〇一六年（平成二十八年）一月一日発行
発行人　小島和幸
編集人　木本朱夏
印刷所　美研アート
〒543-0052　大阪市天王寺区大道一―一四―一七　花野ビル201号室
発行所　川柳塔社
電話（〇六）六七七九―三四九〇番
振替　〇〇九八〇―四―二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等
あなたの思いをかたちにします。



美研アート
〒530-0022 大阪市北区浪花町9-4
TEL (06) 6372―1178
FAX (06) 6372―1196
E-mail：bikenart@ea.mbn.or.jp

川柳塔のホームページアドレス　http://www.senryutou.com/

昭和四十一年一月九日 第三種郵便物認可
平成二十八年一月一日発行（毎月一日発行）
刊行会三三三 通巻一〇六四号 川柳塔 一月号
定価 八百円（送料 九十四円）

川柳募集

「ごま」にまつわる
あなたならではの
一句を募集します。

・兼題　「ごま」川柳塔社主幹 小島蘭幸　選
・応募要領　郵便ハガキに2句、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記してください。
入選20句、準特選2句、特選1句に賞品。
・発表　本紙4月号にて発表いたします。
・締切り　2016年1月31日（当日消印有効）
・投句先　〒543-0052　大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201号室
川柳塔社　ゴマ川柳係　宛

オニザキの
つきごま
手作りの味わいに
こだわり続けて
六十年

株式会社 オニザキコーポレーションセールス
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング
TEL 0120-30-5050

心を尽くし　思いを尽くし　知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団　湯川胃腸病院

消化器科　放射線科　脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設

大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2　TEL 06-6771-4861
http://www.yukawa.or.jp

雑誌 05703－1